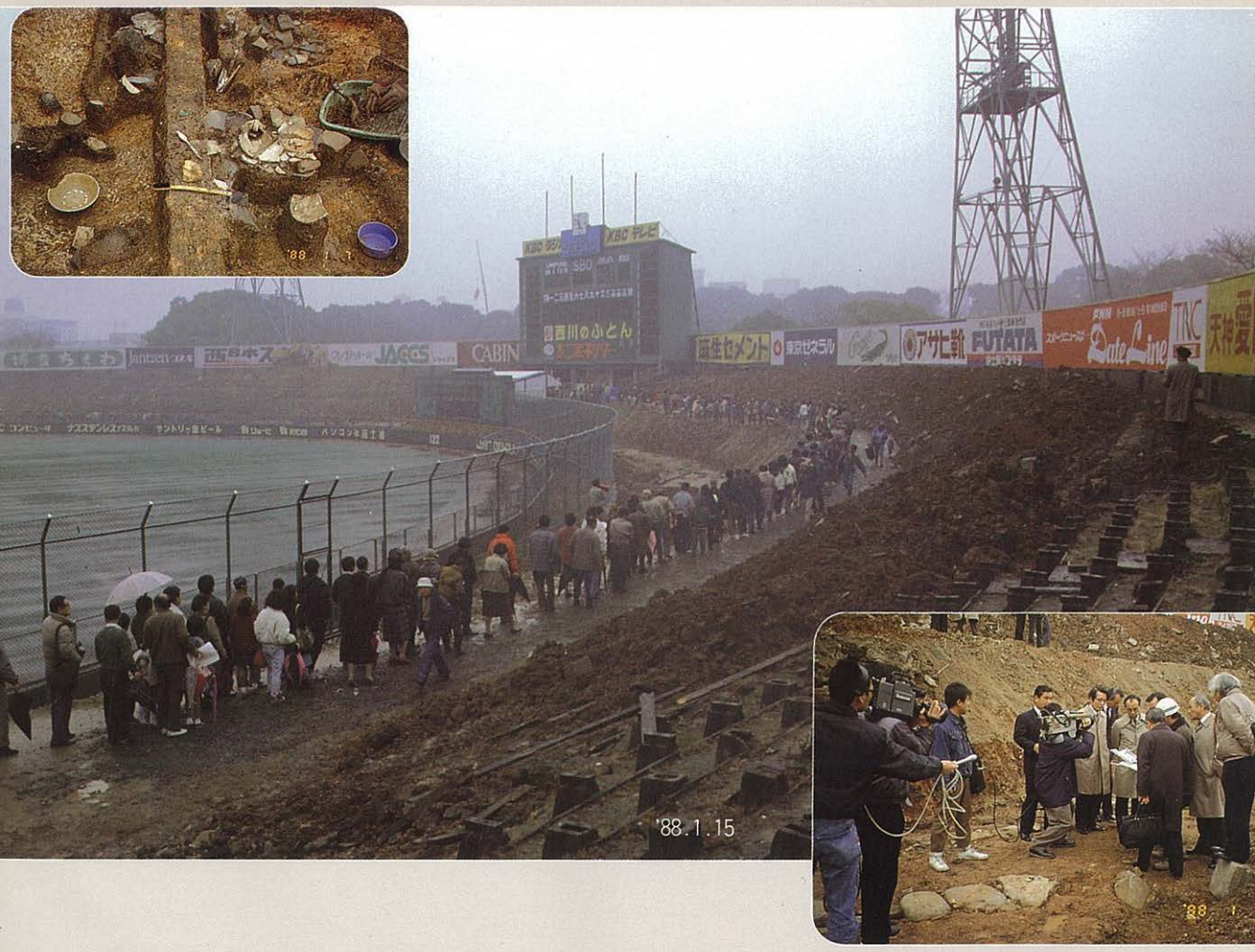
福 岡 市

埋蔵文化財年報 Vol. 2　1987年度



1 9 8 9

福岡市教育委員会

福岡市教育委員会
No.
埋蔵文化財センター

福岡市の概要

位置

方　位	地　点	東　経	北　緯
市役所(本庁)	中央区天神一丁目8-1	130°24′15″	33°35′14″
極　東	東区大字蒲田字別府の浦	130°29′50″	33°38′34″
極　西(陸部)	西区大字西の浦字外蒔	130°12′00″	33°38′11″
極　西	西区大字小呂島字向	130°02′06″	33°51′49″
極　南	早良区大字板屋字苦笑	130°22′50″	33°25′17″
極　北(陸部)	東区大字三苫字牧山	130°25′13″	33°42′33″
極　北	西区大字小呂字向	130°02′17″	33°52′17″

※福岡市勢要覧－昭和62年度－による。

昭和62年度福岡市当初予算

一般会計	4,199億4,500万円
特別会計	2,308億8,905万5千円
企業会計	1,999億3,578万9千円
合　計	8,507億6,984万4千円

昭和62年度埋蔵文化財関係予算

開発事前審査費	405万2千円
公共事業関係調査費	3億6,845万9千円
民間・国庫補助関係調査費	2億　201万4千円
合　計	5億7,452万5千円

面積，人口，土地利用状況（有租地面積）など

区	面積(㎢)	世帯数	人　口	有租地総面積(千㎡)	宅地				農地		山林	原野その他	免税点未満
					総数	商業地	工業地	住宅地	田	畑			
全　市	337.12	452,481	1,195,256	185,978	74,226	8,247	8,545	57,435	30,447	10,987	51,475	13,441	8,618
東　区	63.25	85,526	230,761	33,351	16,859	438	4,253	12,168	4,281	2,523	5,124	4,565	1,160
博多区	31.30	66,820	163,438	17,107	11,595	3,016	3,345	5,238	1,494	661	1,263	2,090	233
中央区	14.84	64,019	142,313	7,947	7,438	3,008	732	3,698	3	8	253	243	4
南　区	16.19	82,338	225,635	18,777	12,604	705	44	11,855	1,592	446	2,274	1,827	291
城南区	31.05	50,930	122,716	9,679	6,434	231	－	6,203	528	226	1,710	779	133
早良区	96.23	62,947	182,995	47,365	10,191	538	－	9,653	8,195	772	25,122	3,084	2,246
西　区	84.26	39,872	127,398	51,757	9,101	311	171	8,619	14,354	6,350	15,728	6,218	4,552

※人口は昭和62年3月1日現在の推計人口。福岡市勢要覧－昭和62年度－による。

横山浩一殿寄贈

序

昭和42(1967)年、社会教育課に非常勤の専門職員1名が1名配置されて、はや21年が経過しました。その後、徐々に専門職員が増員され、昭和60年には、埋蔵文化財行政の担当課として埋蔵文化財課が発足しました。62年度には、関係施設を含めると専門職員も31名を数えるようになりました。

しかし、本書にありますように、埋蔵文化財の周知化がすすむにしたがって、担当課の処理すべき事業量は急増しています。それは、福岡市における近年の開発事業の増加もさることながら、開発関係者各位の文化財保護にたいするご理解が深められてことを示していると思います。

ここに、昭和62年度の埋蔵文化財保護行政の概要を提示し、関係各位のより一層のご協力をお願いいたします。

平成元年3月30日
福岡市教育委員会
教育長　佐　藤　善　郎

例　言

1．本書は、教育委員会埋蔵文化財課が昭和62年度におこなった事業のうち、開発事業に伴う事前審査と発掘調査業務について、概要を記したものである。
2．本書の作成は、63年度事前審査担当（小畑．米倉．常松）がおこない、63年度担当主事（柳沢）がまとめた。なお、各調査の概要は、それぞれの担当者が執筆した。

目　次

I　開発事前調査……1
　1）昭和62(1987)年度の概要……1
　2）試掘調査一覧……5
II　発掘調査……14
　1）昭和62(1987)年度の概要……14
　2）発掘調査一覧……16
　3）各調査の概要……18
附　昭和62年(1987)度刊行の報告書一覧……69

昭和62（1987）年度の組織

- 文化部
  - 埋蔵文化財課
    - 第　1　係：公共事業に係る埋蔵文化財の発掘調査
    - （文化財主事）：公共事業に係る埋蔵文化財の事前審査
    - 第　2　係：民間事業に係る埋蔵文化財の発掘調査
    - （文化財主事）：民間事業に係る埋蔵文化財の事前審査
  - 埋蔵文化財センター
    - 管　理　係：考古学的資料の収集・保存・展示
    - （文化財主事）：考古学的資料の調査・収集・整理
  - 文化課
    - 文化財管理係：文化財の指定、史跡の保存・整備
    - 文　化　係：芸術・文化の振興・普及、文化団体との連絡
  - 歴史資料館
    - 管　理　係：歴史資料・民俗資料の収集・保存・展示
    - （文化財主事）：歴史資料の調査・収集・整理
  - 少年科学文化会館
    - 管　理　係：施設の管理運営
    - 芸　術　係：児童図書の閲覧・貸出し、プラネタリウム等
  - 博物館建設準備室
    - 副　主　幹：博物館建設準備
    - 主　　査：博物館建設準備

埋蔵文化財課の構成

課　　長；柳田純孝
第一係長；折尾　学
文化財主事；二宮忠司．横山邦継
係　　員；（技術）　松村道博．田中寿夫．杉山富雄．大庭康時．小畑弘己
佐藤一郎．瀧本正志．吉武　学．荒牧宏行．宮井善朗
（事務）　岸田　隆．松延好文．本村久美子
第二係長；飛高憲雄
文化財主事；山崎純男
係　　員；（技術）　力武卓治．山口譲治．山崎龍雄．池崎譲二（8月まで）
小林義彦．下村　智．米倉秀紀．常松幹雄．吉留秀敏
加藤良彦

Ⅰ　開発事前審査

本市において、埋蔵文化財包蔵地内での土木工事などにかかわる開発事前審査は、昭和52年度から57年度までの6年間にわたって実施した分布調査の成果（福岡市文化財分布地図、1：4,000、B3版、全173図）をもとに行っている。

文化財分布図は、市役所各部局および関係公社・公団などに配布し、事業策定段階での活用をお願いしている。また、民間の開発関係・不動産関係者などには、埋蔵文化財課窓口での地図閲覧と各種の相談を受けつけている。その場合、文化財保護法の趣旨と手続きなどを説明するとともに、文化財保護の協力をお願いしている。

1）　昭和62（1987）年度の概要

本年度、本課に提出された開発事前調査申請（願い）は、下表にしめすように、公共事業関係464件、民間開発関係425件の計890件である。

公共関係件数は、ここ数年間、400件前後と変わらないが、民間関係は、前年の271件から465件と急増している。このことは、埋蔵文化財の周知化が、一定程度すすんだ結果と考えられる。

公共事業関係では、大規模の住宅開発・学校建設が沈静化し、かわって公園・福祉・下水整備などの事業が増加している。したがって、事業計画の面積は小規模だが、下水道埋設など事前の調査がむづかしい例が増加している。

急増する民間開発事業関係は、おもに周辺部での住宅建設と、博多駅周辺の市街地における再開発のビル、マンション、店舗建設にともなう事例である。

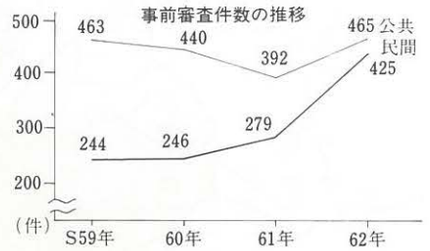
事前審査の内容では、試掘調査件数が大幅に増加している。その要因は、周知の遺跡での開発事業が増えていることによる。また、できるかぎり遺跡の破壊を最小限に抑える方向で、構造物地下構造を設計変更するなど、協議のための試掘調査も多くなっている。そのため、工事施工段階での立会い調査が増えつつある。

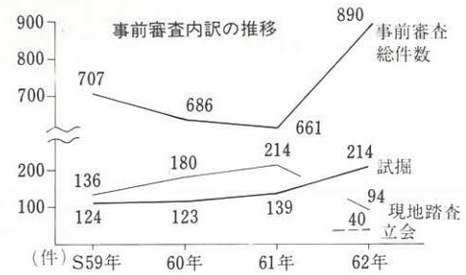
開発事前調査件数の推移　（件）

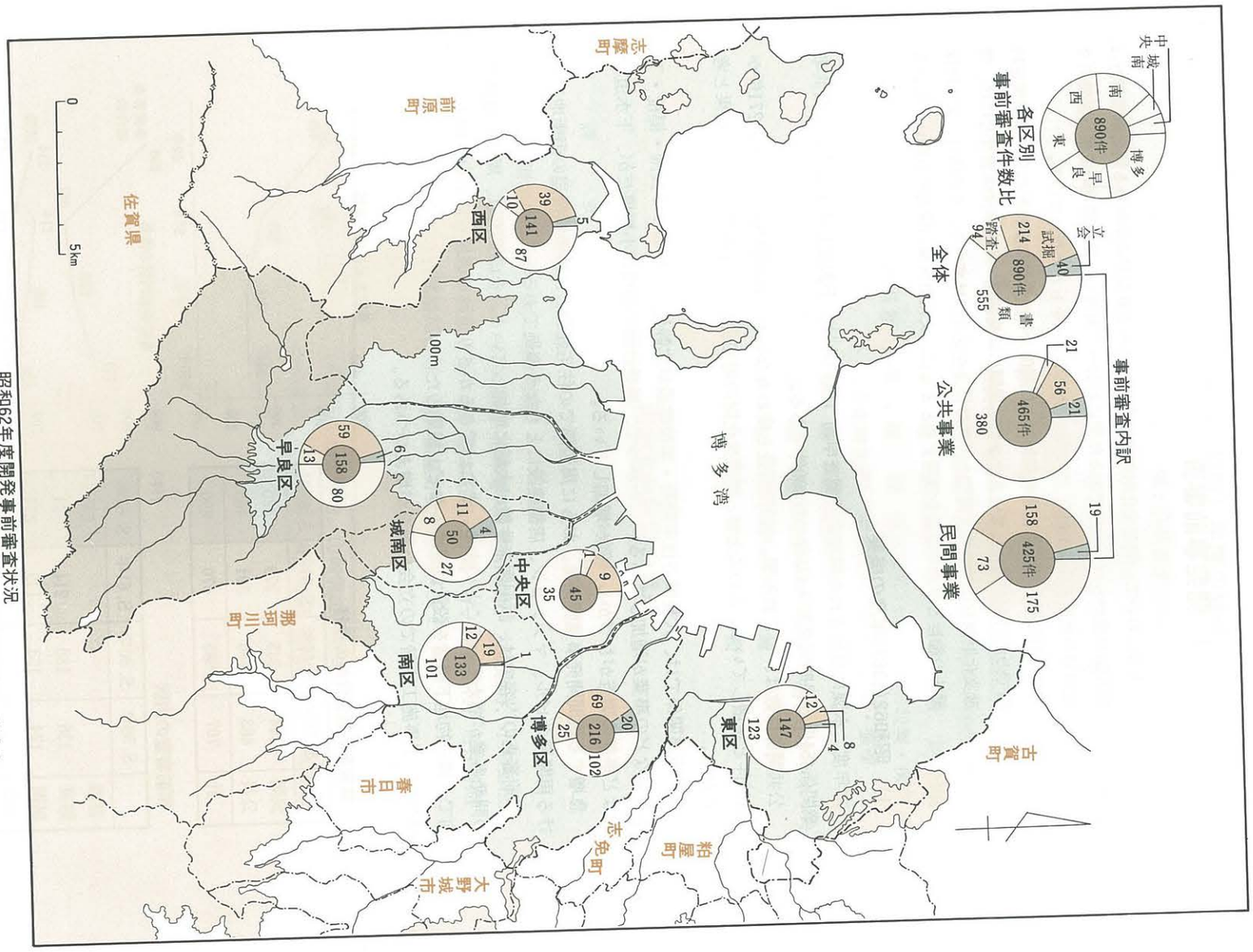
	S. 59年	S. 60年	S. 61年	S. 62年
民間	244	245	279	425
公共	463	440	391	465
計	707	685	670	890

事前審査の内訳　（件）

	S. 59年	S. 60年	S. 61年	S. 62年
書類				555
踏査	136	180	214	94
試掘	124	123	139	214
立会				40







昭和62年度開発事前審査状況
各区の円グラフ内の内訳は、図上円グラフと一致する。

試掘調査一覧

ここに掲載する試掘は、昭和62年度（1987年４月１日～87年３月31日）におこなったものである。
事前審査統計の試掘件数は、63年４月以降の処理件数も加えてあり、数値の違う場合もある。

東区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	香椎A	香椎四丁目1-39	871222	共同住宅	1,394	無		17	台地下、少量の土師器出土	62-2-319
2	筥崎	馬出一丁目65-3	880324	公共	2,000	有	慎重工事	35	砂丘上、時期不明の溝・土坑など	63-533

博多区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	仲島	井相田二丁目	870413	倉庫	1,790	有	要調査		７世紀の水田、奈良時代の整地層	62-2-43
2	井相田A	井相田三丁目14番16	870413	分譲	1,175	有	慎重工事	12	古墳時代、中世の溝とピット	62-2-31
3	博多	博多駅前一丁目155の1	870420	社寺	2,599	有	要調査	36	江戸時代の基壇、中世の遺構群	61-2-133
4	博多	中呉服町55番地	870422	ビル	399	有	慎重工事	48	中世から近世の井戸、大溝など	62-2-67
5	博多	御供所町6-1	870422	社寺	1,643	無		49	最下部に弥生時代の薄い包含層	62-2-47
6	博多	呉服町251他	870430	ビル	1,386	有	要調査	49	中世以降の井戸などの遺構群	62-2-32
7	比恵	博多駅南四丁目117番2外	870506	ビル	512	有	要調査	37	弥生時代の井戸、ピット群など	62-2-59
8	那珂	竹下五丁目514番	870512	共同住宅	915	有	要調査	38	弥生・古墳時代の住居址群	62-2-104
9	那珂	竹下五丁目514番	870512	共同住宅	915	有	工事立会	38	弥生・古墳時代の住居址群	62-2-104
10	那珂	那珂一丁目2231-723	870514	共同住宅	1,815	有	要調査	37	弥生・古墳時代の住居址群	62-2-90
11	那珂	竹下三丁目１番１号の一部	870525	工場	1,000	無	工事立会	37	台地の段落ち下	62-2-105
12	那珂	竹下三丁目1番1号の一部	870525	倉庫	1,200	有	要調査	37	弥生・古墳時代の集落址	62-2-119
13	板付	板付二丁目10-13	870528	公共	800	有	要調査	24	弥生～中世の水田址	62-1-475
14	板付	板付二丁目7-17	870624	共同住宅	530	有	慎重工事	24	弥生時代遺物を大量に含む包含層	62-2-156

15	影ケ浦	金隈字丸山567番１外	870624		1,265	無		11	全面削平をされていた	62-2-137
16	比恵	博多駅南三丁目28番	870630	ビル	274	有	慎重工事	37	中世以降の土坑１基	62-2-158
17	那珂	竹下三丁目１番１号	870708	倉庫	118	有	要調査	37	弥生・古墳時代の住集落址	62-2-138
18	三筑生産	三筑一丁目10番6、8、9外	870811		2,655	無		25	低湿地、遺物なし	62-2-195
19	博多	古門戸町139番	870811	倉庫	424	無		48	遺跡の北端、遺構は認められず	62-2-194
20	仲島	井相田二丁目５番地	870812	倉庫	1,877	無		12	小谷部の中	62-2-206
21	諸岡Ａ	諸岡三丁目494番地	870824	共同住宅	241	無		24	低段丘上、遺構なし	62-2-197
22	諸岡Ｂ	諸岡一丁目17番24	870824	共同住宅	955	有	工事立会	24	中世の細い溝１条のみ、他は削平	62-2-183
23	比恵	博多駅南四丁目88番	870824	社屋	787	有	要調査	37	弥生・古墳時代の住居址群	62-2-188
24	博多	店屋町１番30号	870910	ビル	1,262	有	要調査	49	弥生～近世の遺構群	62-2-205
25	比恵	博多駅南六丁目1-3	870910	倉庫	891	無		37	台地上、すでに削平	62-2-224
26	板付	板付五丁目９番地の９	870916	事務所	187	有	慎重工事	24	弥生時代以降の水田か？	62-2-177
27	井相田Ｃ	井相田二丁目2-5	870924	共同住宅	1,147	有	要調査	12	奈良～平安時代の集落跡	62-2-250
28	博多	御供所町129-1、133-1	870928	ビル	169	有	要調査	49	弥生時代～近世の遺構群	62-2-237
29	仲島	井相田一丁目12番1、2	870928	倉庫	4,515	無		11、12	低湿地、遺構・遺物なし	62-2-181
30	麦野Ｂ	南本町一丁目41	870928	ビル	599	無		12	池のほとりの斜面地、遺構なし	62-2-101
31	博多	博多駅前一丁目129外	870930	ビル	1,427	有	要調査	36、49	弥生時代～近世の遺構群	62-2-204
32	立花寺	立花寺字松尾谷96-1外	871007	公共	1,303	有	要調査	11		62-1-326
33	博多	店屋町2、3、4、5、33-1外	871008	ビル	1,055	有	要調査	49	弥生時代～近世の遺構群	62-2-235
34	那珂	東光寺町一丁目415	871008	共同住宅	327	有	要調査	37		62-2-157
35	仲島	井相田二丁目2番5	871020	共同住宅	1,147	有	要調査	12	奈良・平安時代の集落跡	62-2-263
36	井相田Ｂ	春町二丁目23、24-1、24-2	871027	共同住宅	2,050	無		12	湿地の中、遺構・遺物なし	62-2-284
37	井相田Ｂ	春町三丁目2-7	871027	共同住宅	925	無		12	粗砂層、川の中か？	62-2-287
38	比恵	東光寺町一丁目4-5	871105	事務所	397	有	慎重工事	37	弥生時代のピット１	62-2-285
39	井相田Ｃ	麦野三丁目6-9	871202	工場	1,277	有		12	低湿地、水田か？	62-2-317
40	笹原	諸岡六丁目569番	871209	共同住宅	134	無		25	台地上、全面削平済み	62-2-280
41	仲島	井相田二丁目4-4	871209	倉庫	950	有	慎重工事	12	弥生時代～古代の集落跡	62-2-336
42	麦野Ｃ	麦野六丁目8-22	871210	売買	513	有	工事立会	12	中世の集落跡	62-2-325
43	博多	御供所町262番	871211	寄宿舎	139	有	工事立会	49	弥生時代～近世の遺構群	62-2-335
44	博多	御供所町40番、41番	871214	共同住宅	473	有	要調査	49	弥生時代～近世の遺構群	62-2-229
45	麦野Ｂ	三筑二丁目11-43	871223	共同住宅	388	無		25	低湿地、遺構・遺物なし	62-2-354
46	博多	上川端町261番地	871224	ビル	313	無		49	旧海岸線、土師器片少量	62-2-323
47	博多	御供所町6-1	871225	社寺	1,643	有	工事立会	49		62-2-47
48	比恵	博多駅南六丁目21番５号	880105	ビル	638	無		37	台地上、２ｍ近くの削平済み	62-2-332
49	比恵	博多駅南三丁目9-15	880108	共同住宅	891	無		37	旧河川内、弥生土器少量	62-2-353
50	板付	板付五丁目2-21	880118	新築	135	有	慎重工事	24	弥生～中世の水田、足跡多	62-2-53
51	博多	店屋町91他４筆	880127	建物建築	345	有	慎重工事	49	弥生時代～近世の遺構群	63-2-11
52	比恵	博多駅南六丁目13-28	880202	ビル	666	無		37	旧河川内、弥生土器少量り	63-2-17
53	板付	板付四丁目4-23	880202	事務所	962	有	慎重工事	24	時期不明の水田一枚	63-2-23
54	諸岡Ａ	諸岡四丁目691番	880216	共同住宅	489	無		24、25	台地端部、旧河川あり	63-2-33
55	博多	店屋町127	880217	社屋	130	有	慎重工事	49	弥生時代～近世の遺構	63-2-9
56	諸岡	諸岡五丁目84-1	880217	公共	1,238	無				62-1-492
57	博多	祇園町317番、318番	880225	ビル	730	有	要調査	49	弥生時代～近世の遺跡群	63-2-50
58	餅田生産	板付六丁目2-13	880308	寮	1,485	無		24	砂層内に弥生土器少、遺構なし	63-2-68
59	比恵	山王一丁目104-1、105	880308	宅地	1,442	無		37	台地端部、遺構・遺物なし	62-2-251
60	博多	冷泉町258、259、260	880309	共同住宅	562	有	慎重工事	49	弥生時代～近世の構群	63-2-37
61	吉塚	堅粕四丁目474-1	880310	共同住宅	260	有	工事立会	36	弥生時代後期の土坑１基、攪乱多	62-2-208
62	井相田Ｃ	井相田二丁目2-6	880315	共同住宅	1,377	有	要調査	12	弥生時代～古代の集落跡	63-2-67
63	那珂君休	那珂四丁目168	880330	公共	495	無				62-1-484
64	那珂	竹下四丁目～那珂一丁目	88？	公共	1,600	有	要調査	37、38	古墳時代を主とする集落跡	62-1-424

中央区

番号	遺跡		調査日	事業		遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
	名称	所在地		種別	面積					

1	福岡城	大名二丁目139番外	870528		274	無		49	堀の中	62-2-124
2	福岡城	福岡城（駐車場）	880212	公共		無		49	近・現代の整地層のみ	62-498
3	福岡城	平和台	880212	公共		有	慎重工事	49	旧福岡連隊の兵舎跡	62-497
4	福岡城	福岡城（広場）	880311	公共	1,260	有	慎重工事	49	福岡城の瓦片などが出土	62-472
5	鴻臚館	平和台球場スタンド	881225	公共	650	有	要調査	49	遺構検出、継続して発掘調査	62-

城南区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	長尾	樋井川二丁目693番９外	870512	共同住宅	1,226	無		63	谷の際、遺構・遺物なし	62-2-89
2	長尾	樋井川一丁目407-1	870807	専用住宅	1,328	無		63	台地上、遺構なし、すでに削平？	62-2-173
3	片江Ａ	片江三丁目26番、27番	871118	共同住宅	1,612	無		63	台地下、土師器数点、遺構なし	62-2-292
4	飯倉Ｂ	荒江一丁目21-16	871124	売買	457	無		72	台地斜面上、すでに削平済み	62-2-298
5	宝台	樋井川四丁目230	871125	共同住宅	330	無		63	台地上すでに削平済み	62-2-288
6	飯倉Ｃ	七隈二丁目1176外	880309	分譲	1,195	無		73	台地端、遺構・遺物なし	62-2-358

南　区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	井尻Ｂ	井尻五丁目24番	870506	共同住宅	448	無		25	谷部、不定形土坑のみ	62-2-87
2	花畑Ｂ	花畑二丁目854、859-3外	870508	運動施設	4,649	無		53	谷部、遺構・遺物なし	62-2-77
3	弥永原	日佐三丁目42-1	870616	校舎建築	800	有	慎重工事		台地、削平済み、焼土坑、溝等	62-244
4	卯内尺	老司字原545-3	870916	賃貸住宅	2,892	有	工事立会	40	３号墳の裾部がわずかにかかる	62-2-222
5	野間Ａ	野間二丁目232番	871112	宅地	306	無		38	岩盤の地山削平済み、遺構なし	62-2-254
6	野間Ａ	野間字門ノ浦201-52、53外	871112	共同住宅	524	無		38	岩盤の地山削平済み、遺構なし	62-2-286
7	高木	高木一丁目13-3、4	871117	Ｇ．Ｓ	1,270	無		24、38	旧河川内、遺構・遺物なし	62-2-241
8	弥永原	日佐二丁目130番1（他5筆）	871201	共同住宅	1,511	無		26	台地下、薄い古墳の包含層のみ	62-2-316
9	三宅Ｃ	三宅三丁目171-7外11筆	871201	共同住宅	1,118	無		39	河川状の土層、遺構・遺物なし	62-2-299
10	弥永原	日佐三丁目121-2、9	870120	共同住宅	330	無		26	台地端、削平済み、遺構なし	62-2-384
11		高宮四丁目255番	870122	専用住宅	1,070	無		51	旧谷部を埋め立て	62-2-356
12	板付	五十川二丁目215-5	870127	住宅	524	有	慎重工事	24	台地端、古墳時代の集落等	63-2-4
13	野間Ｂ	向野二丁目236	870218	共同住宅	1,468	有	要調査	38	やせ尾根上、弥生時代の集落	63-2-3
14	五十川	五十川二丁目108-1	870324	共同住宅	1,048	有	慎重工事	24	台地直下、包含層とピット少々	63-2-75
15	笹原	井尻三丁目182-1外	880325	共同住宅	650	無		25	旧河川内、遺構・遺物なし	63-2-78

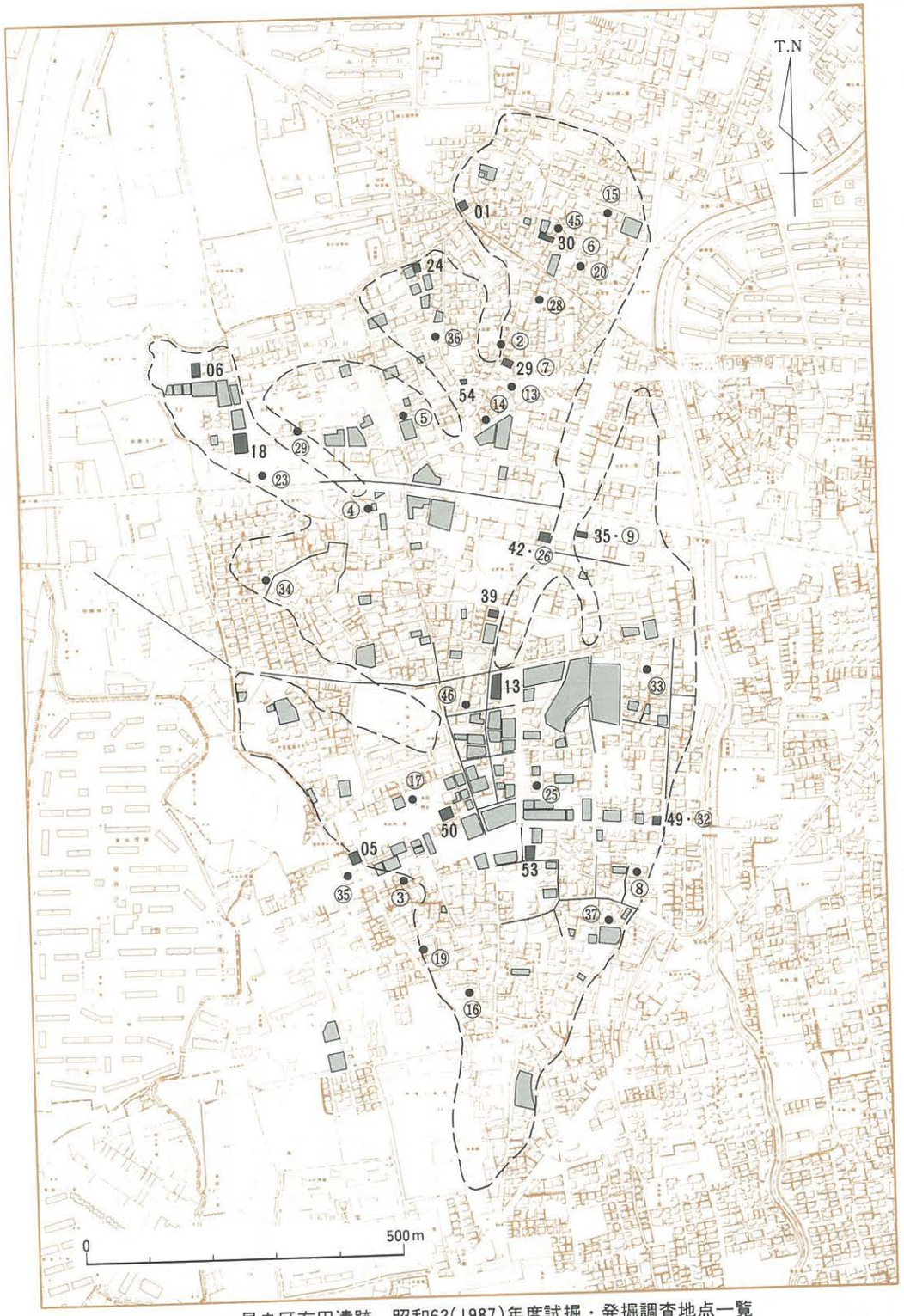
早良区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	原	原六丁目876-1	870408	共同住宅	1,622	有	慎重工事	82	中世から近世のピット	62-2-50
2	有田	小田部一丁目29-14	870410	専用住宅	414	無		81	台地端部、遺構・遺物なし	62-2-82
3	有田	有田二丁目21-11、12	870528	展示場	473	無		82	谷部、－2.3m、遺構・遺物なし	62-2-120
4	有田	小田部三丁目11番１	870622	専用住宅	109	無		82	攪乱１基	62-2-155
5	有田	小田部一丁目173番地	870627	住宅	208	無		82	台地上、削平のため遺構なし	62-2-143
6	有田	南庄三丁目116番地	870627	共同住宅	345	有	要調査	82	台地上、ピット多数	62-2-160
7	有田	小田部一丁目418-1	870627	共同住宅	240	有	要調査	81	台地上、ピット多数	62-2-162
8	有田	有田二丁目８番17号	870708	専用住宅	344	無		82	台地端部、須恵器少量	62-2-163
9	有田	小田部二丁目38	870717	店舗	499	有	要調査	82	台地端部、ピット多数	62-2-182
10	原２号墳	原一丁目267-1外	870729	公共	19,464	無		81	近世以降の水田１枚のみ	63-87
11	脇山Ａ	脇山字川原田会田	870801	公共	28,000	有	要調査	10、17	小笠木川の氾濫原、遺物少量	62-237
12	原東	飯倉三丁目302番１	870812	公共	15,119	有	慎重工事	82	中世の水田など、残りが悪い	63-82
13	有田	小田部一丁目24-3	870918	専用住宅	237	無		82	台地上、削平のため遺構なし	62-2-238
14	有田	小田部一丁目23-5	870918	住居建替	314	無		82	台地上、削平のため遺構なし	62-2-168
15	有田	南庄三丁目86番、88番2	871006	共同住宅	182	無		81	台地上、削平のため遺構なし	62-2-207
16	有田	有田二丁目21番３号	871006	専用住宅	274	無		82	台地上、削平のため遺構なし	62-2-220
17	有田	有田一丁目33-6	871022	売買	260	有	要調査	82	台地上、ピット・土坑多数	62-2-267

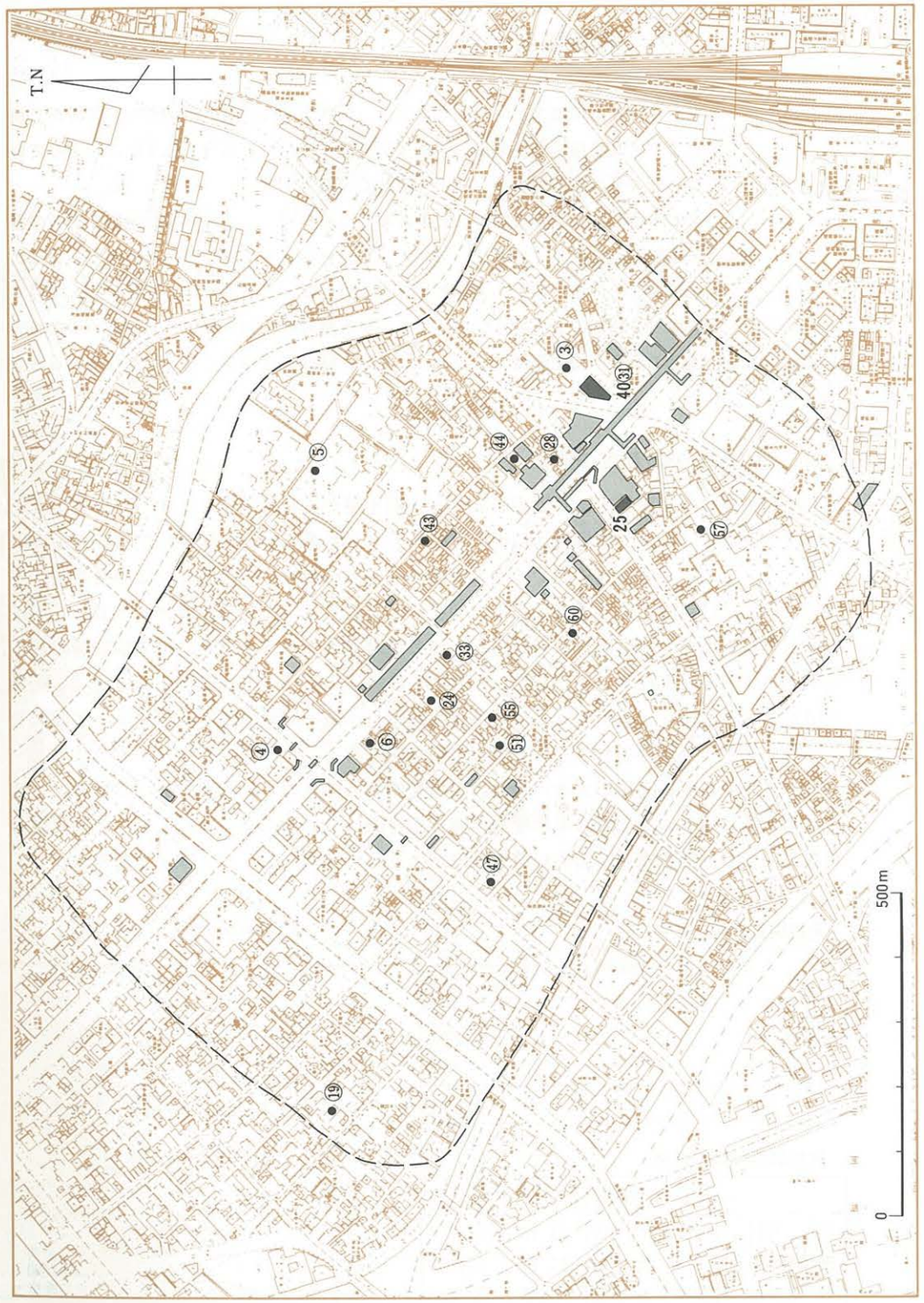
18	原	原六丁目17-14	871022	売買	773	有	要調査	82	沖積台地、弥生以降の溝・土坑等	62-2-264
19	有田	有田二丁目22-31	871023	専用住宅	990	有	要調査	82	小田部城の外濠	62-2-265
20	有田	南庄3-168、164-2	871028	共同住宅	313	無		81	台地上、遺構なし、削平か	62-2-282
21	熊本	東入部字大浦1681-1外	871111	戸建住宅	3,847	有	慎重工事	85	古墳時代以降の包含層、以降なし	62-2-268
22	田村	田869番地	871111	貸倉庫	716	有	慎重工事	93	古代？のピット・土坑	62-2-294
23	有田	小田部五丁目72	871117	店舗	795	有	要調査	82	中世の溝、古墳時代の住居址等	62-2-293
26	四箇	四箇字亀丸524番１外	871125	戸建住宅	1,327	無		84	旧河川及び湿地内	62-2-300
27	有田	有田一丁目21-3	871130	住宅	368	有	要調査	82	古墳時代の住居址など	62-2-295
28	有田	小田部二丁目131	871130	専用住宅	300	有	要調査	82	古墳時代以降の土坑・溝など	62-2-340
29	原	原五丁目1225-7外	871215	公共	8,574	有	要調査	82	沖積台地、古代・中世の集落跡	63-351
30	有田	小田部一丁目27-7	871217	専用住宅	330	無		82	台地上、削平のため遺構なし	62-2-333
31	有田	小田部五丁目86番	871217	住宅	235	無		82	谷部、遺構・遺物なし	62-2-322
32	辻の町	四箇字壱町田100-1外５筆	871218	公共		有	慎重工事		中世の土坑・溝	62-494
33	西新町	西新三丁目地内	871223	公共		有	慎重工事	71、72	砂丘上、時期不明の土坑	62-493
34	有田	有田一丁目8-3	880116	専用住宅	200	有	要調査		弥生の包含層、古代の建物	62-2-72
35	有田	有田一丁目5-39	880116	専用住宅	418	無			台地上、削平のため遺構なし	63-2-5
36	有田	小田部三丁目16-1	880130	住居建替	252	無		82	台地上、削平のため遺構なし	63-2-20
37	有田	有田一丁目38-5	880130		148	有	慎重工事	82	台地下、時期不明の土坑１基	63-2-24
38	有田	小田部一丁目204	880130	専用住宅	826	有	要調査	82	古墳時代の住居址	63-2-34
39	有田	小田部三丁目3-43	880219	倉庫	99	無			台地上、削平のため遺構なし	63-2-52
40	原	原五丁目1236番、1237番13	880223	1,669		有	工事立会	82	沖積台地、ピット２と小溝のみ	63-2-53
41	西新町	西新	880224	公共		無		71、72	砂丘上、攪乱のため遺構なし	
42	藤崎Ａ	高取一丁目57番地	880225	社宅	1,584	無		72	紅葉山の後背湿地、遺物なし	63-2-62
43	飯倉Ｂ	飯倉二丁目449-2外３筆	880301	共同住宅	1,090	有	要調査	73	弥生時代の住居址・土坑	63-2-35
44	藤崎Ａ	高取二丁目142	880315	共同住宅	657	有	要調査	81	砂丘上、甕棺・中世の溝	63-2-1
45	藤崎Ａ	高取二丁目165	880329	共同住宅	413	有	要調査	81	砂丘上、甕棺・中世の溝	62-2-272
46	四箇	重留1103番2、1104番2	880329	分譲住宅	1,183	有	慎重工事	84	時期不明の水路２条	62-2-366
47	藤崎Ａ	南庄三丁目10-24	880331	専用住宅	165	有	慎重工事	81	古墳時代から中世の溝２条	62-2-350
48	有田	有田一丁目25-4	880331	専用住宅	429	有	要調査	82	古墳時代から中世の集落	62-2-351

西　区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	金武	金武字乙石1567番1	870508	店舗	231	有	慎重工事	107	７世紀初の円墳の周溝	62-2-73
2	周船寺	飯氏字屋形町944-2	870511	分譲住宅	1,189	無		132	湿地周辺、少量の縄文晩期土器	62-2-38
3	周船寺	田尻字中牟田1042番1	870511	分譲住宅	1,229	無		120	湿地内、遺構・遺物なし	62-2-74
4	周船寺	千里字シビナ455-3、8、9	870527	専用住宅	739	無		132	溜り状の土層、遺構・遺物なし	62-2-117
5	周船寺	千里字ミドリ429-1	870527	売買	950	無		132	溜り状の土層、遺構・遺物なし	62-2-118
6	周船寺	千里字庄ノ坪458-1	870630	分譲	1,295	有	慎重工事	132	小ピット数基	62-2-152
7	斜ケ浦製鉄	生の松原四丁目1689-7	870812	仮設道路	1,338	無		103	－3mの基盤土まで盛土、遺構なし	62-2-209
8	周船寺	飯氏字平田965-4	870820	共同住宅	1,189	無		132	溜り状の土層、遺構・遺物なし	62-2-184
9	飯氏	周船寺592-1、595-1	871028	公共	2,723	無		120	時期不明の（近世か）水田	62-486
10		周船寺字ヤマサキ26番	871102	共同住宅	5,335	無		120	山崎古墳のそば、遺構・遺物なし	62-2-283
11	湯納	拾六町字コノリ556番４外	871110	共同住宅	1,315	無		104	湿地内、自然遺物ごく少量のみ	62-2-276
12	周船寺	周船寺字アシマチ491-10	880105	共同住宅	1,134	無		120	溜り状の土層、遺構・遺物なし	62-2-363
13		宮ノ浦字畑中地内	880112	圃場整備	24,000	無		126	谷の中、少量の中世土器のみ	62-524
14		草場地内	880113	圃場整備	32,000	無		138	山腹、遺構・遺物なし	62-525
15	長垂大谷	上山門二丁目1607-5外	880119	専用住宅	3,606	無		103	湿地内、青磁碗１点出土	62-2-362
16	大塚	今宿町字高田270-1外	880120	店舗	924	無		112	斜面上、水質土壌	62-2-334
17	今宿	今宿町1230番8	880210	公共	530	無			攪乱多数、遺構なし	62-495
18		金武	880301	公共		無			河川堆積物、遺物なし	62-499
19	吉武　外	金武地内	880302	圃場整備	63,000	有	要調査	93	弥生時代の集落跡	63-522
20		石丸三丁目276-11	880331	分譲	3,314	無		90	－３ｍまで下げるも、客土	63-2-80



早良区有田遺跡　昭和62(1987)年度試掘・発掘調査地点一覧
●は試掘調査地点（番号は試掘調査一覧〈早良区〉に一致）
■は発掘調査地点（番号は発掘調査一覧－14．15P－に一致）
□は既往の発掘調査地点
道路上の黒色実線は下水埋設に係る調査位置をしめす（8712）



博多区博多遺跡　昭和62(1987)年度試掘・発掘調査地点一覧
●は試掘調査地点（番号は試掘調査一覧〈博多区〉に一致）
■は発掘調査地点（番号は発掘調査一覧－14．15P－に一致）
□は既往の発掘調査地点

II 発掘調査の概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、公共事業にかかわる調査を第１係が、民間および区画整理・圃場整備、国庫補助事業にかかわる調査を第２係が担当しているが、調査量の多寡により、随時、係間での職員派遣をおこなっている。

なお本市では、調査資料の保管・管理のため、個々の遺跡の発掘調査に固有の番号・遺跡略号をつけて登録し、数字やアルファベッドで調査資料を検索するシステムを採用している。以下、調査番号とするものは、この番号で、西暦年(下２桁)＋調査順（２桁）の４桁数字で表示する。調査番号は、調査開始時に設定するため、１遺跡の調査が複数年度にまたがるばあい、開始年度のみに番号が登録されることがある。

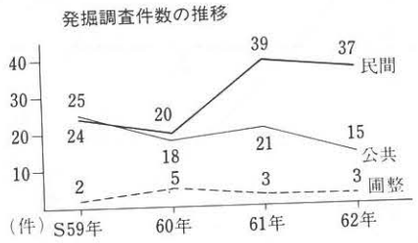
1) 昭和62(1987)年度の概要

本年度実施した発掘調査は、下表の54件と、前年度からの継続調査１件の計55件である。まず調査件数では、住宅建設関係に伴うものがもっとも多いが、大規模団地造成などの広面積調査はない。大半は周辺部での個人専用住宅や、市街地での再開発的な高層共同住宅（マンション）建設に伴う調査である。前者の例としては早良区有田遺跡、後者としては博多区博多・比恵・那珂遺跡などがある。博多遺跡では、基盤土層が沖積堆積砂層のうえ、遺構面が３～５面重なり、かつ調査の最下面がG. L－４～５ｍにおよぶことがある。開発面積が小さいばあい、安全対策上から調査を断念し、地下構造の設計変更によって破壊を最小限にとどめる指導をおこない、将来に托す例もある。

１件あたりの調査面積が大きいのは、圃場整備・区画整理・公園建設などである。とくに圃場整備のばあい、工事の単年度通年施工が定着しているため、設計変更などの協議の余裕が少なく、調査範囲が広めになる傾向があり、今後の解決すべき課題であろう。

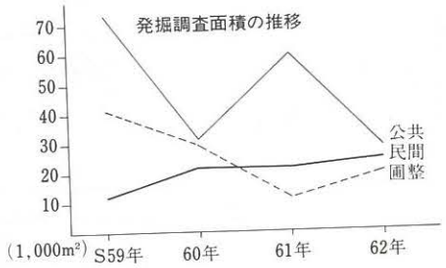
発掘調査件数の推移 (件)

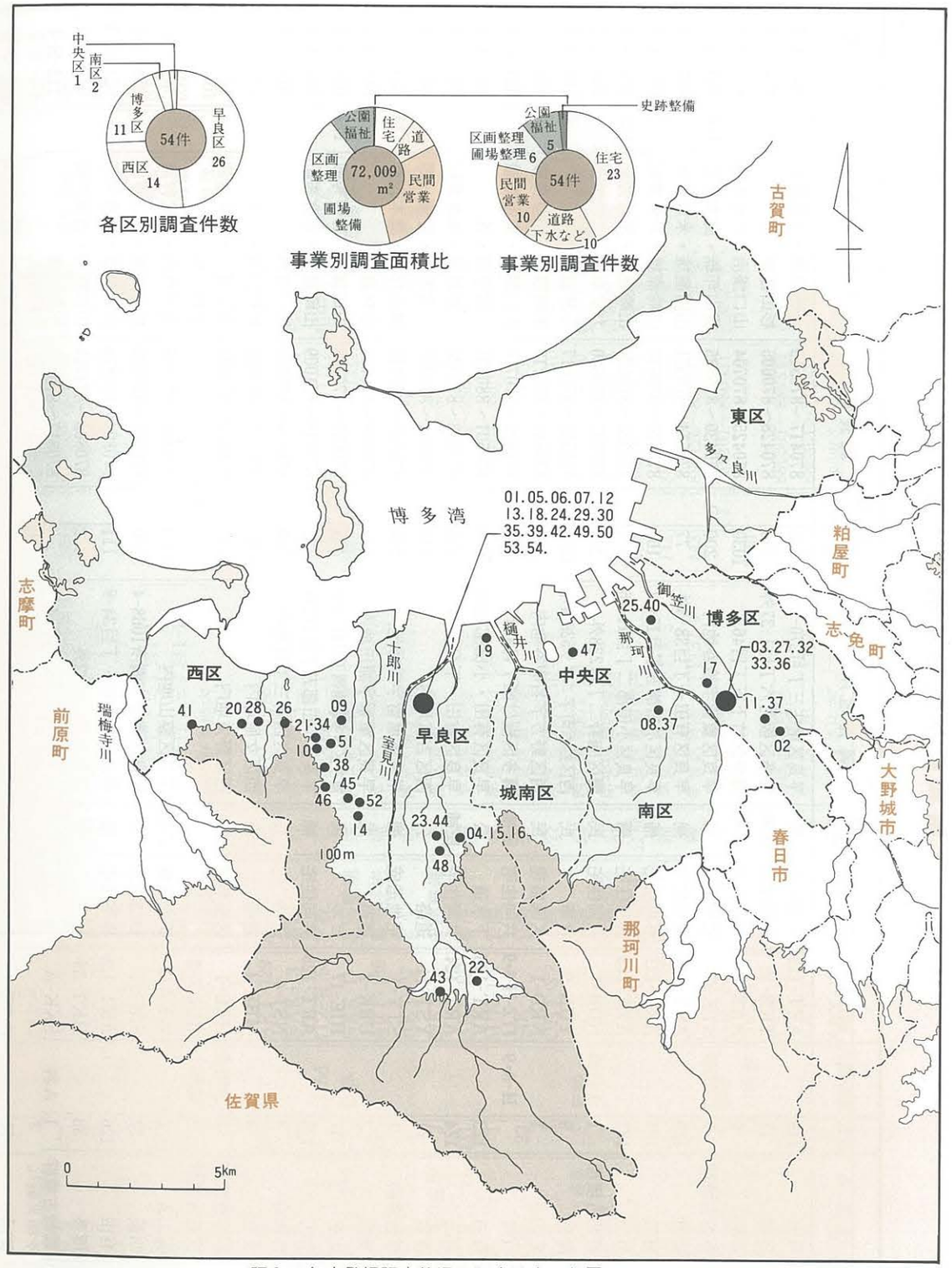
	S. 59年	S. 60年	S. 61年	S. 62年
民　間	24	20	39	37
圃場整備	2	5	3	2
公　共	25	18	21	15
計	51	43	60	54



発掘調査面積の推移 (m²)

	S. 59年	S. 60年	S. 61年	S. 62年
民　間	12,613	21,949	21,157	23,776
圃場整備	40,373	29,170	12,870	20,000
公　共	71,370	38,812	58,052	28,233
計	124,356	89,931	92,079	72,009





昭和62年度発掘調査状況と調査地点の位置
調査地点の番号は発掘調査一覧－14．15Pと一致する。

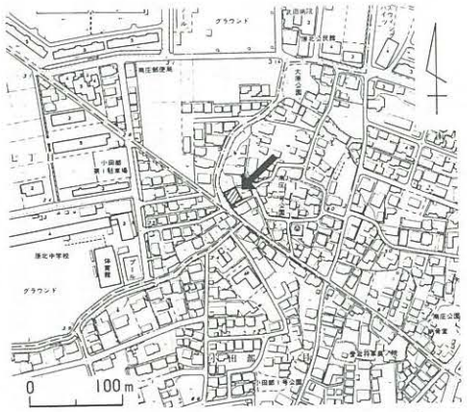
昭和62年度発掘調査一覧

調査番号	遺跡名	次数	地区・地点	遺跡略号	調査原因	調査種類	調査地所在地	調査面積 m²	調査面積 古墳	調査期間	調査担当者	報告書	分布地図
8701	有田	119		ART-119	専用住宅	補	早良区南庄三丁目270-1外	203		870417～870519	山崎龍雄・米倉秀紀		081-A-3
8702	高畑	13		TKB-13	共同住宅	民補	博多区板付六丁目1-37外	480		870428～870605	杉山富雄		024-A-9
8703	那珂	9		NAK-9	共同住宅	民補	博多区竹下五丁目463	1030		870425～870704	山口譲治・吉留秀敏		038-A-3
8704	重留古墳群	3	C-2号墳	STK-C	宅地造成	民	早良区重留字後谷地内	200	1	870430～870525	横山邦継・瀧本正志	178	084-B-3
8705	有田	120		ART-120	専用住宅	補	早良区有田一丁目38-3外	77		870514～870521	山崎龍雄・米倉秀紀		082-A-1
8706	有田	121		ART-121	専用住宅	補	早良区小田部五丁目154-2	165		870520～870613	山崎龍雄・米倉秀紀		090-A-13
8707	有田	122		ART-122	専用住宅	補	早良区小田部二丁目11-16	375		870525～870626	山崎龍雄・米倉秀紀	173	082-A-1
8708	野間古墳郡	1	1号墳	NOB-1	共同住宅	民	南区向野二丁目238外	260	1	870527～870630	力武卓治・常松幹雄		038-A-2
8709	湯納	9		YUN-9	倉庫	民	西区拾六町字コノリ528-4外	1500		870518～870617	小林義彦		104-A-4
8710	名切谷	1		NRD-1	区画整理	民	西区野方字名切谷地内	658		870612～870718	池崎譲二・加藤良彦		104
8711	板付		H-8・9	ITZ-H-8・9	共同住宅	民補	博多区板付四丁目4-4	200		870622～870710	山口譲治・吉留秀敏		024-C-1
8712	有田	123		ART-123	下水道	公	早良区有田・小田部地内	550		870501～880331	二宮忠司・外		082-A-1
8713	有田	124		ART-124	共同住宅	民補	早良区有田一丁目24-4	650		870623～870926	山崎龍雄・米倉秀紀		082-A-1
8714	吉武	11		YST-11	道路	公	西区吉武地内	2810		870601～870909	二宮忠司・佐藤一郎		093-A-12
8715	重留窯跡	1		STY-1	宅地造成	補	早良区重留字後谷地内	200		870526～870711	横山邦継・瀧本正志	178	084
8716	浦田	2		URK-2	道路	民	早良区重留字浦田地内	116		870629～870708	小林義彦		084-A-7
8717	比恵	17		HIE-17	ビル	民	博多区博多駅南四丁目117-2外	405		870629～870728	山口譲治・吉留秀敏	174	037-A-1
8718	有田	125		ART-125	共同住宅	補	早良区小田部五丁目172外	722		870619～871009	山崎龍雄・米倉秀紀		082-A-1
8719	西新町	4		NSJ-4	道路	公	早良区西新三丁目地内	500		870620～871003	松村道博		071-A-1
8720	女原	4		MBR-4	道路	公	西区女原地内	6000		870701～871031	松村道博・吉武　学		120
8721	広石遺跡群	1	D地点	HRD-1	区画整理	民	西区野方地内	1747		870629～871031	池崎譲二・加藤良彦		104
	広石古墳群	2	Ⅶ群	HIK-7-2					1		下村　智		
8722	脇山A	2		WKA-2	圃場整備	公補	早良区脇山地内	5000		870804～871228	力武卓治・常松幹雄		早10-A-1
8723	四箇	22		SIK-22	福祉施設	公	早良区重留字満所1068-4	3000		870731～871130	横山邦継・宮井善朗		084-A-2
8724	有田	126		ART-126	専用住宅	補	早良区小田部一丁目34-9	111		870804～870826	山崎龍雄・米倉秀紀		081-A-3
8725	博多	36		HKT-36	ビル	民	博多区祇園町42外	332		870805～871015	山口譲治・吉留秀敏		049-A-1
8726	鋤崎古墳群	1	A群	SKK-A	ゴルフ場	民	西区今宿青木鋤崎421-4外			870817～870902	小林義彦		112-B-4
8727	那珂	10		NAK-10	倉庫	民	博多区竹下三丁目1-1	862		870817～871031	山口譲治・吉留秀敏		037-A-3
8728	今宿五郎江	3		IZG-3	給油所	民補	西区今宿町字前田95-2外	900		870910～871126	小林義彦		112-A-5
8729	有田	127		ART-127	共同住宅	民補	早良区小田部一丁目418-1	180		870917～871009	山崎龍雄・米倉秀紀		081-A-3
8730	有田	128		ART-128	共同住宅	民補	早良区南庄三丁目116	213		870928～871026	山崎龍雄		081-A-3
8731	野間古墳群	2	2号墳	NOB-2	宅地造成	民	南区向野二丁目237	300	1	871005～871031	力武卓治・常松幹雄		038-A-2
8732	那珂	11		NAK-11	倉庫	民	博多区竹下三丁目1-1	5		870926～871001	山口譲治・吉留秀敏		037-A-3
8733	那珂	12		NAK-12	倉庫	民	博多区竹下三丁目1-1	20		870926～871003	山口譲治・吉留秀敏		037-A-3
8734	広石古墳群	3	Ⅵ群	HIK-6	区画整理	民	西区野方地内	8383	5	870922～880331	池崎譲二・加藤良彦		104
	広石遺跡群	2	C	HRC-1							下村　智		
8735	有田	129		ART-129	店舗	民	早良区小田部二丁目38	386		871027～871126	山崎龍雄		082-A-1
8736	那珂	13		NAK-13	道路	公	博多区那珂二丁目	1536		871104～880330	杉山富雄・小畑弘己		037-A-3
8737	板付		H-5d	ITZ-H-5d	学校	公	博多区板付二丁目10-13	120		871109～871112	田中寿夫・荒牧宏行		024-C-1
8738	野方古墳群		D群	NKK-D	区画整理	民	西区野方地内	500	2	871125～880331	下村　智・加藤良彦		105
8739	有田	130		ART-130	専用住宅	補	早良区小田部二丁目185-2	293		871128～871226	山崎龍雄		082-A-1
8740	博多	37		HKT-37	ビル	民	博多区博多駅前一丁目129外	1112		871204～880331	山口譲治・吉留秀敏		049-A-1
8741	丸隈山古墳	3		MKY-3	史跡整備	公	西区周船寺字ウヘノ	90	1	871211～880120	小林義彦		120-B-1
8742	有田	131		ART-131	専用住宅	補	早良区小田部二丁目131	118		871216～880106	山崎龍雄		082-A-1
8743	峯	1		MIN-1	公園	公	早良区西1251-1外	1677		871019～880129	佐藤一郎		早17-A-3
8744	四箇	23		SIK-23	公園	公	早良区重留地内	1900		871130～880331	松村道博・吉武　学		084-A-2
8745	太田	3		OHT-3	道路	公	西区吉武字太田地内	2000		870116～870531	二宮忠司		
8746	羽根戸古墳群	3	E群	NHD-E	墓園	公	西区佛尾871-1外		9	871217～880330	横山邦継・宮井善朗		105-B-19
8747	鴻臚館	1		FUE-10	球場改修	公	中央区城内地内	650		871225～880120	山崎純男・吉武　学		060-E-1
8748	入部	1		SHE-1	圃場整備	公補	早良区重留地内	15000		880106～880331	力武卓治・常松幹雄		084-A-4
8749	有田	132		ART-132	専用住宅	補	早良区有田一丁目8-3	142		880125～880303	山崎龍雄・小林義彦		082-A-1
8750	有田	133		ART-133	専用住宅	補	早良区有田一丁目32-4	443		880126～880331	山崎龍雄・小林義彦		082-A-1
8751	広石古墳群	4	Ⅷ群	HIK-8.	河川改修	公	西区野方地内		1	880201～880331	山崎純男・田崎博之		104
	広石遺跡群	3	D地点	HRC-D				260					
8752	吉武	12		YST-12	水路	公補	西区吉武地内	1000		880301～880331	力武卓治・常松幹雄		093-A-10
8753	有田	134		ART-134	共同住宅	民補	早良区有田二丁目12-3・4	406		880301～880331	山崎龍雄・小林義彦		082-A-1
8754	有田	135		ART-135	専用住宅	補	早良区小田部一丁目361	145		880307～880324	山崎龍雄・小林義彦		082-A-1

8701　有田（ありた）遺跡第119次（ART－119）

所 在 地　早良区南庄三丁目270－1外　　**調査面積**　203m²
調査原因　専用住宅建設　　**担 当 者**　山崎龍雄，米倉秀紀
調査期間　870417～870519　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査地は有田・小田部台地の北端部近く、南庄地区の台地西端部に立地する。ほぼ全面台地上にあるが、調査区南西端で台地の落ちを検出し、急速に西に落ちる。現況での台地部と台地下の比高差は２m以上を測る。遺構面は鳥栖ロームで、表土下約10～20cmにある。周辺の調査例は少なく、北東側約90mの所で昭和58年度に第85・89次調査を行ない、古墳時代の住居址や円墳の周溝などが検出されている。



1．調査地点の位置（081-A-3，1：8,000）

検出遺構
- 弥生時代：甕棺墓８，土壙墓１
- 江戸時代：土坑（墓）10
- 近現代　：防空壕　1

出土遺物　出土遺物は弥生時代中期の甕棺の他に、少量の弥生土器、江戸時代の陶磁器がある。甕棺は抜取り痕だけのものや、残りが悪いものが多く、明確に時期がわかるものはいずれも須玖式である。

出土遺物　調査前は古墳時代の住居址や、掘立柱建物群があるものと予測していたが、それに反し、弥生時代の甕棺群、江戸時代ころの土壙墓群を検出した。甕棺群は有田遺跡においては、もっとも北に位置する。周辺の調査が進んでいないので、全体の配置は不明であるが、今回の調査では中期中ごろを中心とする時期のみで、とくに意識的な配列は認められない。また、すべて副葬品はもたず、また第126次調査の甕棺のような大型の掘り方ももたない、一般的な墓地と思われる。今後の周辺の調査に期待したい。

2．調査区全景（北から）

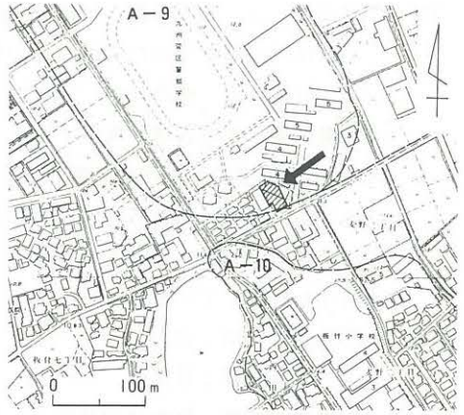
3．調査区南半部（北から）

8702　高畑（たかばたけ）遺跡第13次（TKB－13）

所 在 地　博多区板付六丁目1－37外　　**調査面積**　480m²
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　杉山富雄
調査期間　870428～870605　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査区は高畑遺跡の立地する中位段丘の南端部、麦野台地との間の鞍部に面した南斜面に位置する。旧状は、東側沖積地と同高度の水田となっていた（現地表下1.2m）。本地点では、水田耕土、床土下に瓦片などを含む包含層が残る（厚さ0.2m）。その下は地山の八女粘土層（標高10m）となっている。

遺構は、包含層下の地山面で検出した。その広がりは、調査区北西部に多く、それから東辺部にかけて、地形に沿って帯状に分布するようだ。

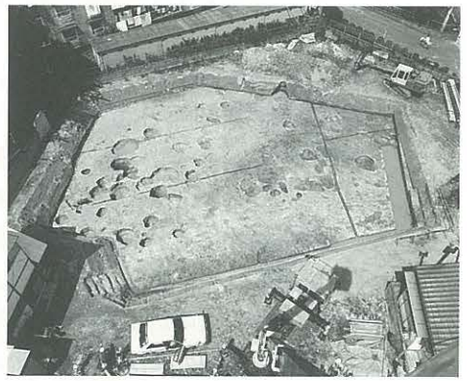


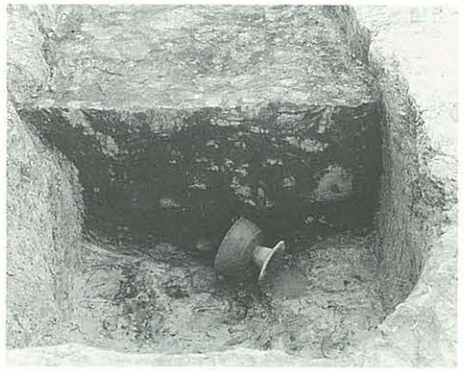
1．調査地点の位置（024-A-9，1：8,000）

検出遺構
- 弥生時代後期：井戸１
- 古墳時代前期：井戸１
- 古墳時代前期～後期：土坑（円形あるいは隅丸長方形）60余り

出土遺物　包含層および遺構からコンテナにして15箱ほど出土した。遺構からの遺物出土状況は、埋土から散漫に検出されるほかに、完形の土器を単独あるいは一括投棄、もしくは埋納したかのような状態のものがある。土坑についていえば、出土する土器は土師器のみ（高坏、椀、甑）の例と、土師器（高坏、椀）と須恵器（蓋坏）とが出土する例がある。井戸からは、土師器甕および壺が同様の状態で検出された。また、滑石製臼玉、ガラス製小玉、碧玉製管玉を出土する土坑がある（３基）。

まとめ　高坏の出土が顕著なことは、遺跡の北辺部で検出された古墳時代河川に、土器類が大量に投棄されていることと関連ずけられるかもしれない。また、包含層には瓦が含まれており、300mほど離れて北に位置する高畑廃寺の広がりと、台地南辺部との係りが今後の課題となるであろう。

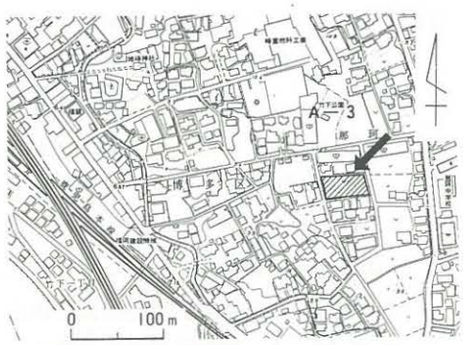

2．調査区全景（西から）


3．土坑遺物出土状況

8703　那珂（なか）遺跡第９次（NAK－９）

所 在 地　博多区竹下五丁目463
調査原因　共同住宅建設
調査期間　870425～870704
調査面積　1030m²
担 当 者　山口譲治．吉留秀敏
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、福岡平野のほぼ中央部、那珂川と御笠川にはさまれた中位段丘の那珂台地南部に位置する。標高10m。同台地上には那珂八幡古墳、剣塚古墳が所在する。また本地区の北550mでの第８次調査では、弥生時代中期後半から末葉にかけての青銅器鋳造関係遺物、奈良時代の瓦、「寺」とヘラ描きされた土師器坏を検出している。

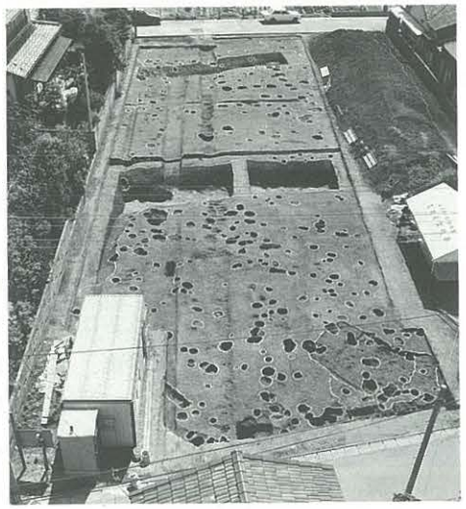


1．調査地点の位置（038-A-3．1：8,000）

検出遺構
・弥生時代中期：井戸１
・　〃　後期：井戸１
・古墳時代前期：竪穴住居址　２．溝　５
・　〃　後期：竪穴住居址　６．掘立柱建物　４

その他、多数の柱穴、土坑がある。

古墳時代前期の竪穴住居址重複しており、一棟はベッドをもっている。後期の竪穴住居址のうち一棟にカマドの煙出しが残存していた。掘立柱建物は４×４間、１×２間、２×２間の総柱、３×２間以上のものがある。溝は幅３～４ｍのものが３条、１ｍ弱のものが２条である。大型の溝はどれも方形に巡ると考えられる。


2．調査区全景（西から）

出土遺物　出土遺物は、弥生時代～古代にわたっている。注意される遺物として、大型の溝から出土した青銅製品（鋤先、性格不明の板状のもの）、玉、鉄斧、使用痕のあるとりべ片などがある。

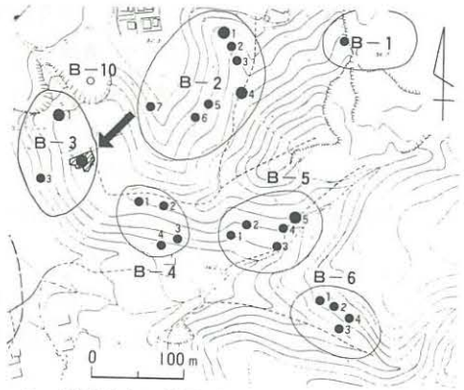
3．井戸遺物出土状況

まとめ　本調査区の大型の溝は、内法で約18mの方形と推定され、方形周溝墓もしくは居宅をめぐるものかもしれない。大型の溝から出土した、とりべや不明青銅製品は、この一帯で青銅器の生産が行われていた可能性があり、今後、注意を要する。

8704　重留（しげとめ）古墳群Ｃ－2号墳（STK－C）

所 在 地　早良区大字重留字後谷
調査原因　宅地造成
調査期間　870430～870525
調査面積　200m²
担 当 者　瀧本正志．横山邦継
処　　置　調査後破壊

位置・環境　早良平野に面する油山山塊の西縁部には、南から荒平、三郎丸、山崎の各群からなる油山西域古墳群ともいうべき群集墳が、84基あまり知られている。それらは小支脈を単位として分布し、その北側に位置する重留古墳群は７群（Ａ～Ｇ）27基で構成されている。Ｃ群は、丘陵斜面に立地する３基からなり、１号墳は、1982年に本地区の宅地造成に伴い発掘調査が行われた。今回の調査も同工事に伴うものである



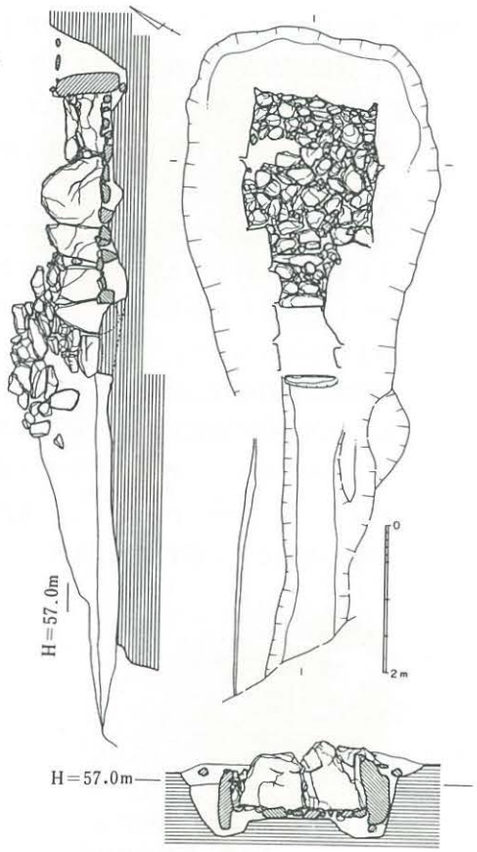
1．調査地点の位置（084-B-3．1：8,000）

検出遺構
・古墳時代後期：円墳１（横穴式石室を埋葬施設とする）

出土遺物　墳丘周辺および石室内から、多種の遺物が出土した。

墳丘－須恵器（甕、坏）
石室－装身具（ガラス小玉３．同丸玉10．碧玉製管玉11．メノウ製勾玉１．耳環３）
農工具（刀子１．不明鉄器１）

まとめ　本墳の横穴式石室はＮ－60.5°－Ｅに主軸をとる両袖型の単室である。玄室は長方形（幅1.5m、長さ1.9m）で、前壁中央に短かく、粗雑な羨道部を接続している。石材は花崗岩の転石で床面に敷石がある。装身具は、おもに玄室の右側壁沿いから出土し、対をなすとみられる耳環の点数から、少なくとも２体が埋葬がなされたと考えられる。古墳の造営年代は、出土した須恵器の年代観から、６世紀後半～７世紀ころと推測される。



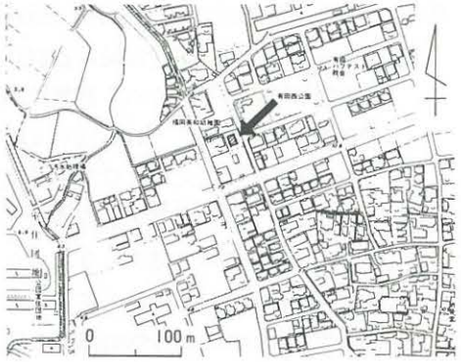
2．Ｃ-2号墳石室実測図

8705　有田（ありた）遺跡第120次（ART－120）

所 在 地　早良区有田一丁目38－3外　　**調査面積**　77㎡　開発面積　135㎡
調査原因　専用住宅建設　　**担 当 者**　山崎龍雄．米倉秀紀
調査期間　870514～870521　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査区は有田台地の西端にある。地表からの深さ約1.5mのところで、遺構面である八女粘土層を検出した。遺構面の高さは、調査区東側より４m近く低く、西側より約２m高い。周辺の地形を考えあわせると、本来は台地の西側斜面上に位置し、調査地の西側で急激に台地下に落ちるものと思われる。

北側約500mの所では、縄文時代中期～後期の環状に巡る貯蔵穴群もしくは建物群が検出されている。



1．調査地点の位置（082-Ａ-1．1：8,000）

検出遺構　・中世：土坑３．ピット

出土遺物　遺物量は少なく、総量でコンテナ１箱である。遺構面の直上にある褐色を呈する薄い遺物包含層から古墳時代以降の遺物が少量と、遺構内より中世の土師器・瓦器などがごく少量出土した。

まとめ　検出した３基の土坑のうち、もっとも大きな１基は深さ約１mと深いが、他の２基は平面形も深さも小さなものである。いずれも用途はわからなかった。

試掘調査以前は、この地点が台地の下で遺構はないものと推定していたが、調査の結果、台地の西斜面上に位置し、若干の遺構・遺物を検出した。台地の西側ラインと遺跡の範囲を考える上で、一資料を提供したと言えよう。

2．調査区全景（東から）

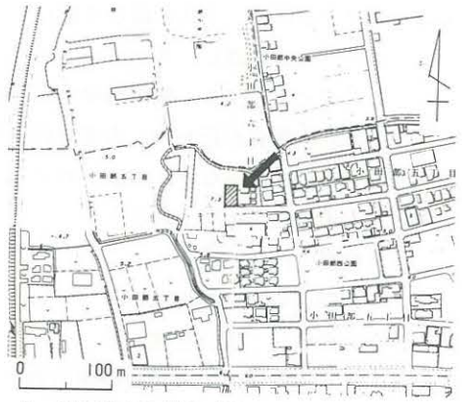
3．土坑検出状況

8706　有田（ありた）遺跡第121次（ART－121）

所 在 地　早良区小田部五丁目154－2　　**調査面積**　165㎡　開発面積　213㎡
調査原因　専用住宅建設　　**担 当 者**　山崎龍雄．米倉秀紀
調査期間　870520～870613　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、八手状に北に広がって伸びる小田部台地の北西側台地上に位置する（標高約６m）。調査地周辺では、過去36．46．64．84次調査が実施され、弥生時代の甕棺墓群や古代から中世にかけての柵列、濠状遺構が確認されている。

調査地の現状は畑地、表土下30cmで遺構面（鳥栖ローム層）となる。遺物包含層はなく、遺構面は削平されている。



1．調査地点の位置（090-Ａ-13．1：8,000）

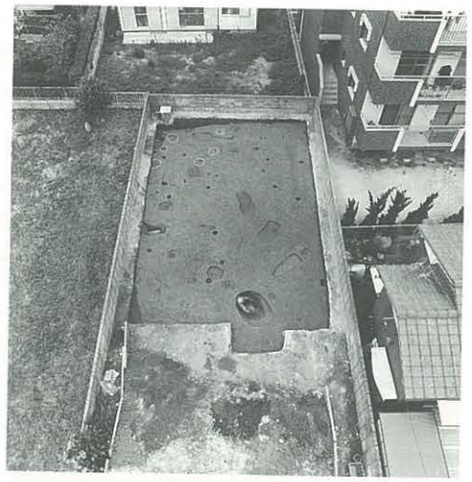
検出遺構
・弥生時代前期：貯蔵穴３
・弥生時代後期：甕棺墓１
・古墳時代後期：柵状遺構１
・中世：溝１．掘立柱建物１

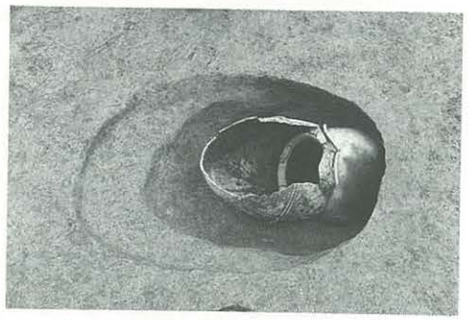
出土遺物　遺物出土量は少なく、コンテナ８箱。

おもに溝からの出土である。溝の遺物には、瓦質の擂鉢や鍋などがある。甕棺は、合口式の大型成人棺である。

まとめ　調査地周辺では、東側の第64次地点を中心として、弥生時代前期末から後期の初めころにかけての甕棺墓群が確認されているが、今回の調査でその墓域の南限を知ることができた。また前期の貯蔵穴の存在から、甕棺墓地の形成に先立って、前期段階の集落が営まれたことが判明した。

古墳時代後期（７世紀）の造営と考えられる柵状遺構は、３本の柱穴が一組となって延びる構造である。調査区中で削平のため途切れているが、第36．86次調査地点の柵状遺構に接続する。この柵状遺構は一辺50m前後の規模となり、内部に３×４間の総柱建物が配置されている。有田遺跡には、これと類似する施設が他に６ケ所判明している。律令時代に先行する官衙的施設として注目される。


2．調査区北側全景（南から）


3．甕棺検出状況（東から）

8707　有田（ありた）遺跡第122次（ART－122）

所 在 地　早良区小田部二丁目11－16
調査原因　専用住宅建設
調査期間　870525～870626
調査面積　375㎡　開発面積　425㎡
担 当 者　山崎龍雄．米倉秀紀
処　　置　調査後破壊

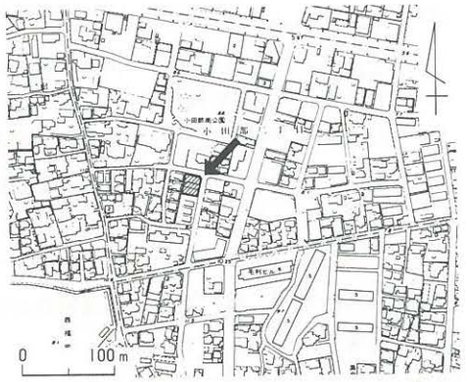
位置・環境　調査地は八ツ手状に延びる細長い台地群の中央付近に位置し、北から切り込んでいる谷の西側に立地する。南側隣接地は、昭和56年に第52次調査が行われ、古墳時代の竪穴住居址、大型の土坑などが検出されている。

検出遺構
・古墳時代：大型土坑２＋α
・奈良時代：土坑１
・時期不明：土坑３
・奈良時代：掘立柱建物６

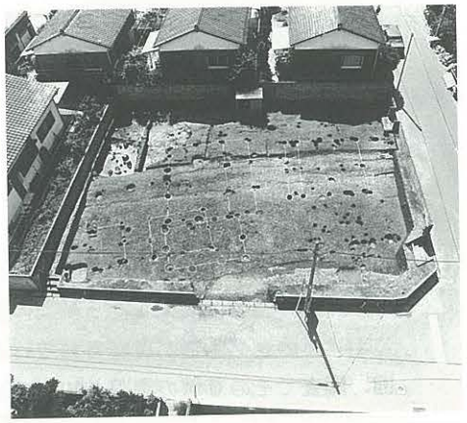
出土遺物　大型土坑からは６世紀中頃の須恵器・土師器などがコンテナ10箱分出土した。個体数が多く、器種も様々で、土師器の編年に良好な資料である。大型土坑以外は出土遺物はきわて少ないが、その中で小ピットから９世紀代の土師器の蓋付き皿が出土し、「成」または「戊」の墨書があった。

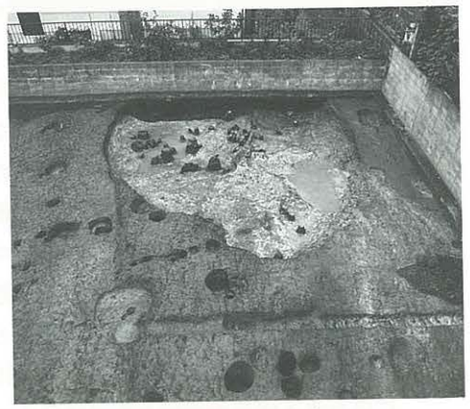
まとめ　古墳時代の大型土坑は２＋α基の切り合いであるが、いずれも６世紀中頃のもので、確実な２基の大きさは、長径4.8mと8.2mと大きい。土坑の用途は、内部から水が多く湧き出すことと、東壁が湧きだした水のためえぐれていることから、井戸に近い使われ方をしていたものと思われる。大量に出土した土器や数点の臼玉は祭祀遺物であろうか。

６棟の掘立柱建物はその方向性と規格性から２期に分けられる。これらの建物の中には廂をもつ総柱建物、間柱があり、廂をもつとともに入口がわかる建物など、やや特殊な建物もある。これらの建物は奈良時代から平安時代初め頃で、調査地南側には平安時代の大溝があり、台地中央部から見ると調査地の集落はこの大溝の外に位置することになる。



1．調査地点の位置（082-A-1．1：8,000）


2．調査区全景（東から）


3．古墳時代後期土坑（北から）

8708　野間（のま）Ｂ遺跡第１次（NOB－1）

所 在 地　南区向野二丁目238外
調査原因　共同住宅建設
調査期間　870529～870720
調査面積　古墳1基　開発面積 1447㎡
担 当 者　力武卓治．常松幹雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は、西鉄大橋駅から西に約１kmの丘陵上に位置する。この地域は、照葉樹の森が残り、閑静な住宅地であった。しかし、近年、この森を造成して大学やマンション建設が進み、緑の景観が失われつつある。

周辺での調査例は、白鳳期末に造営された三宅廃寺のみだが、筑紫丘高校には、付近から発見された弥生時代中期の甕棺が保存されている。また高宮八幡宮には、銅戈、銅矛の鋳型が祭られている。

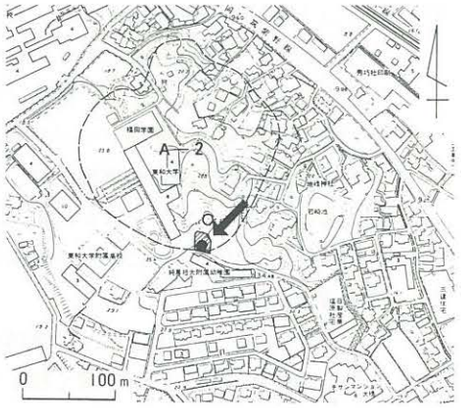
今回の調査対象地は、北東にのびる丘陵で西側は谷部をはさんで東和大学があり、東側は急激な斜面となっている。現地踏査の結果、丘陵尾根上に２基の円墳と思われる高まりが見つかり、このうち１号墳が造成工事で破壊されることが判明したため発掘調査を行った。

検出遺構
・古墳時代後期：円墳１（１号墳）

墳丘の直径は約14m、裾部に浅い周溝がめぐる。上部が大幅に削平されており、遺存する墳丘高は1.4mにすぎない。墳丘中央に、南側に短い墓道がつく墓壙がある。石材が完全に抜きとられているが、南に開口する単室の横穴式石室か、横口式石室であったと考えられる。

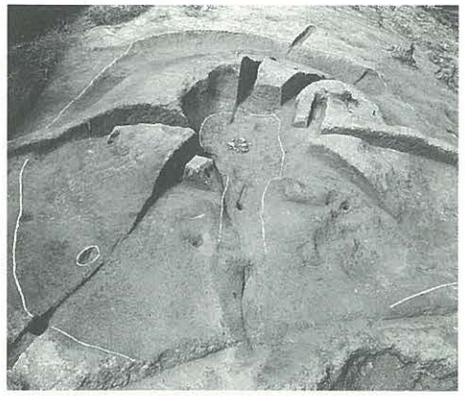
出土遺物　墓道付近から須恵器の坏、壺、甕などがまとまって出土した。また墳丘盛土内から、弥生土器や石器が発見された（コンテナ20箱）。

まとめ　１号墳の造営年代は、出土した須恵器から６世紀後半と推測される。破壊された横穴式石室の墓壙底面に、小石と中世の瓦で組んだ焚火の跡が検出された。石室の破壊は比較的早い時期に行われたのであろう。



1．調査地点の位置（038-A-2．1：8,000）

2．１号墳墳丘（南東から）

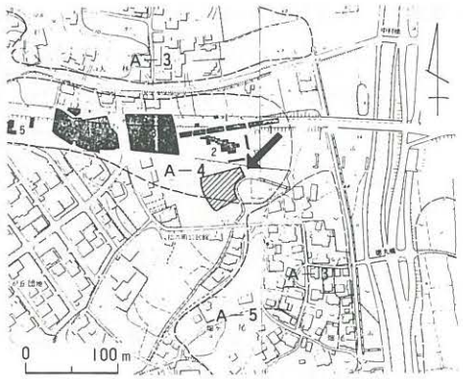

3．１号墳全景（南から）

8709　湯納（ゆのう）遺跡第９次（YUN－９）

所 在 地　西区大字拾六町字コノリ528-4外　**調査面積**　725㎡
調査原因　倉庫建設　**担 当 者**　小林義彦
調査期間　870518～870617　**処　　置**　調査後破壊

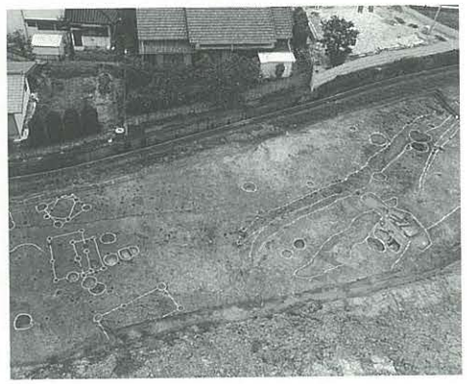
位置・環境　早良平野左岸の飯盛山・叶岳・長垂山へとつづく山塊から平野部にむかって舌状にのびる低丘陵の端部に立地する。標高は約５ｍ。本調査区周辺では、今宿バイパス建設に伴って８次に亘る発掘調査が実施され、古墳時代の建築部材等が出土したほか、縄文時代から弥生・古墳時代、古代にいたる集落跡、水田遺構等を検出している。

現状は水田。表土下約60cmで遺構面を検出した。遺物包含層は一部で薄く残っていたが、ほとんど削平を受けて消失していた。



1．調査地点の位置（104-Ａ-4．1：8,000）

検出遺構
- 縄文時代：土坑（ドングリ貯蔵穴）2
- 弥生時代中期：溝１
- 弥生時代～古墳時代前期：土坑17
- 古代：掘立柱建物１、土坑１


2．調査区全景（北から）

出土遺物　遺物はおもに溝・土坑から弥生式土器・土師器が出土した。このほか夜臼式土器、龍泉窯青磁碗、緑釉碗や柳葉形磨製石鏃・石斧・石錘も出土している。コンテナ30箱。

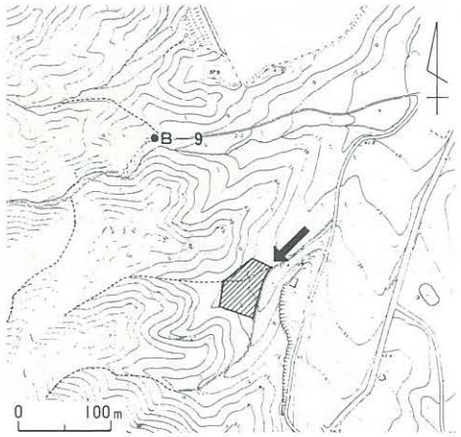
まとめ　弥生時代中期の溝は台地縁辺に沿って東流する溝幅１～1.5mのＵ字溝で、掘立柱建物跡や土坑はこの溝より高所（台地測）に分布するものが多い。土坑はいずれも円・楕円形で、弥生～古墳時代前期のものは径１ｍ未満の小型で、縄文時代のものは径1.5～1.8mと大型である。この縄文時代の土坑内からはドングリが検出されたが、遺物がなく時期は明確にできない。湯納遺跡の第４次調査でも同様のドングリ貯蔵穴が確認されており、比較的湿潤な台地縁辺にはこの種の土坑が更に拡がっていることが想定される。また、７棟確認された掘立柱建物跡は１×２間の小規模なものである。

8710　名切谷（なきりだに）遺跡第１次（NRD－1）

所 在 地　西区大字野方字名切谷　**調査面積**　658㎡　開発面積　60ha
調査原因　区画整理事業　**担 当 者**　池崎譲二．加藤良彦
調査期間　870612～870718　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、早良平野の西界を画する叶岳の東麓、開析された低丘陵の一つの谷奥部、標高57～66ｍの丘陵東側21～66°の急斜面と９～10°の緩斜面に立地している。

現状は山林。表土下30～80cmほどで遺構面（花崗岩バイラン土）に達する。上部に暗灰色土、下部に黄灰色土の２層の包含層がある。



1．調査地点の位置（104．1：8,000）

検出遺構
- 縄文時代早期以前：集石炉１．集石１
- 古墳時代後期：地山整形４．土坑３．方形石組炉２
- 古墳時代後期～奈良時代：周壁の焼けた方形土坑（焼土坑）３

2．調査区全景

出土遺物　遺物は主に下部包含層と地山整形部から出土した（コンテナ５箱）。石組炉を配する地山整形部付近の包含層より耳環を検出している。また、緩斜面包含層から鉄滓が溶着した製鉄炉か鍛冶炉の炉体と思われる焼土と鉄滓を少量検出しており、付近に古墳時代～奈良時代の鉄生産遺構の存在が考えられる。

まとめ　急斜面には等高線に直交する15×４ｍの大型の地山整形部と、等高線に平行する7.5×３ｍの中央に石組炉を配するもの、4.4×1.3m～2.8×1.2mの３段の階段状の地山整形部があるのみ。周壁の焼けた方形土坑（焼土坑）は、長さ1.2～1.4m、幅0.7～0.9m、深さ0.2～0.6mを測り、急斜面の裾部に沿って２基は等高線と平行に、１基は直交して分布する。いずれも四壁が２～４cmほど焼け、内部には灰．炭粒が充満していた。時期は周辺の遺跡の状況からすると奈良時代の可能性がたかい。

3．焼土坑ＳＫ03

8711　板付遺跡（いたづけ）H-8.9（ITZ-H-8.9）

所 在 地　博多区板付四丁目４－４　　**調査面積**　200㎡　開発面積　480㎡
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　山口譲治．吉留秀敏
調査期間　870622～870710　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、板付南台地の西に約150mに位置する標高9.5m。諸岡川東岸の沖積地であり、周辺では弥生時代の水田遺構が確認されている。現状は宅地。地表下1.4～1.5mで弥生時代の水田遺構を発見した。調査区の南西側では同レヴェルで中世の水田面がみられた。

検出遺構　・弥生時代後期前半：水田　12区画

この水田遺構は、幅30～40cmの土盛り畦畔による、20～30㎡を一区画とするものであり、水田耕土面には長さ21cm前後の足跡が多数みとめられた。

・中世：水田

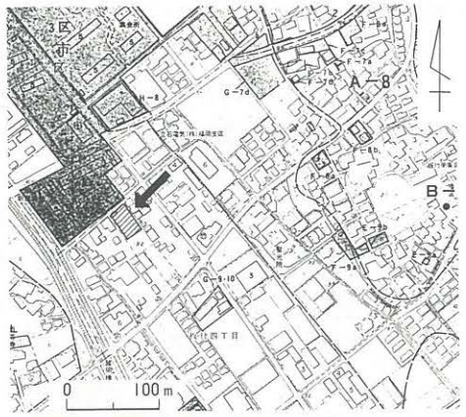
保存状態がわるく、区画などは不明である。

出土遺物　遺物は、おもに弥生時代の水田を覆う灰白色シルト～粗砂層から出土した。弥生時代前期から後期前半までの土器片や石器がある。コンテナ２箱。

まとめ　板付遺跡では、1978年に中央台地の西側沖積地から、縄文時代終末期の突帯文土器期や弥生時代前期初頭期の水田跡が検出されている。また、1980年の調査では、中央台地東側の沖積地から弥生時代前期前半期の水田跡が確認されている。

板付遺跡周辺では、高畑遺跡、那珂君休遺跡などで、弥生時代、古墳時代～中世におよぶ水田跡が検出されている。

こうしたなかで、本調査地点での弥生時代後期前半に限定できる水田跡は初見である。さらにこの時期の水田区画として、20～30㎡の小区画と、その形態を明らかにすることができたのは成果であった。



1．調査地点の位置（024-C-1．1：8,000）

2．調査区全景水田址（南から）

8712　有田（ありた）遺跡第123次（ART－123）

所 在 地　早良区有田・小田部地内　　**調査面積**　550㎡
調査原因　下水道建設　　**担 当 者**　二宮忠司．外
調査期間　870501～880331　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　有田・小田部周辺は旧石器時代から縄文・弥生時代にかけて重要な遺跡が数多く立地している。奈良時代には郡衙を思わせる倉庫群が立ち並ぶことが判明し、また鎌倉～南北朝期にかけても数多くの遺構が発見されている。

有田・小田部地区では下水道建設が86年から開始された。87年の工事範囲は８ケ所で、ほぼ同時に着工するため４班を編成し、夜間調査の２ケ所に１班を当てた。このうち６ケ所で調査を実施した。

各調査区の概要　**Ｃ地点**　旧地形は緩やかに北西に伸びる斜面に位置する。遺構は中世から近世にかけての柱穴群を検出した。

遺物は近世染付片、土師器などがある。

Ｄ地点　表土下50cmで遺構面を検出。平安時代後期の柱穴群と土壙墓１、近世の溝２。

遺物は土師器、近世染付片などが若干。

Ｅ地点　表土下50～200cmで遺構面を検出。古墳時代後期の柱穴群と近世の溝１条。

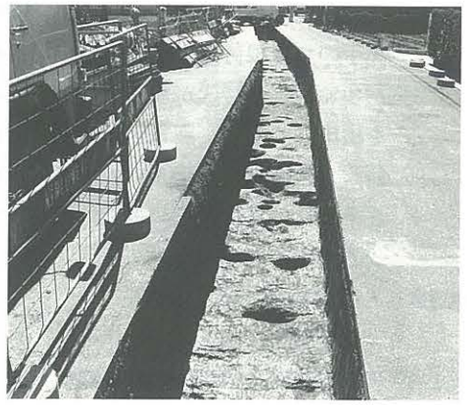
遺物は包含層と遺構の埋土から出土。コンテナ１箱。包含層から須恵器片など出土。

Ｆ地点　有田台地の東西350mを横断、夜間調査。Ｄ地点と交差する部分で古墳時代の柱穴群と近世の濠を検出。Ｅ地点と交差する部分では２mで近世の溝を検出。この部分から台地が急激に落ち始める。Ｅ地点から200m西で台地は完全に落ちる。遺物は少量。

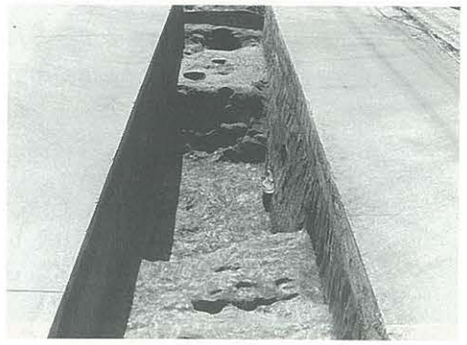
Ｇ地点　Ｆ地点の西側で夜間調査。Ｆ地点の段落ちから100m西で、弥生時代の柱穴を検出した。遺物なし。

Ｈ地点　有田台地の南側に位置する。遺構は弥生時代後期の溝２、鎌倉時代の土坑１、戦国時代の濠２。遺物はコンテナ３箱。

（調査位置は10ページ図参照）


1．Ｊ地点遺構検出状況

2．Ｉ地点建物跡検出状況


3．Ｊ地点溝検出状況

8713　有田（ありた）遺跡第124次（ART－124）

所 在 地　早良区有田一丁目24－4
調査原因　共同住宅建設
調査期間　870623～870926
調査面積　650m²
担 当 者　山崎龍雄．米倉秀紀
処　　置　調査後破壊

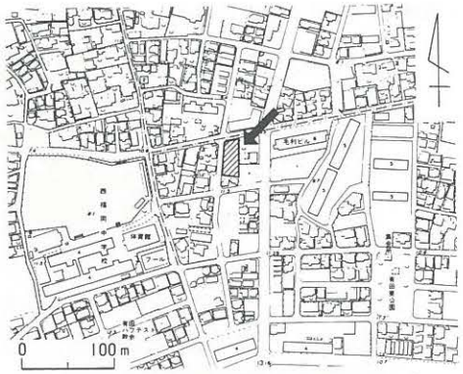
位置・環境　調査地は、小田部地区台地のほぼ中央、八ツ手のつけ根付近に位置する。周辺は調査例が多く、弥生時代から近世に至る様々な遺構を検出している。調査地内は北に向かって傾斜し、最北部で表土からの深さ－２ｍを測る。北半部には厚い６世紀後半の遺物包含層が形成されている。

検出遺構
・古墳時代：竪穴住居５
・奈良時代：溝１
・平安時代：大溝１．井戸２
・時期不明土坑10．　ピット－多数

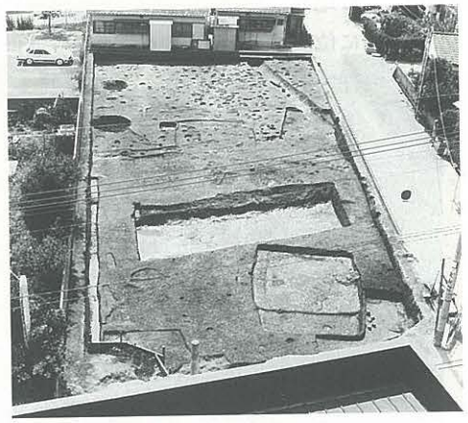
出土遺物　遺物は、遺物包含層をなどから、古墳時代の遺物を中心にかなり出土した。特記する遺物として、平安時代の井戸から落書き状に描いた墨書土器が１点出土した。

まとめ　調査地点の南側約50ｍのところには、古代の大型建物群とそれに伴う溝などがある。調査区を南北に貫なる奈良時代の溝は、この大型建物群から貫なるものである。平安時代の大溝は、東西方向に走る幅５ｍの大型のもので、その意義や用途は不明である。調査地北側の第52・22次調査ではこの大溝に伴うと考えられる古代の建物が規則的に10棟ほど見つかっており、該期の建物はさらに北側に延びている。今回の調査における建物については、ピットの数があまりにも多すぎるため、現場で把握しきれずに現在図上復元中であるが、大溝の両側に該期の建物があると思われ、大溝の用途や奈良時代の大型建物群も含めて、整理する必要があろう。

古墳時代の住居址は、いずれも６世紀後半のもので、主柱穴は４本で、カマドをもつタイプである。



１．調査地点の位置（082-Ａ-1．１：8,000）


２．調査区全景（北から）

３．竪穴住居跡検出状況（西から）

8714　吉武（よしたけ）遺跡第11次（YST－11）

所 在 地　西区大字吉武
調査原因　道路建設
調査期間　870601～870909
調査面積　2810m²　開発面積　5120m²
担 当 者　二宮忠司、佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　室見川の中流域西岸、背振山系から長垂山へと南北に連なる山塊の一つである飯盛山から派生する標高28～30ｍの扇状地に位置する。調査区周辺では、圃場整備に伴い広範囲にわたる調査が行われ、多くの成果が得られている。本調査区は圃場整備以前は水田、畑。

表土下0.8～１ｍほどで遺構面が検出され、北半部では厚さ約20cm前後の遺物包含層が残存していたが、南半部はかなりの削平を受けていた。

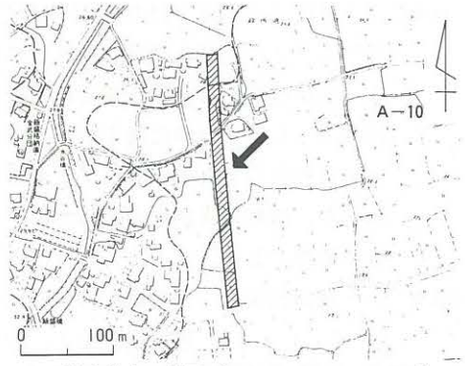
検出遺構
・古墳時代中期：古墳１
・古墳時代後期：竪穴住居跡１．河川１
・古墳時代後期から律令時代：掘立柱建物跡14
・近世：溝８．石組遺構１

出土遺物　遺物は、おもに柱穴掘り方、河川、溝の埋土から出土した。コンテナ30箱。

まとめ　古墳１基は後世の削平により墳丘が失われており、主体部、周溝の北側は昭和60年度の圃場整備に伴い既に発掘調査されている。

旧谷部では流路の跡が検出され、多量の土器、板材が出土した。６世紀後半には埋没している。掘立柱建物の多くは流路の埋没と同時期のもの。調査区中央部で流路をはさむように集中して検出された。調査区北側では、近世の溝が集中して検出され、周辺域と様相を異にしている。

吉武遺跡の大規模調査は、今回の道路建設で終了した。これまでの調査では旧石器時代、縄文時代後期の遺構と遺物、弥生時代前期から中期にかけての膨大な甕棺群、造り出し付円墳を含む古墳群、初期須恵器段階の掘立柱建物集落など、重要な発見があった。



１．調査地点の位置（093-Ａ-12．１：8,000）

２．調査区全景（北から）

３．調査区南部（南から）

8715　重留窯跡（STY－1）

所 在 地　早良区大字重留字後谷426外　　**調査面積**　200m²
調査原因　宅地造成　　**担 当 者**　瀧本正志，横山邦継
調査期間　870526～870711　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本遺跡は、早良平野の東にそばだつ油山山塊から、北に延びる標高60mほどの小支脈の東斜面に位置する。同丘陵は花崗岩風化土を地盤土とし、この中に径１mをこえる転礫を多量に包含している。隣接する重留古墳群の調査中、偶然に灰原を発見したのが本窯跡調査の契機である。

検出遺構　・古墳時代後期：須恵器窯跡１
竪穴住居址１，炉址１

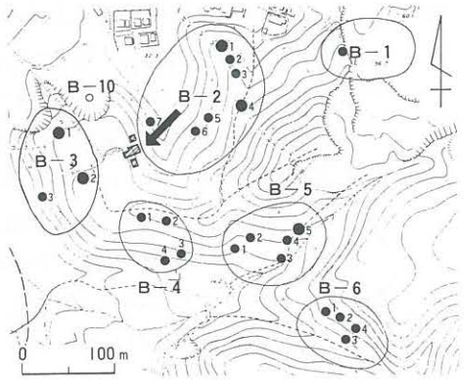
出土遺物　窯体床面および灰原から、須恵器の甕、坏蓋、甑、高坏、器台など、また竪穴住居址から土師器甑などが出土した（コンテナ10箱）。

まとめ　福岡市域内では、これまで西区今宿新貝、南区中島、東区湯ヶ浦、和白高見などで須恵器窯跡が確認されている。このうち、内容が知られるのは、新貝窯跡のみで他については実態がわからない状況である。

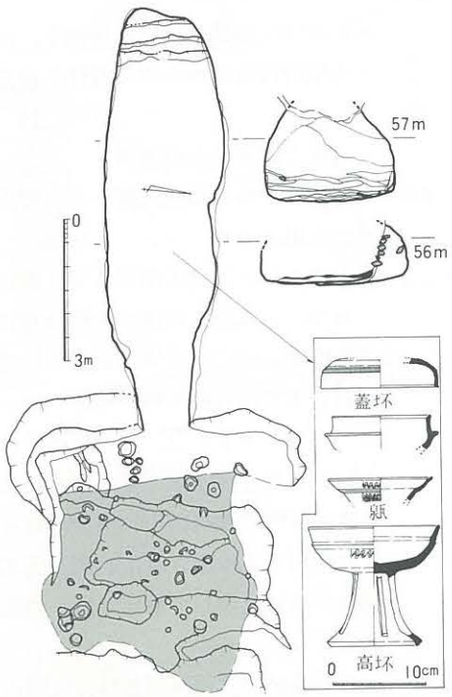
今回の調査は偶然の発見によるもので、灰原の大半を失っていたが、窯体が全長９m、焼成部最大幅2.5m、同天井高1.8m以上の規模が確認できた。出土した須恵器は、型式差が小さく、窯体各部の補修部分も少ない点から短期間の操業と考えられる。燃料した木材はカシ類などの広葉樹でしめられていた。

ところで、本窯で焼成された製品は、良好なものは多くないが、蓋坏の蓋天井部のヘラ削り範囲の減少、口縁部との境となる段の鈍化、高坏脚部の長脚化傾向などから、編年的には、ⅡＡ期（小田編年）、TK47～MT15（田辺編年）に併行する段階と考えられる。

今後、周辺地域の集落、墳墓遺跡の遺物を通じて、製品の流通範囲を検討していく必要がある。



1．調査地点の位置（084．1：8,000）



2．窯跡と出土須恵器実測図

8716　浦田遺跡第2次（URK－２）

所 在 地　早良区大字重留字浦田　　**調査面積**　116m²
調査原因　道路建設　　**担 当 者**　小林義彦
調査期間　870629～870708　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本遺跡は、油山山塊西麓に位置し、西へ舌状に派生する標高32mの丘陵の比較的急な西斜面に立地する。本調査区の南側で行われた第１次調査区では10基の甕棺墓が調査されている。また、谷を隔てて北方約200mの舌状丘陵の西側斜面上に岩隈遺跡があり、弥生時代前期末から中期末の甕棺墓70基、土壙・木棺墓からなる共同墓地群が確認されている。

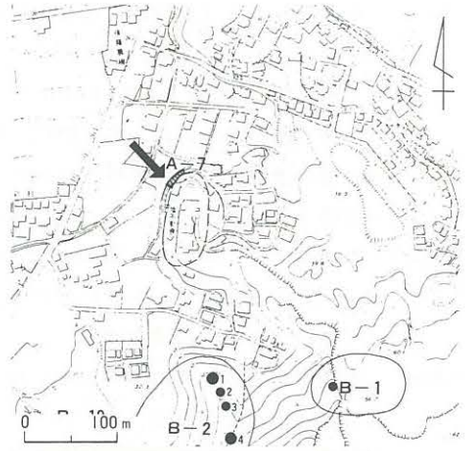
現状は道路・畑地。道路上は30～50cm程削平を受けており、小児甕棺墓は半分程が消失している。

検出遺構　・弥生時代中期：甕棺墓10

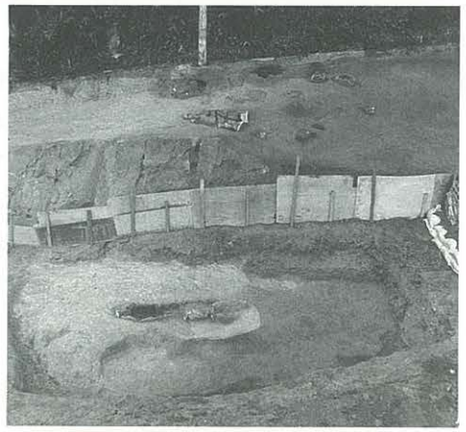
１号甕棺墓　成人　合口　甕＋甕＋甕＋甕
２号甕棺墓　成人　木蓋単口　甕
３号甕棺墓　小児　単口？　甕
４号甕棺墓　小児　接口　甕＋甕
５号甕棺墓　小児　木蓋単口　甕
６号甕棺墓　小児　覆口　甕（円彩）＋甕
７号甕棺墓　成人　接口　鉢＋甕
８号甕棺墓　小児　単口？　甕
９号甕棺墓　成人　覆口　鉢＋甕　人骨
10号甕棺墓　成人　単口　甕

このうち１号甕棺墓は４個分の中型甕を継ぎ合わせている。まず、甕に胴部下半を打ち欠いた甕を接し、更に１個の甕を縦に二分した甕を続けて覆うように被せている。この甕の下は真砂土を床状に貼っている。伸展葬した足部を覆ったものであろう。

まとめ　浦田遺跡は第１次調査と併せて20基が調査され、すぐ北側道路の切通し断面にも数基の甕棺が確認されており、数十基の甕棺墓によって構成される共同墓地になろう。土壙墓・木棺墓は未検出。



1．調査地点の位置（084-Ａ-7．1：8,000）


2．調査区全景（西から）

8717　比恵（ひえ）遺跡第17次（HIE－17）

所 在 地　博多区博多駅南四丁目117-2外　**調査面積**　405㎡
調査原因　ビル建設　**担 当 者**　山口譲治．吉留秀敏
調査期間　870629～870728　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、比恵台地のほぼ中央部にあたり、隣接して第２、６、16次調査地点がある。標高約6.5m。地表下0.2～0.4m で基盤の鳥栖ローム層があらわれ、弥生時代を中心とする各種の遺構、包含層が検出された。

遺構は、調査区全体に広がっている。

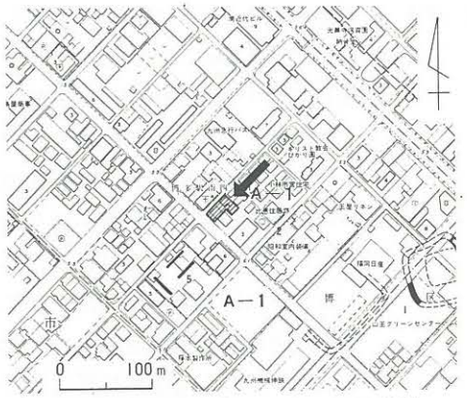
検出遺構
・弥生時代中期後半～後期前半：井戸５．
　竪穴住居址４．掘立柱建物１．土坑１
・古墳時代中期；古墳周溝

出土遺物　遺物はおもに井戸内から出土した。弥生中期後半～後期前半の壺、甕、鉢などの土器。三叉鍬などの木製農耕具や、多数の石器片があるほか、銅鏃が出土している。遺物量は、コンテナにして20箱あまり。

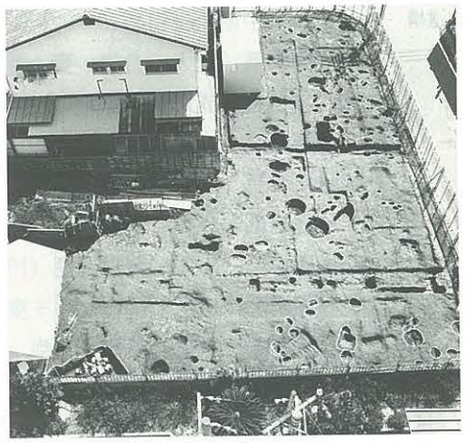
まとめ　検出された井戸は、中期後半３、後期前半２である。竪穴住居址は、遺存状況が悪く、柱穴と中央炉址を残すのみである。すべて円形で、このうち３棟は柱穴の重複などから、２～３回の立て替えが行われたと推定される。炉穴内から出土した土器から、住居址はすべて中期後半に位置ずけられる。

古墳周溝は、第６次調査で見つかった古墳（比恵１号墳）の続き部分である。

比恵遺跡では、1933年の鏡山猛、森貞次郎氏による調査開始いらい、17次の調査を実施している。その結果、弥生時代前期から古墳時代にいたる集落、墳墓が多数発見されている。本調査区も弥生中期～後期の集落である。ほぼ同時期に営まれた甕棺群は、東側20m の位置で検出されている。このような墳墓と集落の関係は、本遺跡の各所で認められる。これらの成果と今後の検討が、当該期村落史研究にはたす役割は大きい。



1．調査地点の位置（037-Ａ-1．1：8,000）


2．調査区全景（東から）

3．井戸遺物出土状況

8718　有田（ありた）遺跡第125次（ART－125）

所 在 地　早良区小田部五丁目172外　**調査面積**　722㎡　開発面積　732㎡
調査原因　戸建住宅建設　**担 当 者**　山崎龍雄．米倉秀紀
調査期間　870629～871007　**処　　置**　調査後破壊

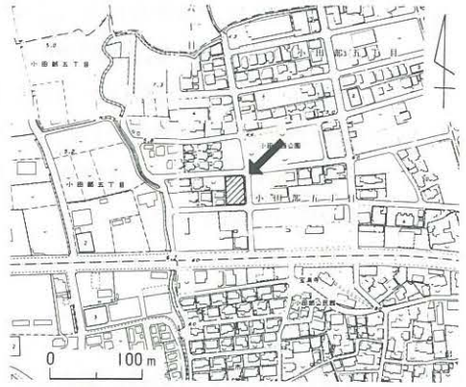
位置・環境　本調査区は、北へ八手状に広がる台地の西側中央部に立地する。標高７m。調査地周辺は、小田部地区でも最も調査が進んでいる地域であり、弥生時代の甕棺墓や古墳時代全般にわたる集落址が検出されている。現状は畑地。表土下20～40cm で遺構検出面の鳥栖ローム層となる。南側は削平によって遺構の残りがよくないが、北側は良好であった。

検出遺構
・弥生時代：竪穴住居址１．貯蔵穴５
・古墳時代前期～中期：竪穴住居址８
　掘立柱建物５
・中世：溝２
・近世：溝１．畝状遺構

出土遺物　中世の溝や古墳時代中期の竪穴住居址からおもに出土した（コンテナ14箱）。

１号住居址は火災にあってそのまま廃棄されたと考えられ、炭化物とともに多量の土師器（高坏、甕、壺）、陶質土器（２点）、砥石、滑石製勾玉などが出土した。中世の溝からは、輸入磁器や土師器、須恵器、滑石製石鍋片が出土している。

まとめ　１号住居址出土の陶質土器は、胎土分析の結果、朝鮮半島製の製品と判明した。また、弥生時代の住居址や貯蔵穴の検出から、この一帯に弥生時代の生活面があることが分かった。また１号住居址は、コの字形のベッド状遺構をめぐらす住居址（布留式併行期）に重複する住居址で、４本の主柱があり、竪穴住居の構造変化を探る手掛りになるであろうう。また、２号、４号掘立柱建物は、いずれも竪穴住居址と主軸方向を揃えており、同時期に併存していた可能性がつよい。



1．調査地点の位置（082-Ａ-1．1：8,000）

2．調査区全景（北から）

3．住居址検出状況

8719　西新町遺跡第４次（NSJ－4）

所 在 地　早良区西新三丁目11　　**調査面積**　500m²
調査原因　道路建設　　**担 当 者**　松村道博
調査期間　870620～871003　　**処　　置**　調査後破壊

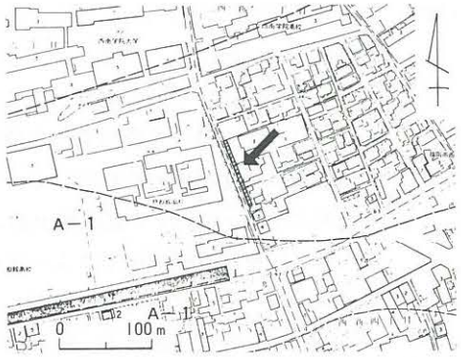
位置・環境　西新町遺跡は、博多湾にそって東西に伸びる古砂丘上に立地する。本調査地点は、遺跡の北東部にあたり、標高４～５ｍである。１次調査は修猷館高校南側の民間ビル建設、２次調査は地下鉄建設、３次調査は高校図書館建設に伴って調査を実施。

検出遺構
・古墳時代前期：竪穴住居跡８．土坑21
　　溝１
・近世：溝１．土坑１

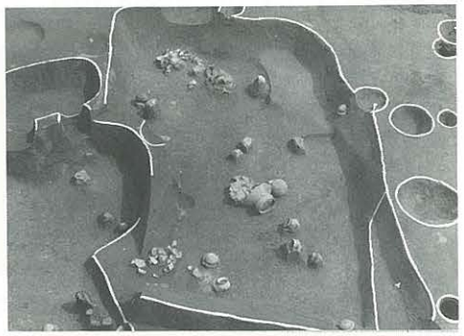
出土遺物　遺物は、おもに住居跡．溝内から土師器を主体に出土した（コンテナ65箱）。他に鉄器（刀子．ノミ状鉄器．ヤリガンナ）、土錘、石製品がある。SC－31からは布留式併行期の良好な一括資料が出土した。他に、陶質土器や朝鮮半島系の土器があり、彼地との交流をうかがわせる。

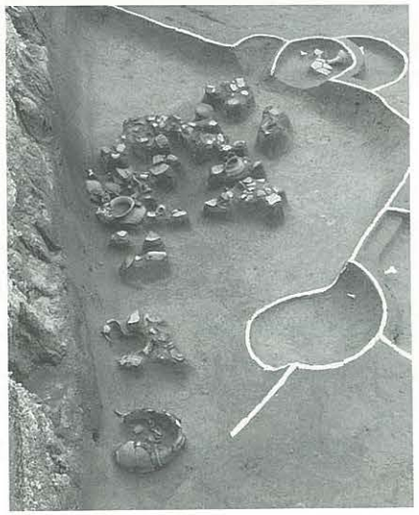
まとめ　調査地点は、従来想定されたの西新町遺跡の範囲外であったが、遺跡領域がさらに広がっていることが判明した。

調査は、幅７～８ｍ、長さ100mの狭い面積での調査であったが、古墳時代前期の住居跡群を検出することができた。なかでもSC－31住居跡では、甕、壺、高坏、小型丸底壺などが完形で出土し、この時期の土器セットとして良好な資料であろう。SC－39住居跡からは硬質の陶質土器がある。胴部外面は格子目の叩きである。他に土師質の甑の把手、底部片も数点あり、朝鮮半島との交流をうかがわせる。住居跡の壁面にカマドを設置し、いっぽう屋外炉も設けている。生活形態の変化をうかがい知ることができる。



1．調査地点の位置（071-A-1．1：8,000）


2．竪穴住居址ＳＣ31


3．竪穴住居址ＳＣ39

8720　女原遺跡４次（MBR－4）

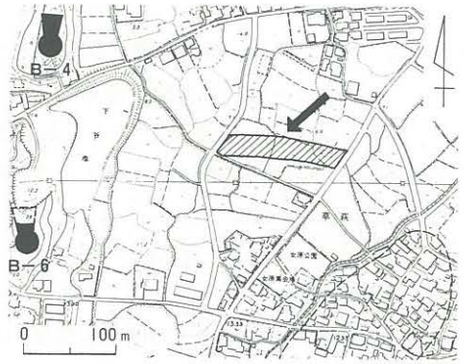
所 在 地　西区女原地内　　**調査面積**　6,000m²
調査原因　道路建設　　**担 当 者**　松村道博．吉武　学
調査期間　870701～871031　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　遺跡は、今山から南へ1.5Km離れた水田地帯にあり、谷状小平野の入口付近に立地する。西側200mには若八幡宮古墳、山の鼻１・２号墳、東側400mには今宿小塚、さらに800mに今宿大塚を乗せる丘陵が延びている。過去に圃場整備に伴い２回の調査が行われ、古墳時代の集落跡などが確認されている。３次調査では、古墳時代集落、中世の水田を検出した。遺跡の層序は、上から、１：表土　２：水田床土　３：砂層　４：黒色土　５：黄褐色土で、黒色土が平安時代遺物包含層であると同時に中世水田の耕作土であり、この水田跡は砂層（大規模な洪水などによるものか）の堆積によって埋没している。

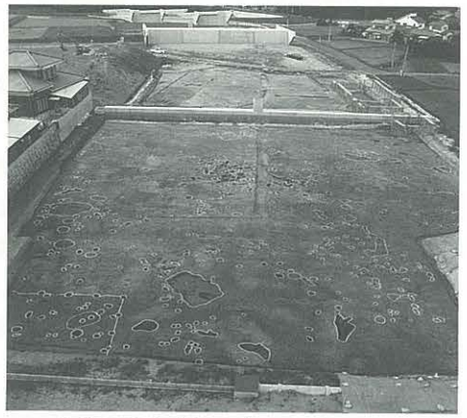
検出遺構　古墳時代の遺構は、竪穴住居跡３棟、掘立柱建物、溝、土坑などで、調査区の全域に散在している。

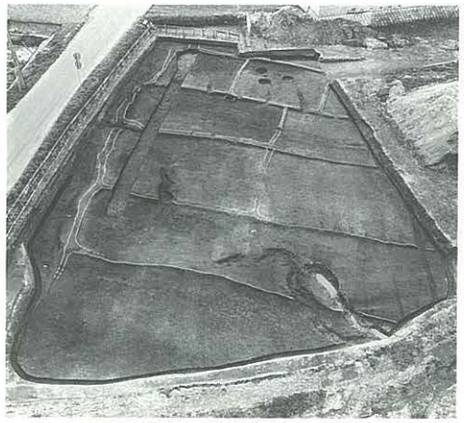
出土遺物　各遺構からは５～６世紀ころの遺物が出土しているが、それに混じって朝鮮半島系の硬質．軟質土器が出土しており注目される（コンテナ50箱）。

まとめ　中世の水田跡は、調査区の東半部で13枚を確認したが、西半部でも耕作土は削除されているものの多数の足跡がが検出でき、おそらく調査区全域に水田跡が広がるものと考えられる。水田は南から北に下る傾斜に合わせて棚状に造られており、畦の方向は磁北に対し約47°東偏している。水田に伴う水路、水口などは検出していない。また水田相互の給排水は、畦越しに行われている。水田の耕作土には縄文～平安時代の遺物が含まれており、水田を覆う砂層中から13世紀代の白磁片が出土したことから、当水田は11～13世紀ころに営まれていたものと考えられる。



1．調査地点の位置（120．1：8,000）


2．調査区全景（東から）


3．中世水田跡（北から）

8721　広石（ひろいし）遺跡Ｄ地点（HRD－1）
広石古墳群Ⅶ群（HIK－7）

所 在 地　西区大字野方字名切谷
調査原因　区画整理事業
調査期間　870629～871009
調査面積　1,747m²　開発面積　60ha
担 当 者　池崎譲二．加藤良彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、叶岳東麓、開析された多くの低丘陵の一つの谷奥部、標高49～61mの丘陵東側22～28°の急斜面と7～8°の緩斜面上に位置し、名切谷川をはさんで広石遺跡Ｃ地点に相対している。

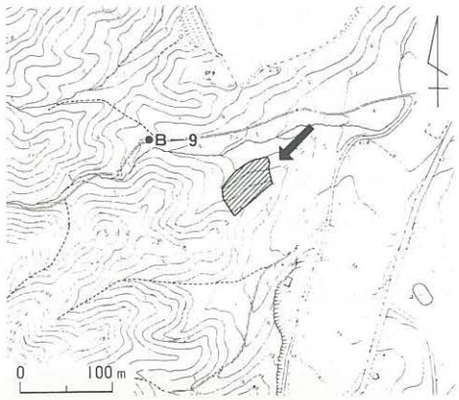
現状は山林。表土下30～150cm程で遺構検出面の花崗岩バイラン土に達する。上部に黒灰色土、下部に黄灰土の遺物包含層がある。

検出遺構
・縄文時代早期以前：集石炉１
・古墳時代後期以前：方形墓状土坑３．円形貯蔵穴状土坑５
・古墳時代後期：竪穴住居址５．土坑５．甕棺１．古墳１
・古墳時代後期～奈良時代：掘立柱建物５．方形焼土坑16．地山整形４

出土遺物　遺物は包含層上層で奈良時代を下限とするもの、下層で古墳時代終末期を下限とするものが発見された。竪穴住居址など遺構の遺物とあわせてコンテナ20箱ほど出土した。

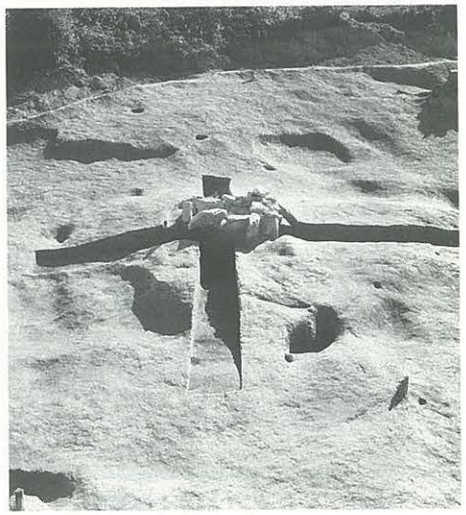
まとめ　古墳１基と甕棺、方形墓状土壙は急斜面に位置して墓域を形成する。甕棺付近の土坑と包含層中より滑石製勾玉２点を検出しており、墓前祭祀がおこなわれたと考えられる。

掘立柱建物群は３×４間を最大とし、重複関係から２時期以上にわたると考えられる。また一部の竪穴住居址よりも新しく、Ｃ地点の成果を勘案すれば、大部分は竪穴住居址よりも後出すると思われる。周壁の焼けた土坑の大部分は上部包含層下から竪穴住居址を切った状態で検出された。竪穴住居址、掘立柱建物は下部包含層中から検出されており、これよりも後出すると思われる。



1．調査地点の位置（104．1：8,000）

2．Ｄ地点全景（北から）


3．Ⅶ－１号墳（北から）

8722　脇山（わきやま）Ａ跡第２次（WKA－2）

所 在 地　早良区大字脇山地内
調査原因　圃場整備
調査期間　870804～871228
調査面積　5,000m²　開発面積　50,000m²
担 当 者　力武卓治．常松幹雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　脇山Ａ遺跡群は、早良平野の奥部、河川の堆積によって形成された扇状地にあたる。62年度の基盤整備事業の対象区は、小笠木川の流路に接する東北部一帯である。

調査対象区は、切土によって削平される部分と道路・水路などの永久構築物が計画されている部分とした。

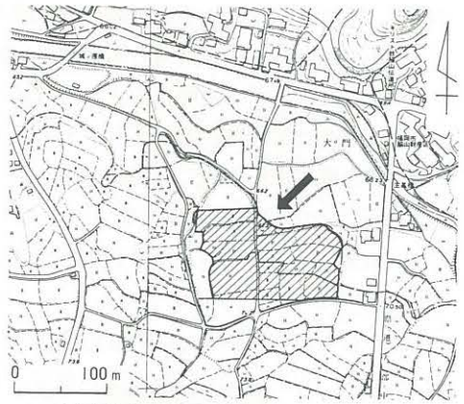
検出遺構　調査は、まず小笠川の氾濫原と推定される部分に試掘溝を設定して、遺構確認を行った。土層は、耕作土を除去した時点で真砂土となり、その50～70cm下で砂礫の層となる。典型的な沖積層の組成である。ここでは遺構・遺物ともに検出されなかったので、調査の主体を工事予定区の南東部へと移行した。

道・水路部分および削平をうける部分について遺構確認を続けたが、明確な遺構は検出できなかった。

出土遺物　特筆すべき遺物では、耕作土下の暗黄褐色土層より出土した先土器時代の細石刃や細石核二点があげられる。また１次調査につづいて縄文時代晩期の土器・石器も出土した。石器では黒曜石やサヌカイトの石鏃、凝灰岩製の石斧などがある（コンテナ20箱）。

２次調査では弥生時代前期の壺形土器片も発見された。土器は小片ではあったが、有軸羽状文を刻んだ胴部と思われる。他は古代から中世にかけての須恵器や貿易陶磁、土器などが出土している。とくに遺存度の良好なものに鎬蓮弁の青磁碗がある。

まとめ　２次調査では、明確な遺構は確認しえなかったものの、旧石器から中世にいたる遺物を検出できたことは、脇山の歴史を探る手懸りとなるであろう。



1．調査地点の位置（早10-Ａ-1．1：8,000）

2．調査区南東部（西から）

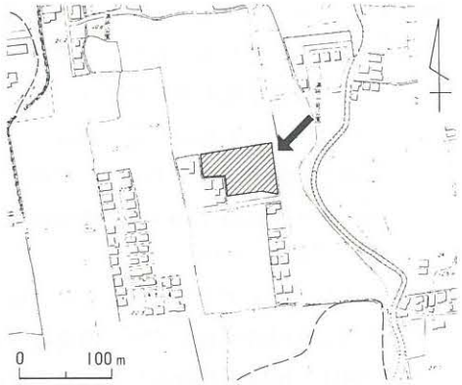
3．調査区南東部（東から）

8723　四箇（しか）遺跡第22次（SIK－22）

所 在 地　早良区大字重留字満所1068-4外　**調査面積**　3,000m²　開発面積　3,300m²
調査原因　老人福祉センター建設　**担 当 者**　横山邦継．宮井善朗
調査期間　870731～871130　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は、油山西端部の丘陵裾部を北流する小河川、金屑川の西岸に近い標高21mほどの沖積地に位置する。

調査対象地は水田であり、おもな層序は、第１層（表土･床土、25cm）、第２層（黒～灰褐色シルト10cm）、第３層（暗黄褐色シルト、20cm、縄文時代包含層で調査区南辺に限られる）、第４層（灰暗黄褐色シルト、20cm）、第５層（暗紫灰色粘土、40cm）、第６層（青灰色粘土、30cm）、第７層（青灰色礫層、上面の標高は約20m）となる。

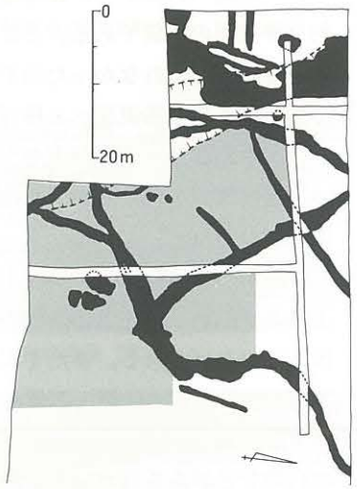


1．調査地点の位置（084-A-2．1：8,000）

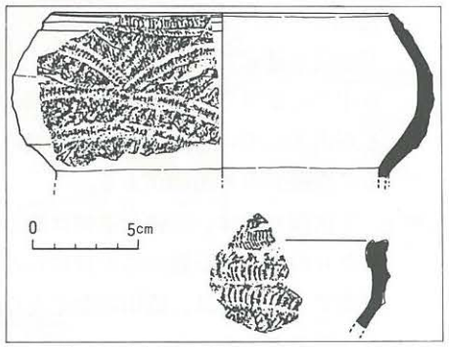
検出遺構
- 縄文時代中期：土坑３
- 弥生時代前期：溝１
- 弥生時代中期：溝３
- 古墳時代後期：溝１
- 平安時代：溝２、土坑１
- 時期不明：溝10、土坑１

出土遺物　遺物はおもに溝から出土した（コンテナ30箱）。縄文時代中期初頭（鷹島式）～晩期の土器、石器類。弥生時代前期から中期の土器、石器類、木製農耕具のほかに、装身具（漆塗腕輪）などがある。平安時代の遺物としては緑釉陶器が注意される。

まとめ　これまで、四箇遺跡では21次にわたって継続的に調査が行われた結果、中期を除く縄文時代各時期の生活遺構と、これに伴う遺物や弥生時代中期初頭を前後するころの甕棺墓地が発見されていたが、今回の調査で縄文時代中期初頭の鷹島式土器や弥生時代前期の河川と出土遺物が検出されたことによって、両時期の遺跡空間の様子がより一層明らかになった。



2．調査区全体図

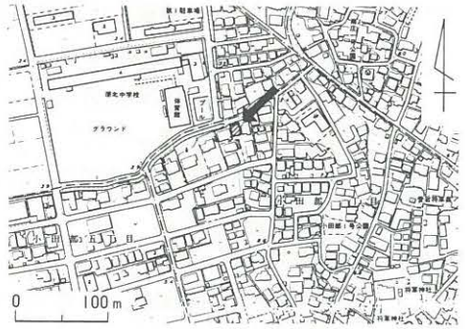


3．出土縄文土器実測図

8724　有田（ありた）遺跡第126次（ART－126）

所 在 地　早良区小田部一丁目34-9　**調査面積**　111m²　開発面積　143m²
調査原因　専用住宅建設　**担 当 者**　山崎龍雄．米倉秀紀
調査期間　870804～870826　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査地は小田部地区台地の北端部にあり、北側の台地下との比高差は約３mを測る。当該地の周辺では第25・27次調査などが行われ、弥生時代の住居址や中世の掘立柱建物が検出されている。



1．調査地点の位置（081-A-3．1：8,000）

検出遺構
- 弥生時代前期・中期：甕棺墓４
- 弥生時代：土坑（木棺）墓２．土坑３

出土遺物　出土した遺物は、甕棺の他その多くが弥生土器である。甕棺は金海式１基、汲田式２基、須玖式（壺棺）１基である。その他に祭祀遺構と考えられる土坑より弥生時代中期の土器群などが出土している。

まとめ　検出した甕棺墓は前述のとおり３期に分けられる。Ⅰ期は金海式の合わせ口甕棺で、台地北端部に差し込むように斜めに葬られている。Ⅱ期は汲田式の２基で、ともに合わせ口甕棺を向かいあうように水平に埋置している。南側の甕棺には成人女性を、北側の甕棺には成人男性を葬っている。夫婦であろうか。Ⅲ調査区西側にある須玖式の壺棺で、合わせ口である。このうちⅡ期の２基は長辺約2.5m短辺約1.8mの矩形を呈する大型の掘り方をもつ。またⅡ期の甕棺の北側にある木棺もほぼ同規模の掘り方で、方向性から考えてⅡ期の甕棺と同時期と考えられる。

当該地周辺では東側を除いて隣接地の調査が終っており、少なくとも北・西・南側には墓地群が伸びないことが判明している。有田遺跡ですでに明らかな他の弥生時代墓地群に比べ、範囲が狭い。またⅡ期の墓は副葬品はないものの、その規格性と規模は有田遺跡の中ではやや特異なものと言えよう。

2．調査区全景（北から）

3．ＳＫ01、02　検出状況（北から）

8725　博多遺跡第36次（HKT－36）

所 在 地　博多区祇園町42外　**調査面積**　332㎡
調査原因　ビル建設　**担 当 者**　山口譲治．吉留秀敏
調査期間　870805～871015　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、博多遺跡の中央部、標高約5.5mの最高所に近い。基盤は砂層であり、地表下2～3mに弥生時代から近世にいたる各種の遺構、包含層がある。

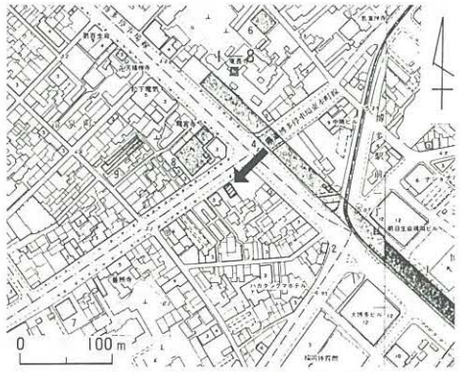
近世から弥生時代中期までの5時期の遺構面を調査した。

検出遺構
- 弥生時代中期：甕棺5
- 弥生時代末～古墳時代初：竪穴住居址5
- 古墳時代前期：方墳1
- 古代：井戸1．土坑、柱穴 多
- 中世：井戸30．土坑50．柱穴 多
- 近世：井戸6．土坑11．溝3．柱穴 多

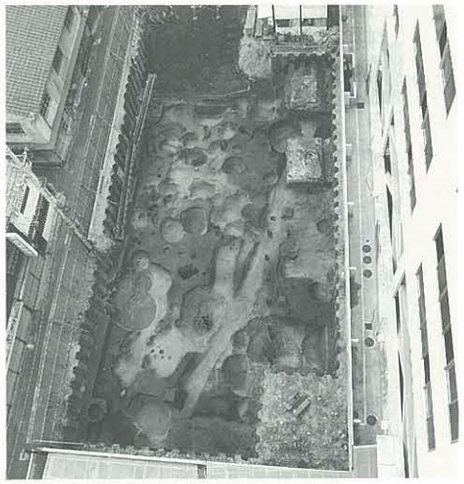
出土遺物　遺物は各時期のものが多数出土した（コンテナ150箱）。

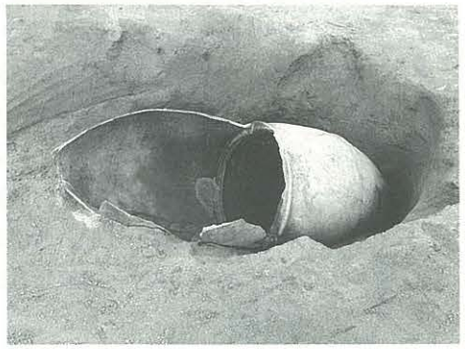
弥生時代中期の甕棺、人骨。同中期～後期の土器、石器。古墳時代前期の土師器、鉄器。古代の土師器、須恵器、瓦器椀、輸入陶磁器、金属製品。中世の各種輸入・国産陶磁器、土器類、石鍋などの石製品、金属製品など。また、人面墨書土器、墨書土器（「僧器」「二」など）がある。近世の各種陶磁器、土器、人形製品および鋳型、博多人形師「正木宗七幸弘、□三壬寅年」銘入りの人形片がある。

まとめ　弥生時代の甕棺群は、地下鉄調査区内で検出された延長であり、列状配置をみる。弥生～古墳期の住居址は保存が良く、埋土内の土器は近畿系のものが多い。方墳は一辺15mであり、並列する2基の割竹形木棺を埋葬主体とする。副葬品に刀子1点がある。古代の溝は数回の改修があり、中世まで数世紀にわたって使用されたとみられる。中世の遺構、遺物は膨大であり、11世紀～14世紀前半のものが多い。



1．調査地点の位置（049-A-1．1：8,000）


2．調査区全景（南から）


3．甕棺墓検出状況

8726　鋤崎古墳群第1次（SKK－A）

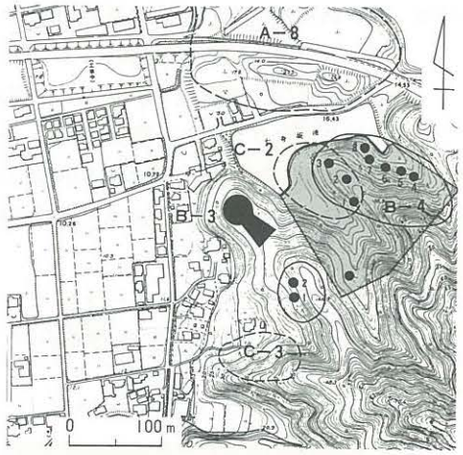
所 在 地　西区大字今宿青木字鋤崎421-4外　**調査面積**　測量　開発面積　9,420㎡
調査原因　ゴルフ場建設　**担 当 者**　小林義彦
調査期間　870817～870902　**処　　置**

位置・環境　福岡・糸島両平野に挟まれた狭長な今宿平野の東端部に位置する、本古墳群は、飯盛山から叶岳・長垂山とつづく山塊の西麓から西北方向に舌状に派生した標高30mの丘陵の屋根上、斜面状に立地し、11基の小円墳群からなる古墳時代後期の群集群である。現状は山林。

本古墳群の谷を挟んだ西側の丘陵上には、丘尾切断によって前方部端部を造り出す全長62mの前方後円墳である鋤崎古墳が立地する。後円部には最古期の横穴式石室があり、この石室内には3基の埋葬棺が埋納されている。これらの中には6面の青銅鏡や長方板革綴短甲・銅釧・直刀・鉄斧・刀子などの武具類のほかガラス玉・管玉などの玉類が多数副葬されていた。

まとめ　11基の小円墳からなる本古墳群は、鋤崎古墳ののる丘陵の南方東斜面に立地する1基と谷を挟んだ丘陵上に立地する10基に二大別される。この丘陵上の古墳群は、更に尾根上に並ぶ3基と西側斜面に立地する1基、東側斜面に立地する6基の三群に細分される。

本古墳群の調査は、丘陵上の立ち木を伐開する作業からはじめ、古墳周辺の清掃作業をして、気球による空中写真の撮影を行った。その後、古墳群の保存措置を講じるための協議にはいり現在に至っている。



1．調査地点の位置（112-B-4．1：8,000）

2．古墳群全景（北から）

8727　那珂遺跡第10次（NAK－10）

所 在 地　博多区竹下三丁目1-1　　**調査面積**　862㎡
調査原因　倉庫建設　　**担 当 者**　山口譲治．吉留秀敏
調査期間　870817～871031　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は、御笠・那珂両河川下流域の間に広がる那珂遺跡の西域にあたる。標高８m。現状は工場敷地で、セメント舗装がおこなわれており、これを除去すると、鳥栖ロームを基盤とする弥生時代から中世の遺構、弥生時代から古墳時代の遺物包含層が検出された。

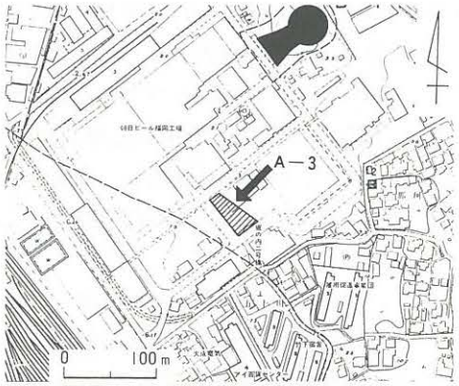
検出遺構
・弥生時代後期前半：井戸２
・古墳時代：掘立柱建物跡７．土坑７．溝３
・中世：土坑１．溝４
・古墳時代後期（６世紀後半）：包含層
・弥生時代前期前半、後期前半：包含層

出土遺物　出土遺物としては、各時期のものがある。弥生時代前期前半の板付Ⅰ式土器甕、夜臼式土器の甕、浅鉢、壺や石器、弥生時代中期後半から後期の甕、鉢、壺などの土器、磨製石剣、青銅製鋤先などがある。古墳時代のものとしては、土師器の甕、鉢、須恵器の坏、坏蓋、甕などがあり、中世のものとしては、青磁碗、土師器の坏、皿などがある。

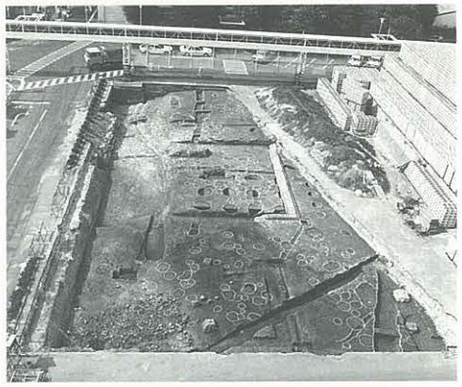
まとめ　本調査地点は、那珂川の東岸に位置し、那珂台地の西側台地際にあたる。調査結果を要約すると、つぎのとおり。

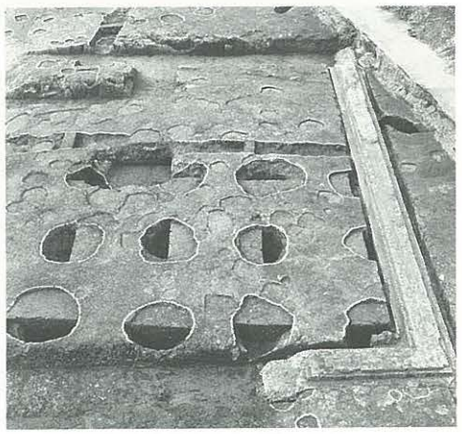
６世紀後半の大型建物の検出：径1.2mの掘り方をもつ２×３間の倉庫、２×４間の建物は、剣塚古墳築造前後の有力首長層居宅の一端を示すものと考えられる。

弥生時代前期前半の包含層の検出：遺構を検出できなかったが、本時期の集落の存在が想定されたことは、水稲耕作開始期の居住地、生活空間を復元するうえで重要な資料を提供した。



1．調査地点の位置（037-A-3．1：8,000）


2．調査区全景（南から）


3．掘立柱建物検出状況（南から）

8728　今宿五郎江遺跡第３次（IZG－3）

所 在 地　西区大字今宿町字前田95-2外　　**調査面積**　900㎡　開発面積　1,160㎡
調査原因　給油所建設　　**担 当 者**　小林義彦
調査期間　870910～871126　　**処　　置**　調査後破壊

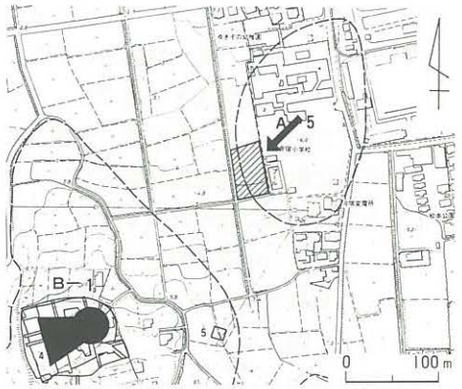
位置・環境　糸島平野東縁部の高祖山から今津湾にむかって舌状に派生する丘陵の先端部に立地し、北に接する第１次調査では弥生時代後期の環濠集落址が、また、西に接する第２次調査では谷埋土より多量の木製品とともに朝鮮系小銅鐸が検出されている。標高４m。現状は水田。

検出遺構
・弥生時代後期：溝２
・弥生時代後期～古墳時代：土坑21
・弥生時代後期～古代：掘立柱建物14
・古墳時代前期：竪穴住居址

出土遺物　遺物はおもに溝・土坑から出土し、竪穴住居址・掘立柱建物址からは少ない。コンテナ300箱。

このうち、調査区南隅を東西にはしる幅約４mの弥生時代後期の溝（SD-02）からは杓子状木製品・滑石製石錘・紡錘車・磨製石斧・石庖丁等50数点のほか、壺・甕・高坏等の土器がコンテナ250箱一括して出土した。また、古墳時代初めの竪穴住居址（SC-01）からは壁面に立て掛けた状態で砧が出土している。

まとめ　弥生時代後期の溝は、３分の１程埋没した後に、土器等の遺物をいっきに投棄している。この状況は、第１次調査の環濠検出状況と同じであり、本調査区の溝と環濠との関係は明確でないが、同一時期に存したことは、間違いない。台地を巡る溝に遺物が一括投棄され、廃絶した事実は、第２次調査で検出された朝鮮系小銅鐸のありかたを勘案すれば、今宿地方における弥生時代後期の集落跡の消長を考えるとき、貴重な資料となりうるものであろう。



1．調査地点の位置（112-A-5．1：8,000）

2．調査区北半部（西から）

3．溝検出状況（西から）

8729　有田（ありた）遺跡第127次（ART－127）

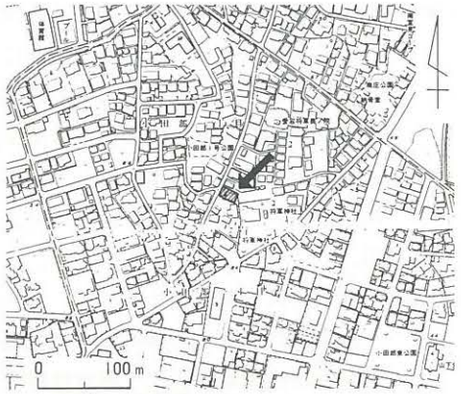
所 在 地　早良区小田部一丁目418-1　　**調査面積**　180㎡　開発面積　241㎡
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　山崎龍雄、米倉秀紀
調査期間　870917～871009　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査地は、八手状に北に広がる小田部台地の中央にある台地西斜面上に位置し、標高８ｍをはかる。調査区一帯では、あまり調査が行われおらず、谷をはさんだ西側に第134次、南側に第34次調査区があるだけである。また、東側に消滅したが有田２号墳があったといわれている。現況は畑地で、表土下20cmで明褐色の鳥栖ローム層となる。この面は西側にむかって傾斜し、深いところでは黒色土の遺物包含層がある。

検出遺構　・古墳時代：溝１．土坑１．ピット

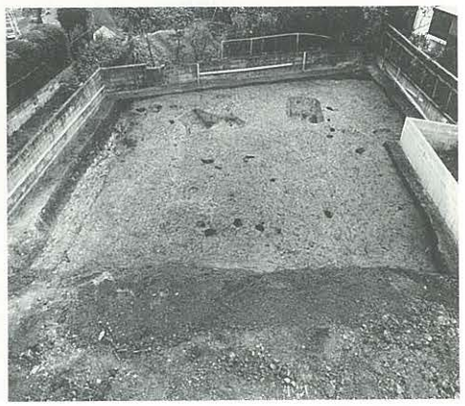
出土遺物　出土遺物はすくなく、コンテナ１箱程度である。土師器、弥生土器、黒曜石片などがあるが、いずれも小片である。

まとめ　調査区東側は削平をうけていたため、遺構はほとんど検出できず、斜面側の西側にわずかに遺構を検出しただけであった。周辺には有田１．２号墳が存在するため、古墳に伴う周濠などの関連施設の存在を予想したが、確認できなっかた。



1．調査地点の位置（081-Ａ-3．1：8,000）

2．調査区全景（東から）


3．調査区全景（西から）

8730　有田（ありた）遺跡第128次（ART－128）

所 在 地　早良区南庄三丁目116　　**調査面積**　213㎡　開発面積　346㎡
調査原因　専用住宅建設　　**担 当 者**　山崎龍雄
調査期間　870928～871026　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、八手状に北に伸びる有田．小台地の中央部にある（標高約６ｍ）。

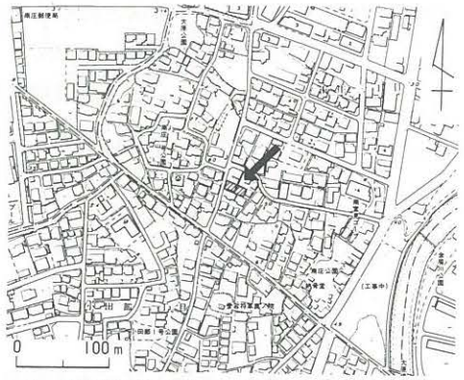
調査区周辺は、南庄地区のなかでは比較的調査が行われており、北側の第78次調査では古墳時代の竪穴住居址や掘立柱建物などが検出されている。調査区の現状は宅地、表土下70～80cmで遺構面の黄褐色ローム層となる。

検出遺構　・弥生時代：土坑１
・古墳時代：竪穴住居址１．柵列２

出土遺物　遺構が少なかったこともあって、遺物量も限られたものであった（コンテナ１箱）。

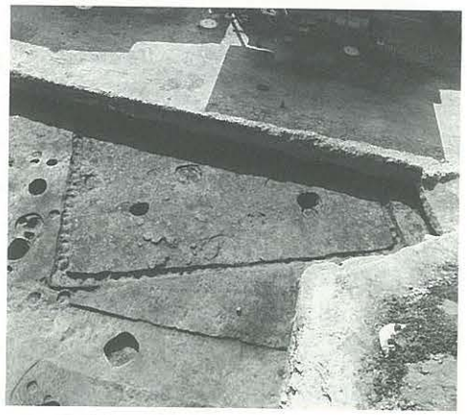
弥生時代の土坑からは甕などが出土した。竪穴住居址埋土や柵列の柱穴堀り方から、土師器、須恵器、などの破片が出土しているが細片のため年代を決定できるものは少ない。

まとめ　弥生時代土坑は、出土した土器から中期後半ころとかんがえられる。竪穴住居址は主柱が４本であり、古墳時代後期の竈を備えたものであろう。埋土中に灰白色粘土が混じっており、竈は住居址の南壁に造り付けられていたと思われる。二状の柵列は平行しており、同一時期のものであろう。北側の第78次調査では柵列の続きが検出されておらず、調査区内で終結する可能性がつよい。



1．調査地点の位置（081-Ａ-3．1：8,000）

2．柵列検出状況（西から）


3．竪穴住居址検出状況（北から）

8731　野間（のま）B遺跡第２次（NOB－2）

所 在 地　南区向野二丁目237外　　**調査面積**　古墳１基　開発面積　1,538m²
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　力武卓治，常松幹雄
調査期間　871003～871031　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は、１号墳と同じ丘陵の尾根上にあり、北側20mに位置している。１次調査の対象となったマンション建設地の範囲外にあって古墳１基（２号墳）が保存されていたが、ここも造成されることとなり調査を実施した。調査前の現状は山林。墳丘の北東側は道路の切通しで削られている。

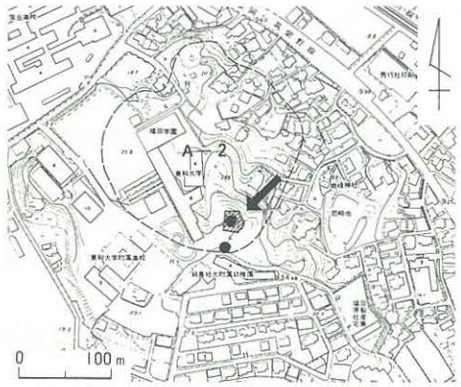
検出遺構　・弥生時代中期：竪穴住居址１
・古墳時代中期：円墳１

２号墳は、１号墳と比べるとやや大きく、墳丘の直径約15.5mを測り、裾の一部にきわめて浅い周溝が認められる。埋葬施設は、１号墳と同じように南に開口する単室の石室と思われるが、石材が抜きとられているため、その構造は明らかでない。しかし、短い墓道が、石室の墓壙底面よりも一段高い位置に接続すること、石室プランが狭小であることからみて、竪穴系横口式石室的なつくりであった可能性が強い。

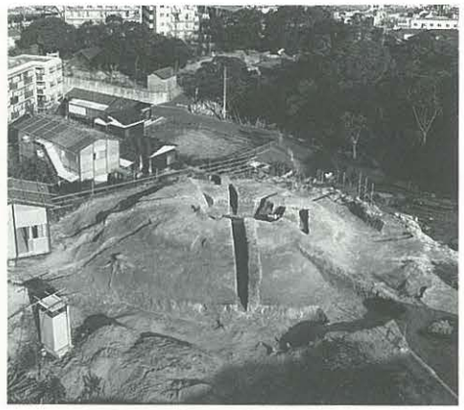
墳丘直下で検出した竪穴住居址は、径7.0～7.2mの楕円形で、壁高50cmを残していた。柱穴の位置から、西側が入口で、4本柱の構成と考えられる。床面中央に炉址がある。

出土遺物　主体部の攪乱層から碧玉製管玉、墓道から周溝にかけて坏、甕などの須恵器が出土した。１号墳と比べて、遺物量は少ない。竪穴住居址からは、弥生土器のほかに石鎌、石庖丁、石剣未製品などが出土した（コンテナ15箱）。

まとめ　２号墳の主体部は横口式石室と想定されるが、出土遺物は２号墳が先に築造されたことを示している。弥生時代中期の竪穴住居址は、平野部を一望できる高所に営まれた例として注目される。



1．調査地点の位置（038-A-2，1：8,000）


2．２号墳全景（西から）

3．墳丘下住居址（西から）

8732　那珂（なか）遺跡第11次（NAK－11）

所 在 地　博多区竹下三丁目1-1　　**調査面積**　５m²
調査原因　工場建設　　**担 当 者**　山口譲治
調査期間　870926～871001　　**処　　置**　調査後破壊

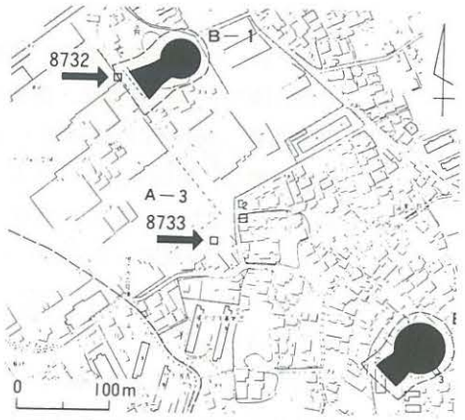
位置・環境　那珂遺跡の北西部、標高8.2mに位置し、剣塚古墳前方部から西に８mのところである。

この地に工場拡張が計画されたので、試掘調査を行った。その結果、井戸１基が発見されたが、削平が著しく、他の遺構は検出できなかった。

検出遺構　・弥生時代中期：井戸１

井戸検出面は標高7.5mで、径90cm前後の円形。深さ2.5mまで掘り下げたが、湧水が激しく完掘を断念した。

出土遺物　弥生時代中期後半の甕、鉢、壺などの土器、槽などの木製品がある（コンテナ２箱）。



1．調査地点の位置（037-A-3，1：8,000）

8733　那珂遺跡第12次（NAK－12）

所 在 地　博多区竹下三丁目1-1　　**調査面積**　20m²
調査原因　工場建設　　**担 当 者**　山口譲治
調査期間　870926～871003　　**処　　置**　調査後破壊

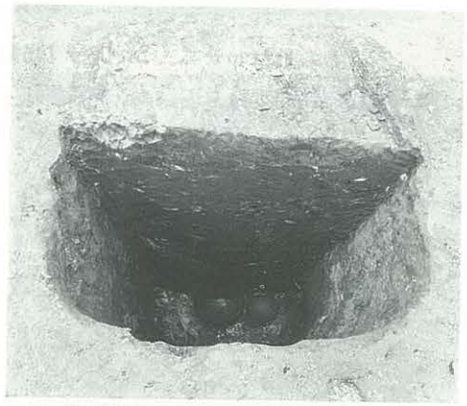
位置・環境　第11次調査地点から、東に約100mほど離れた位置にある。試掘の結果は同様で１基の井戸がみいだされたすぎない。遺構面検出面は鳥栖ローム層である。

検出遺構　・古墳時代前期：井戸１

井戸の検出レヴェルは、標高7.6m、一辺1.05mの隅丸方形のプランをもち、残存する深さは1.5mであった。底面が湧水層に達しておらず天水を利用した井戸と考えられる。

出土遺物　遺物は、古墳時代前期初頭の土師器が一括して出土した（コンテナ３箱）。

第11、12次調査地点とも、旧遺構面は大幅に削平されていたが、かつてこの地に該期の集落が広がっていたことを明らかにできた。


1．井戸検出状況

8734　広石（ひろいし）遺跡Ｃ地点（HRC－１）
広石古墳群Ⅵ群（HIK－６）

所 在 地　西区野方地内
調査原因　区画整理事業
調査期間　870922～880331
調査面積　8,383㎡　開発面積　60ha
担 当 者　下村　智．加藤良彦．外
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、叶岳山塊の東麓、開析された多くの低丘陵の一つの谷奥部、標高33～57mの丘陵南東側、16～35°の急斜面と５～10°の緩斜面に立地し、名切谷川をはさんで広石遺跡Ｄ地点と相対する。現状は山林。表土下30～200cmほどで遺構面（花崗岩バイラン土）に達する。上部に黒灰色土、下部に黄灰色土の２層の包含層がある。

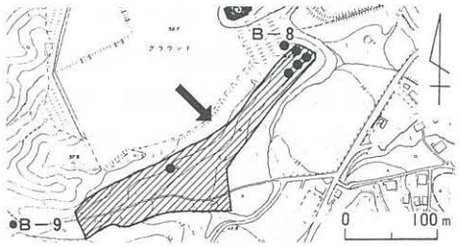
検出遺構
・縄文時代早期：土坑状遺構20以上
・古墳時代：箱式石棺１．土壙墓１
・古墳時代後期：竪穴住居址46以上．古墳５．甕棺墓１．石棺墓１
・古墳時代後期～奈良時代：掘立柱建物21．周壁の焼けた方形土坑（焼土坑）32以上
・奈良時代：方形石組基壇状遺構２．火葬墓１．須恵器窯跡１

出土遺物　遺物は包含層上層で奈良時代を下限とするもの、下層で縄文時代～古墳時代終末期のものが検出され、竪穴住居址、古墳などの遺構内のものと合わせて、コンテナ145箱分。

まとめ　竪穴住居址は急斜面から緩斜面と広く分布し、ことに南西の地山整形部に多く集中し、掘立柱建物と重複している。

古墳は調査区中央部の急斜面に竪穴状石室墳１基、北東側斜面に等高線に沿って４基分布しており、このうち２基は３棟の竪穴住居址上に築造されている。

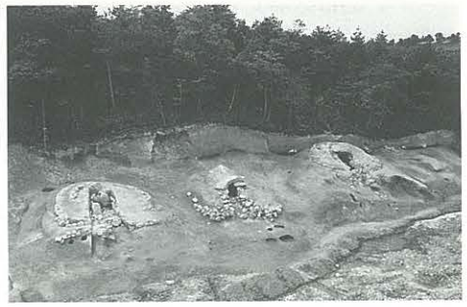
掘立柱建物は６×３間を最大に、桁行４間以上のものが９棟と大規模なものが目立ち、首長層の居宅と想定される。その年代は、竪穴住居址よりも新しいことから、大部分が古墳時代終末（７世紀）と考えられる。



1．調査地点の位置（104．1：8,000）

2．Ｃ地点Ⅰ区全景（南東から）

3．Ｃ地点掘立柱建物群（北東から）


4．広石古墳群Ⅵ群全景（南から）

8735　有田（ありた）遺跡第129次（ART－129）

所 在 地　早良区小田部二丁目38
調査原因　店舗建設
調査期間　871027～871126
調査面積　386㎡　開発面積　499㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

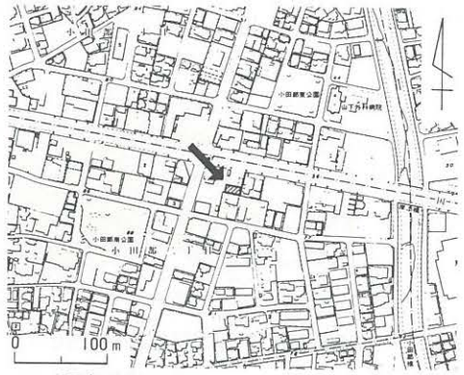
位置・環境　調査地は、北へ八手状に延びる有田・小田部台地の最東端の丘陵斜面に位置する（標高７m）。周辺の調査例はすくなく、第４．13．129次調査が行われているにすぎない。

現況は宅地であり、表土下20～30cmで遺構面の灰白色のシルト質粘土層となる。遺物包含層はすでに削平され、遺構の遺存状況はよくない。

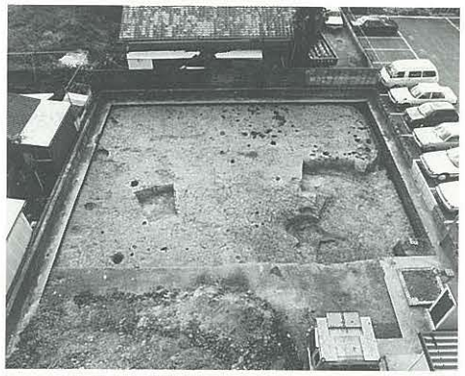
検出遺構
・古墳時代：土坑１
・中世：土坑、溝状遺構

出土遺物　遺構が削平をうけているためか、出土遺物は極めてすくなく、おもに谷部と土坑内から出土したい。コンテナ１箱。弥生土器、古墳時代の土師器、須恵器、中世の陶磁器、他に石斧片などがある。

まとめ　調査の結果、台地推定線がやや西によっていることが判明した。また、弥生土器などの出土から、調査地周辺に弥生時代の遺構が存在していた可能性がつよまった。



1．調査地点の位置（082-Ａ-1．1：8,000）


2．調査区全景（北から）

3．調査区全景（南から）

8736　那珂（なか）遺跡第13次（NAK－13）

所 在 地　博多区那珂二丁目地内　　**調査面積**　1,536m²
調査原因　道路建設　　**担 当 者**　杉山富雄．小畑弘己
調査期間　871104～880330　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査地は、南北方向に谷の延びる那珂丘陵の尾根線を、細ながく横断するかたちである。現況は道路予定地として空地となっており、現地表下１m、地山の鳥栖ローム面で遺構を検出した（標高９m）。

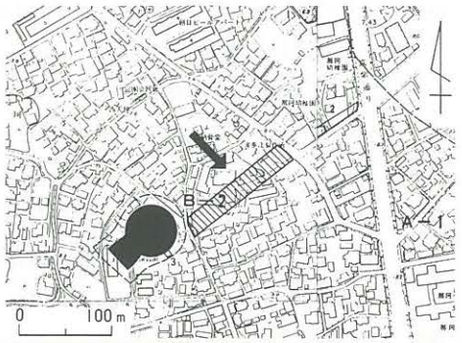
検出遺構　遺構は、弥生時代中期から中世にいたる各時期のものがある。

・弥生時代中期：竪穴住居址５．貯蔵穴１
・弥生時代後期：竪穴住居址10
　　掘立柱建物15
　　井戸２
　　土壙墓１
・古墳時代前期：竪穴住居址１
・古墳時代後期～奈良時代：竪穴住居址（およびそれに類するもの）６．井戸１
・中世：木棺墓１．掘立柱建物１．
　　溝－多数

このほかに、時期不明の掘立柱建物、柱穴が多数ある。

出土遺物　遺物量は、コンテナ50箱。先土器時代のナイフ形石器にはじまり、上記遺構に該当する各時期の遺物がある。とくに、弥生時代後期には、井戸、住居内の柱穴、土坑に完形土器を収める例がある。百済系軒丸瓦片が、井戸や竪穴住居址状の遺構から出土したことは注目される。

まとめ　本調査区においては、遺構の密度がきわめて高く、かつ先土器時代から中世にわたる長期間に断続的な遺跡の形成が確認された。この傾向は、那珂遺跡に一般的な状況だが、百済系軒丸瓦の出土は初めてのことである。律令時代の那珂郡衙推定地に近く、今後の調査のうえで注意が必要である。



1．調査地点の位置（037-A-3．1：8,000）

2．調査区全景（西から）

3．調査区東半部（西から）

8737　板付（いたづけ）遺跡Ｈ－5d（ITZ－Ｈ－5d）

所 在 地　博多区板付二丁目10-13　　**調査面積**　120m²
調査原因　学校運動場建設　　**担 当 者**　田中寿夫．荒牧宏行
調査期間　871109～880112　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、板付中央台地の北西側の沖積地に位置する（標高8.4m）。周辺のＨ－５ａ．Ｈ－５ｃの各調査区では、中央台地の西端段落ちに沿って北にのびる弥生前期の水路が検出されている。本地点はこの溝から、さらに西に30m離れている。

検出遺構　沖積地のため、層序を手掛りにして７面で遺構検出を行った。

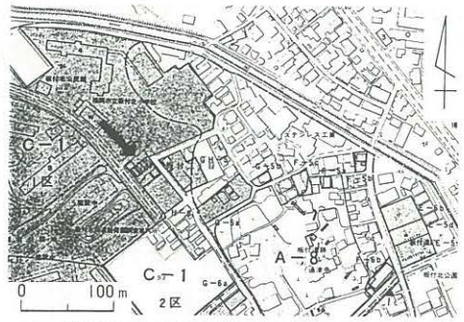
・Ⅰ面　標高 7.90m。中世以降。畦畔１
・Ⅱ面　標高 7.70m。中世。畦畔１．溝１
・Ⅲ面　標高 7.40m。中世。
・Ⅳ面　標高 7.10m。時期不明。
・Ⅴ面　標高 7.00m。弥生。
・Ⅵ面　標高 6.80m。弥生前期。
・Ⅶ面　標高 6.60m。

調査区内の土層はほぼ水平堆積である。Ⅵ面は黒色粘質土上面で、Ｈ－５ａ地点の弥生前期溝はこの層からの掘り込みである。Ⅶ面は八女粘土の上面。

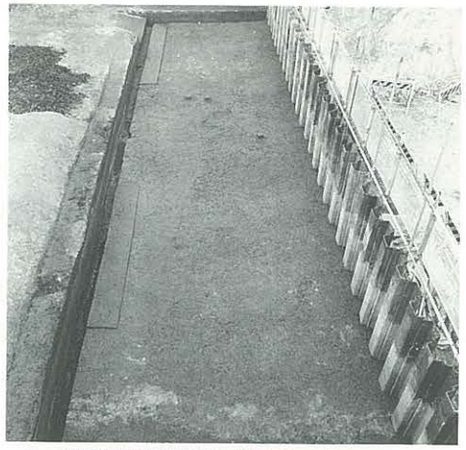
Ⅰ～Ⅴ面の上層には、不連続だが砂層堆積があり、足跡が検出された。しかし、中世の溝（水路）と畦畔のほかには水田施設を確認できなかった。

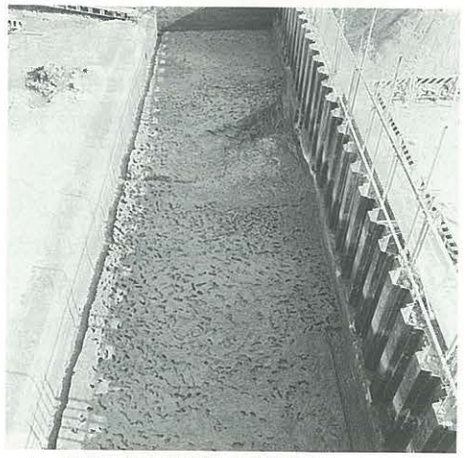
出土遺物　遺物はⅡ面で検出した溝 SD01を除くと少量かつ細片である。SD01からは瓦器椀、土師器坏、布目瓦、斎串が出土した。

まとめ　本調査区は当初、台地上の弥生集落に対比される時期の水田址の検出が予想されたが、上記したように弥生時代の明確な水田址を確認することができなかった。検出された中世段階の畦畔と水路は、今後この時期の水田址調査の指標となるであろう。



1．調査地点の位置（024-C-1．1：8,000）


2．Ⅱ面畦畔検出状況（南西から）


3．Ⅳ面足跡検出状況（南西から）

8738　野方（のかた）古墳群第４次（NKK－４）

所 在 地　早良区大字野方地内
調査原因　区画整理事業
調査期間　871125～880331
調査面積　古墳２基　開発面積 60万㎡
担 当 者　下村　智．加藤良彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　野方古墳群は、叶岳から東に伸びる丘陵上に位置する。標高73m。過去、宅地造成に伴い３次にわたって10基あまりの古墳が調査されている。２基の古墳は石室の一部が露出していた。墳丘は山側斜面から流れた土砂によって深く埋没していた。

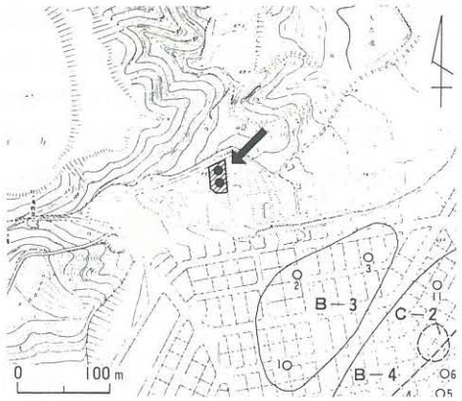
検出遺構
・古墳時代後期：円墳２．土坑２
・奈良時代：焼土坑６

出土遺物　両古墳とも石室が開口しており、すでに盗掘にあっていた。遺物はおもに石室内および周溝から出土した。須恵器の坏、蓋、高坏、提瓶、はそう、甕、横瓶や鉄鏃、刀子、ガラス小玉、滑石製勾玉、碧玉製管玉などである。遺物は盗掘の際、掻きだされたものが多く、散乱した状態であった。大甕や横瓶は墳丘に埋め置かれたものである。

まとめ　２基の古墳は、径12m前後で両袖型の横穴式石室を持つ。石室プランは１号墳が2.0×2.6mの長方形、２号墳が2.1×2.3mの方形で只字形の短い羨道がつく。石室全長は4.5m前後で、床には敷石を並べ、２号墳の入口には平石を立てて閉塞としている。

墳丘には、盛土が崩れないように人頭大から40～50cmの礫を葺石状に積み重ねた外護施設が認められる。１号墳は特に丁寧で二段に段築されている。

時期は、出土した須恵器から、６世紀前半に造られ、後半まで追葬が行われたと考えられる。出土遺物から１号墳の方が、やや古い。墳丘外護施設を持つ古墳は、同一開発地内の他の古墳にも認められ、野方地方の古墳築造の地域色として注目されよう。



1．調査地点の位置（105．1：8,000）

2．D群全景（北から）

3．D－１号墳（東から）

8739　有田（ありた）遺跡第130次（ART－130）

所 在 地　早良区小田部二丁目185-2
調査原因　専用住宅建設
調査期間　871128～871226
調査面積　293㎡　開発面積　345㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

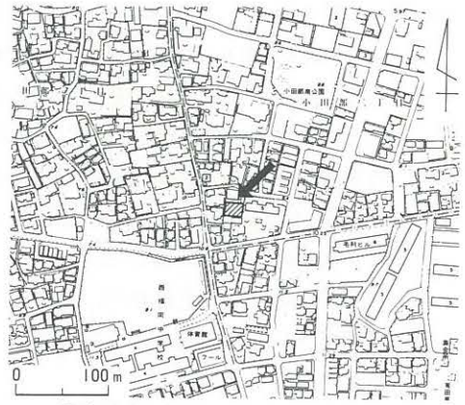
位置・環境　本調査地は、北側へ八手状に広がる有田・小田部台地の中央部に位置し、周辺では第54．105．122．124次調査などが実施され、古墳時代後期の住居址群が検出され、広大な集落の存在が判明しつつある。

調査地の現状は宅地（標高12m）、表土下30～40cmで遺構検出面（明褐色ローム）となる。遺物包含層はなく、旧遺構面はかなりの削平をうけていると予想された。

検出遺構
・中世：溝状遺構１．
・近世以降：井戸３．焼土坑３．
・昭和時代：防空壕３．

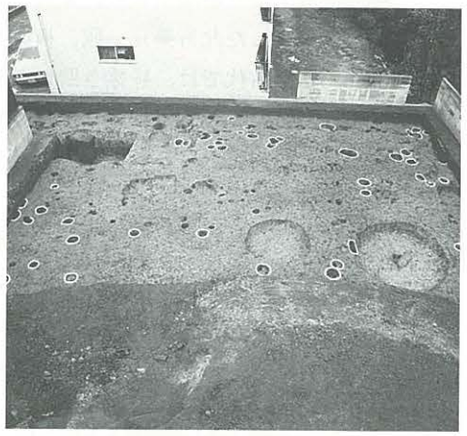
出土遺物　遺物は、井戸、防空壕からおもに出土した。コンテナ10箱。中世以前の遺物は少なく、大部分は江戸時代以降のものである。土師器、須恵器、石器のほか、瓦、陶磁器、ガラス瓶、レンガ、寛永通宝などがある。

まとめ　予想に反して、古墳時代の住居址はまったく検出できなかった。中世の溝も10cmほどの残存であり、近世以降の削平によって以前の遺構の大半が消滅したと思われる。調査地一帯は江戸時代からつづく住居区域となっており、近世の井戸などはそれに関連するものであろう。戦時中、小田部の集落では、各家ごとに１～２基の防空壕が掘られたという。いずれも長方形で、深さ1.2～1.5mほどの半地下式の構造である。



1．調査地点の位置（082-A-1．1：8,000）

2．調査区西半部全景（東から）


3．調査区東半部全景（西から）

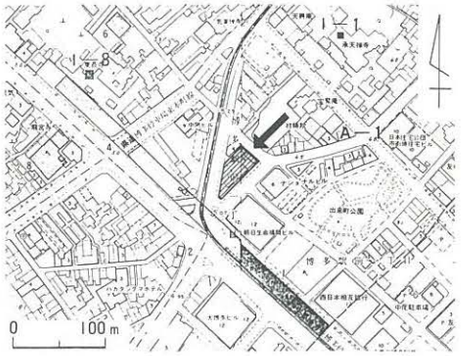
8740　博多遺跡第37次（HKT-37）

所 在 地　博多区博多駅前一丁目129外　　**調査面積**　1,112㎡
調査原因　ビル建設　　**担 当 者**　山口譲治、吉留秀敏
調査期間　871204～880331　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は、「博多浜」砂丘の南部に位置する（標高５ｍ）。道路を挟んで、北東には承天寺、西側には第28次調査地点がある。

現状はバスの駐車場、それ以前は旧博多駅前である。表土下30～40cmに近世、近代の面があり、以下、標高2.5mの基盤砂層までの間に４枚の遺構面を検出した。

近世以降では、瓦組井戸、木製井筒井戸、方形プランの粘土貼りの土坑、方形プラン石組みの土坑などがある。



1．調査地点の位置（049-Ａ-1．1：8,000）

検出遺構　中世（12～14世紀）、古代（８～11世紀）の遺構面では、多数の溝、井戸、柱穴、土坑を検出した。中世の遺構には、木棺墓１基、古代では、甕２、甑１を組み合わせた甕棺がある。

弥生～古墳時代の遺構面には、古墳前期の古墳主体部１基、溝１条がある。

2．調査区全景（南から）

出土遺物　遺物は、おもに井戸、土坑、溝、から出土している（コンテナで約250箱）。中世では、土師器、瓦器、輸入陶磁器など多数あり、木棺墓からは青磁碗１、土師器皿６、井戸から、鞘付懐刀１振りが出土した。また、包含層などから出土した北方系瓦、硯、板碑なども注目される。古代では、柱抜き跡から和同開珎が出土した。そのほかに土師器、須恵器、陶磁器、硯などがある。古墳主体部からは、滑石製玉類が出土した。

3．甕棺墓検出状況

まとめ　本地点は、検出された大溝の配置状況からみて、中世前期に承天寺の寺域内であった可能性がある。発見された和同開珎は、博多で３例目である。古墳は主体部を残すのみであったが、博多古墳群の広がりと内容を検討するうえで重要である。

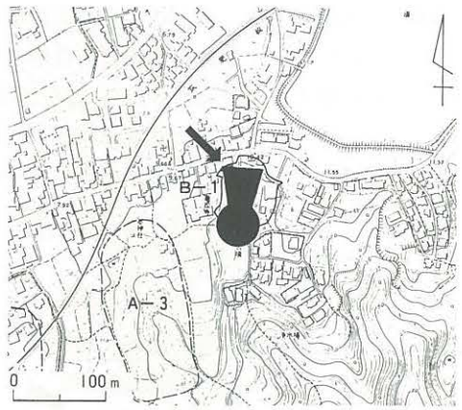
8741　丸隈山古墳第３次（MKY－3）

所 在 地　西区大字周船寺字ウヘノ　　**調査面積**　90㎡
調査原因　史跡整備　　**担 当 者**　小林義彦
調査期間　871211～880120　　**処　　置**

位置・環境　丸隈山古墳は、糸島地方東北端の今宿平野の西部に位置する。高祖山北麓には12基の前方後円墳と数多くの小円墳からなる群集墳が築かれている。

本古墳は、高祖山から北方にのびる丘陵端につくられた立地する前方後円墳である。前方部を北に向け、後円部後方をおおきく削りだして形を整えている。標高20m。

昭和３年２月７日、国史跡の指定を受け、同年、石室の復元修理が行なわれた。



1．調査地点の位置（120-Ｂ-1．1：8,000）

江戸初期の寛永年間に後円部石室が発掘され、以来九州の基準たる前方後円墳のひとつとして副葬遺物や石室構造をめぐって研究の対象となってきた。昭和59年(1984)、崖面の補強工事に伴って第２次調査が実施された。この結果、全長84.6m、後円部径59.4m、前方部巾43.8m、前方部長29.6mの墳丘規模と３段築成、および墳丘の各段テラス面をめぐる埴輪列が確認された。

2．調査区全景（北東から）

検出遺構　今回の調査は民有地の崖面補強工事に伴なうもので、前回調査では未確認の前方部西端の確認を行なうものであった。調査は前方部に平行するトレンチを３本設定し、西端のトレンチは崖上端まで更に３ｍ程拡げて行なった。その結果、旧表土下から弥生時代のピットを１個確認した。また旧表土上には１ｍほどの厚さに盛土が遺存していた。西側斜面には、木根に狭まって崩落した葺石が確認された。しかし、前方部は標高15mの等高線に沿って削平を受けており、前方部隅角の確認はできなかった。

出土遺物　遺物は、弥生式土器・土師器・瓦片が盛土中より少量出土した。コンテナ１箱。

3．墳丘土層断面（北から）

8742　有田（ありた）遺跡第131次（ART－131）

所 在 地　早良区小田部二丁目131　　**調査面積**　118㎡　開発面積　300㎡
調査原因　専用住宅建設　　**担 当 者**　山崎龍雄
調査期間　871216～880106　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、八手状に北へ広がる有田．小田部台地の東端から３番目の台地の東側斜面に立地する（標高約８ｍ）。調査地周辺では、４．13．122．123次調査が行われている。現状は駐車場。遺構検出面は、地表下80cmで灰白色シルト質粘土層、その上に厚さ40cmほどの遺物包含層が残っていた。

検出遺構　・古墳時代後期：竪穴住居址１．ピット

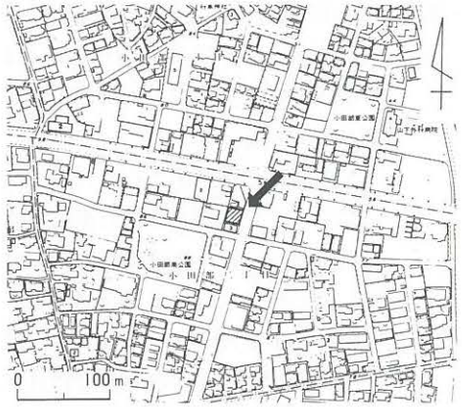
出土遺物　調査面積がせまいため、遺物量はさほど多くない（コンテナ３箱）。

遺物包含層や遺構の埋土から数10点の黒曜石剥片が出土した。器表の風化などの具合から、旧石器時代の遺物とみられる。

古墳時代の竪穴住居址からⅢＡ～ⅢＢ期（小田編年）の須恵器の坏のほか、土師器の高坏、甕、滑石製紡錘車などが出土した。また東側谷部には、近代の陶磁器や瓦などがあった。

まとめ　本地点出土の旧石器は、いずれも包含層からのもので、西側台地部からの流入物と考えられる。西に400ｍほど離れた第４次調査地点では、旧石器時代の遺物包含層が確認されており、本地点の場合も、調査地西側に旧石器時代の生活面が存在したと予想される。

古墳時代後期の住居址は、４本柱でカマドを備えた一般的なものであるが、該期の集落の広がりを知ることができた。



1．調査地点の位置（082-Ａ-1．1：8,000）

2．調査区全景（東から）

3．古墳時代後期住居址（北東から）

8743　峰（みね）遺跡第１次（MIN－1）

所 在 地　早良区大字西1251-1外　　**調査面積**　1,677㎡　開発面積　2,145㎡
調査原因　公園建設　　**担 当 者**　佐藤一郎
調査期間　871019～880129　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　室見川の上流域、背振山系から北に向って舌状に延びる丘陵の先端に位置する。標高80ｍ。現状畑地。遺物包含層は残存しておらず、耕作土直下で遺構面を検出した。調査区の南半部分はほぼ平坦で、検出された土壙墓の残存状況から、後世にかなりの削平を受けたとみられる。北半部分は北に向って傾斜している。

検出遺構　・８世紀：掘立柱建物１．焼土坑１
・13世紀：掘立柱建物１．土壙墓１
・14世紀：掘立柱建物２．土壙墓１

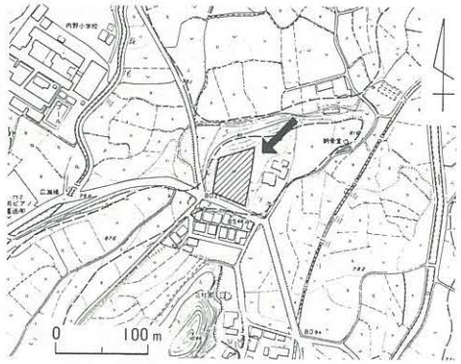
出土遺物　遺物は柱穴掘り方、土壙墓からおもに出土した（コンテナ３箱）。８世紀、13世紀の建物掘り方から土師片が出土。焼土坑からは土師器坏１片のみで、これが唯一時期を決定できるものである。

14世紀の柱穴からは、土師器、東播系須恵器、備前焼、青磁、白磁、滑石製石鍋などの破片が出土した。SK10土壙墓には、龍泉窯系青磁（体部外面に縞蓮弁を削り出す）１点、土師器小皿４点が副葬されていた。

まとめ　８世紀の掘立柱建物はおもに調査区南東部で検出した。現場では２棟を確認したが、建て替えを考えると４～５棟となるであろう。調査区北側で検出されたSB20掘立柱建物は、四面に廂をもつ２×３間の規模で、柱穴掘り方出土の土師器から13世紀後半と想定される。

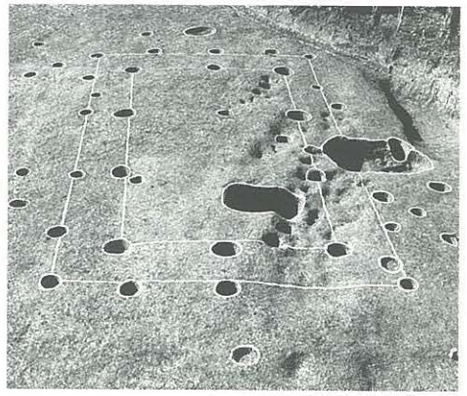
焼土坑の壁は固く焼きしまり、埋土に炭化物が充満していたが、骨片などは検出されず遺構の性格は判然としない。

峰遺跡は舌状台地の先端部に位置し、遺構の主体は南側に集中するが、この部分は削平されていたため全容を明らかにできなかった。



1．調査地点の位置（早17-Ａ-3．1：8,000）

2．調査区全景


3．掘立柱建物

8744　四箇（しか）遺跡第23次（SIK－23）

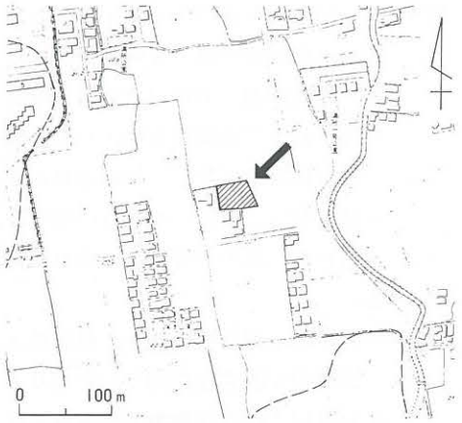
所 在 地　早良区重留地内
調査原因　公園建設
調査期間　871130～880331
調査面積　1,900㎡　開発面積　2,000㎡
担 当 者　松村道博．吉武　学
処　　置　調査後破壊

位置・環境　遺跡は早良平野のほぼ中央部、室見川と金屑川に挟まれた沖積地に立地している。23次調査区は、縄文時代後期の特殊泥炭層が発見された四箇遺跡Ａ地点から東へ約500m離れた水田地帯の中にある。

検出遺構　検出した遺構は大小６本の河川である。うち３本は弥生時代前期末を下限とする時期、１本は古墳時代のものである。他の２本からは遺物が出土しなっかたが、遺構の重複関係からみて、１本が弥生時代前期末より以前、いま１つはそれより後のものである。

弥生時代前期末の３本のうち、１本は最小幅が6.5mを測る大きなもので、２本はこれに流れこむ支流とみられる。調査区の西半部で検出したこの大河川は、深さ１mで緩やかに西へ曲がりながら北流している。河川には幅12mの堰あり、ここから西方に水を引いたものと考えられる。堰は縦杭を打って横木を掛け、この横木が枕になるように上流に向かって斜めに杭を打ち込んだ後、さらにこの斜杭を固定するための縦杭を打って構築されている。この河川は大量の砂の流入によって一気に埋没しており、水流のよどみを示すような粘質土堆積はみられない。また、この河川の西側を切って北流する別の河川があり、これにも堰が設けられている。これは河川が西側に移動したことを示していると考えられる。

古墳時代の河川は調査区の東半部にあって、北に流れている。川幅は４m前後で、両岸に護岸のための杭列がある。川の埋土は、下層が砂、上層が粘質土で、水がよどむような状態を経て、徐々に埋没したものと考えられる。



1．調査地点の位置（084-Ａ-2．1：8,000）

2．調査区全景（東から）

3．弥生時代前期の河川と堰（東から）

8745　太田（おおた）遺跡第３次（OHT－3）

所 在 地　西区大字吉武字太田
調査原因　道路建設
調査期間　870116～870531
調査面積　2,000㎡
担 当 者　二宮忠司
処　　置　調査後破壊

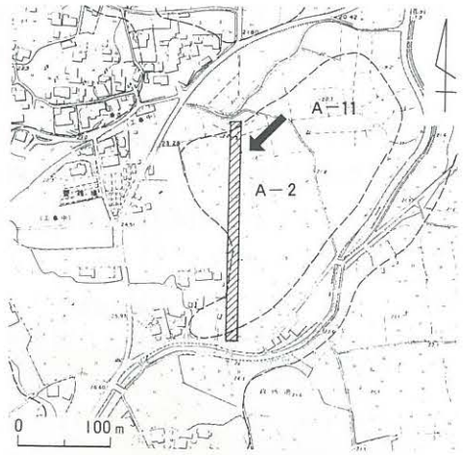
位置・環境　飯盛山から続く低丘陵（標高25～30m）が日向川によって二分され、南側が吉武遺跡、北側が太田遺跡である。現状は水田。

太田遺跡は日向川の氾濫によって開析された独立丘陵であったことが調査によって判明した。第１次調査は東西の道路建設（田・飯盛線）、第２次調査は圃場整備に伴って行われた。

検出遺構
・弥生中期～後期：竪穴住居跡２
・弥生後期：甕棺墓１
・古墳時代初頭：水田跡・溝

出土遺物　遺物は住居跡、溝内から出土したが、量的には少なくコンテナ10箱。弥生後期の住居跡から土器とともに鉄斧が出土した。古墳時代初頭の溝からはほぼ完形に近い土器群が多量に出土した。

まとめ　弥生中期の住居跡１棟、後期の住居跡１棟、甕棺１基と数は少ないが、これは調査区が幅15m、長さ150mと限られていたことと、遺構面が0.5～0.7mほど削平されていたことに要因がある。また明治時代の瓦用粘土採掘の攪乱が数多くある。第１～３次調査の結果、東は日向川に急速に落ち、西側は緩やかに落ちて谷部となる。北側は緩やかに落ちて平坦となり、古墳時代初頭に水田として利用されている。南側は現日向川から10mのところで段落する。台地の面積は約15,000㎡程度のものである。この台地上に弥生時代中期から生活を営んでいたことが明らかとなった。ただ削平が著しいため実態を明らかにすることはできないが、日向川の氾濫を直接受ける場所であるだけに、生活場所としてはやや不適当であったと考えられる。



1．調査地点の位置（093-Ａ-2．1：8,000）

2．遺構検出状況

8746　羽根戸（はねど）古墳群Ｅ群（HND－E）

所 在 地　西区大字佛尾871-1
調査原因　墓園建設
調査期間　871217～880330
調査面積　古墳　9基
担 当 者　横山邦継．宮井善朗
処　　置　公園として保存

位置・環境　羽根戸古墳群は、飯盛山塊から北東へ派生する丘陵上に位置する。E群は、北端部にあるA群、B群、C群から谷を隔てた北向きの斜面上に位置する。今回の調査は、古墳の保存整備を前提にして、墳丘とその周辺部の現況測量、石室の清掃（最終追葬面の検出）実測をおこなった。

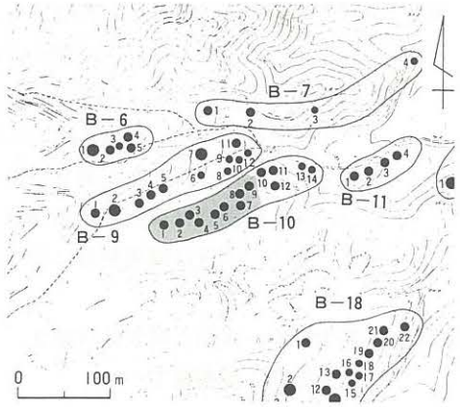
検出遺構　調査対象となったのは、9基（うち9号墳は、福岡県教育委員会により調査済み）。

墳丘規模は、発掘調査をおこなっていないため不明だが、やや大きめの1．3．5号墳で10～15m、小さめの4．7号墳で7～8mほどあろう。石室規模は最大の5号墳で2.4×2.2m、最小の6号墳で2.1×1.6mである。石室はいずれも単室両袖型の横穴式石室である。

出土遺物　出土遺物には、土器(須恵器、土師器)、鉄器、金環、銀環などがある。ただし、調査方法の性格上、原位置を知りうるものは少なく、ほとんどは石室埋土もしくは墳丘表採の資料である。

8号墳閉塞内から出土した一括資料は、原位置を留めるものとして注目される。この中の蓋坏一組の内部から、魚骨（硬骨魚）が検出された。いわゆる「黄泉戸喫」の一例として興味深い。また3号墳羨道からは鉄滓がまとまって出土している。

まとめ　古墳の年代は、出土した須恵器が、ほとんどⅢB～Ⅳ型式のものであることから、6世紀末から7世紀初め頃に、一点を求められる。また2号墳では、Ⅵ型式（7世紀後半）期の追葬が認められた。しかし、築造－埋葬－追葬の詳しい過程は、現時点では不明である。



1．調査地点の位置（105-B-10．1：8,000）

2．5号墳墳丘

3．8号墳羨道部遺物出土状況

8747　鴻臚館（こうろかん）跡第4次（FUE－10）

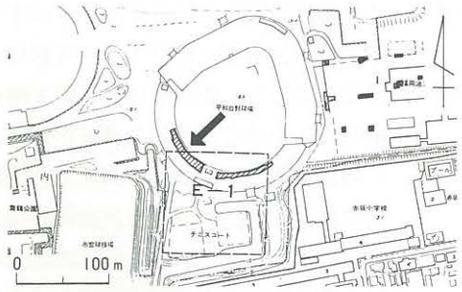
所 在 地　中央区城内地内
調査原因　球場改築
調査期間　871225～880120
調査面積　650m²
担 当 者　山崎純男．吉武　学
処　　置　埋戻し保存

位置・環境　遺跡は博多湾をめぐる海岸線のほぼ中央部に向かって伸びる独立丘陵（福崎丘陵）の先端部に位置しているが、周辺は福岡城築城を始めとする各種開発によって削平され、大きく地形が変っている。標高9m。故・中山平次郎博士によって、古代日本の外交拠点「筑紫館・鴻臚館」の推定地に指摘されて久しい遺跡である。

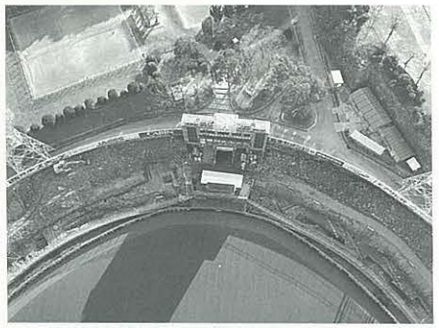
調査は平和台野球場外野スタンド改修工事に伴うもので、期間等の制約から外野スタンドの最もグランドよりの部分を対象とした。また遺構発見に伴って工事方法を変更し、調査終了後には川砂を用いてこれを覆い、将来の再調査に備えた。

検出遺構　検出した遺構は平安時代を中心とする土壙、溝状遺構、地下事業、掘立柱建物などで、ほかに奈良時代以前に遡る可能性が高い布掘りの掘立柱建物もある。これらの構築に先立ち大掛かりな整地を行っていることも確認された。また、土壙・溝などに残る二次的加熱を受けた遺物や焼土層の存在から、ここが数回の火災を受けたことが考えられる。

出土遺物　各遺構からは古瓦を始めとする大量の遺物が出土し、総量はコンテナ200箱にのぼる。容器類では越州窯青磁に代表される中国産陶磁器の出土が顕著で、その他土師器・須恵器に混じって新羅系の土器や西アジア系のガラス容器・イスラム陶器なども出土している。また土壙内からは獣骨なども出土しており、当時の食の一端を窺うことができる。



1．調査地点の位置（060-E-1．1：8,000）


2．調査区全景（上空北から）

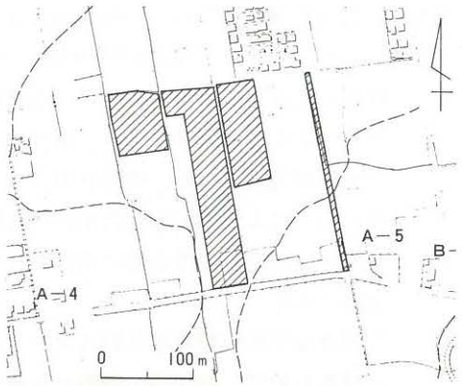
3．掘立柱建物布掘り掘方（西から）

4．土坑遺物出土状況（南から）

8748　入部（いるべ）遺跡第１次（SHE－1）

所 在 地　早良区大字重留地内　　**調査面積**　15,000m²
調査原因　圃場整備　　**担 当 者**　力武卓治．常松幹雄
調査期間　880106～880331　　**処　　置**　調査後破壊

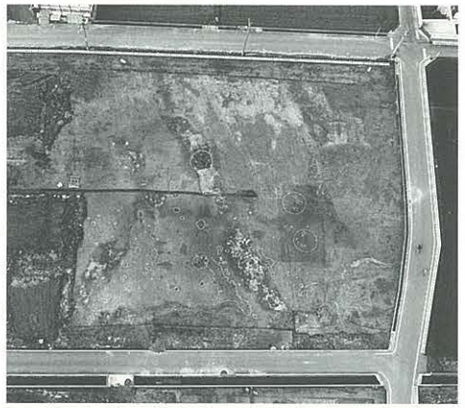
位置・環境　本調査地区は、早良平野のほぼ中央部から東寄りの沖積部に位置する。現状は水田、標高25mである。周辺部には、縄文時代から古墳時代にかけての著名な遺跡が多い。北西部に隣接する四箇遺跡は、縄文時代後期の泥炭層が検出され、多量の自然遺物が発見されている。また、室見川の対岸にあたる吉武遺跡は、弥生時代の大共同墓地で、そのなかに突出した個人墓や墳丘墓を含む。



1．調査地点の位置（084-A-4．1：8,000）

検出遺構
・縄文時代後～晩期：竪穴住居址５．貯蔵穴１．甕棺墓１．土坑１
・弥生～古墳時代：河川、井堰、土坑

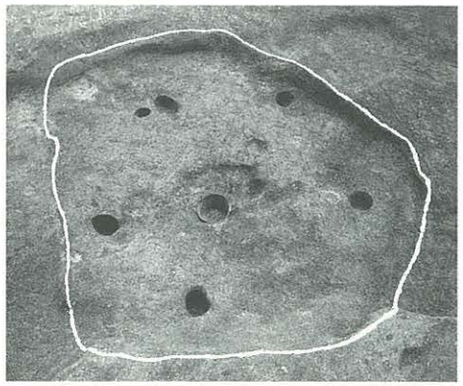
検出した遺構は、おもに縄文時代の住居址群と弥生時代以降の河川である。竪穴住居址５棟のうち、４棟は遺存状態が悪く、壁が削られ炉址が確認できるにすぎない。


2．調査区全景（上空から）

出土遺物　遺物はおもに河川、竪穴住居址から出土した。保存状態の良い竪穴住居址からは石斧、砥石、有孔円盤、土器などの多くの遺物が出土した。河川は、長い間に何度も流路を変えて重なっており、縄文時代晩期から古墳時代にかけての多様な遺物を含む。とくに、縄文時代の直径１mを超す大木は、当時の自然景観を復元するうえで重要であろう。

まとめ　縄文時代晩期の遺構群－竪穴住居址、貯蔵穴、甕棺墓は、当該期の土器散布地を取り囲むように配置されており、当時のムラの様子を示すと思われる。

河川は、人工的な開削ではないが、弥生時代後半から護岸や井堰を整備して、農業用水路として積極的に利用していることが判明した。

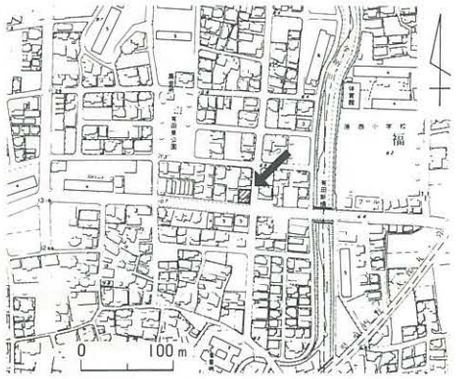

3．縄文時代竪穴住居址

8749　有田遺跡第132次（ART－132）

所 在 地　早良区有田一丁目8-3　　**調査面積**　142m²　開発面積　200m²
調査原因　専用住宅建設　　**担 当 者**　山崎龍雄．小林義彦
調査期間　880125～880303　　**処　　置**　調査後破壊

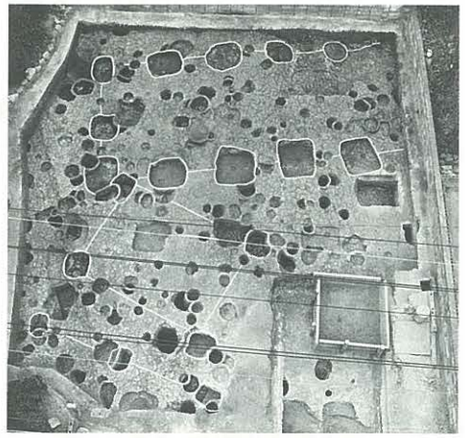
位置・環境　有田台地東南部に位置し、台地の東縁を北流する金屑川へむかってゆるく傾斜する標高約８mの台地東側緩斜面上に立地する。本調査区周辺では、すぐ西隣りの第88次調査で、奈良時代の竪穴住居跡１軒、掘立柱建物跡５棟と中世の溝１条等が検出されている。このうち掘立柱建物跡には庇の付設した大型のものもある。

現状は宅地。調査区北西隅の狭い範囲に厚さ約10～15cm程の遺物包含層が残っていたが斜面上はすでに削平を受けていたために遺物包含層は消失していた。



1．調査地点の位置（082-A-1．1：8,000）

検出遺構
・奈良時代：掘立柱建物５
・奈良時代～中世：土坑５．溝１


2．調査区全景（東から）

出土遺物　遺物はおもに建物跡柱穴、土坑から土師器・須恵器等がコンテナケース約10箱出土した。また、滑石製管玉、黒曜石製打製石鏃等が柱穴及び包含層から出土している。

まとめ　奈良時代の掘立柱建物跡は１×１間のものを除いていずれも調査区外にのびるために規模は明確にできなかった。調査区西側に位置する南北棟の建物跡は２×５間以上の規模で柱穴掘方も一辺約１mの大型のものである。これは、第88次調査で確認された同時代の大型建物跡群が、より金屑川に近い台地東側斜面にも拡がっていることを表わし、台地中央部に拡がるこの期の建物・倉庫跡群とのつながりや消長を考える上で深い関わりをもつものであろう。

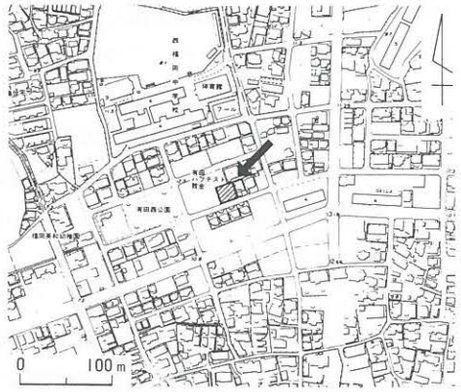
土坑は円形・楕円形・方形と様々の形状であり、時期も明確なものはないが、西北隅にある一辺２m以上の大型の方形のものは掘立柱建物跡よりも新しいものである。

8750　有田（ありた）遺跡第133次（ART－133）

所 在 地　早良区有田一丁目32-4　　**調査面積**　443m²　開発面積　480m²
調査原因　専用住宅建設　　**担 当 者**　山崎龍雄．小林義彦
調査期間　880126～880331　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、有田台地でもっとも高い面上にある（標高14m）。調査区一帯は調査が進んでいるところで、弥生時代前期の環濠や古墳時代前期から後期にかけての集落、古墳時代後期から奈良時代にかけての大型掘立柱建物群が検出されている。

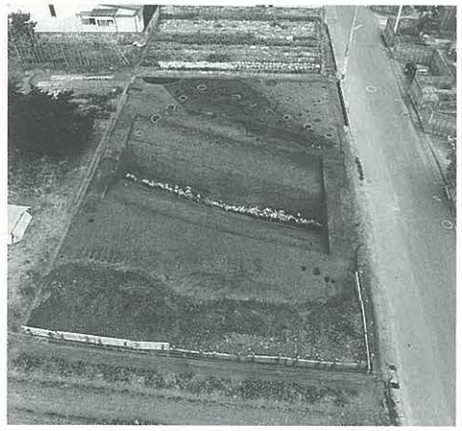
現状は畑地、表土下20～30cmで遺構面の鳥栖ローム層になる。遺構面は西側がやや削平を受けており、おもに東側から遺構が検出された。



1．調査地点の位置（082-A-1．1：8,000）

検出遺構
・弥生時代前期：溝１
・古墳時代前期：竪穴住居址１
　　後期：柵状遺構１
・中世（戦国）：濠２．井戸１．土壙墓１

出土遺物　遺物はおもに、弥生時代の環濠、古墳時代の住居址、戦国時代の濠から出土した（コンテナ27箱）。古墳時代初頭の住居址から、庄内式～布留式に併行する土師器が一括して出土しており、また前面に赤色顔料が付着した磨石がある。ピットから黒色の石製勾玉１点が出土した。


2．調査区全景（西から）

まとめ　弥生前期の溝は、Ｖ字形の断面をなす。古墳前期の住居址は、弥生時代の溝上につくられている。いずれも主柱は２本、ベッド状遺構をもつ。溝上かかる床面はやや陥没していた。住居址の規模は、６×７ｍと大きい。同時期の住居址は第95、107、140次でも発見されており、この一帯に、弥生終末～古墳時代初頭の集落が広がっていたことが明らかになった。

戦国期の濠は、幅が10m、深さは２ｍ以上の２段掘りである。この濠は、台地最高所を郭状に巡り、その最大幅は200mにたっする。小田部城を構成する郭の一部であろう。

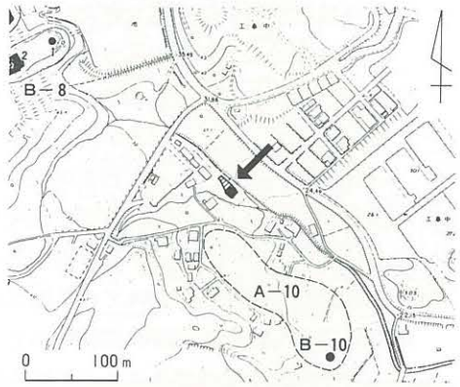
3．古墳時代前期竪穴住居址（東から）

8751　広石（ひろいし）古墳群Ⅷ群（HIK－8）
広石遺跡Ｅ地点（HIR－E）

所 在 地　西区野方地内　　**調査面積**　260m²
調査原因　河川改修　　**担 当 者**　山崎純男．田崎博之
調査期間　880201～880331　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本遺跡は、早良平野西縁を流れる、十郎川支流の野方川が開折する谷の中に位置する。谷の中には、幅の狭い尾根が、西から東へむかって延び、その先端付近に営まれている。調査地点の四周は、新旧の河川改修で削られて残丘地形となっている。

縄文時代中期と弥生時代後期～古墳時代前期の遺構、古墳時代後期の複室構造の横穴式石室を埋葬施設とする古墳を調査した。古墳時代前期以前の遺構は、古墳の墳丘下より広い範囲にひろがることから、これを広石遺跡群Ｅ地点、古墳を広石古墳群Ⅷ群１号墳と呼ぶこととした。



1．調査地点の位置（104．1：8,000）

検出遺構
・古墳時代後期：円墳１
・弥生終末～古墳前期：石棺墓７．
　　木棺墓３．土壙５
　　ピット16．
・縄文時代早期：土坑12．ピット６

出土遺物　出土遺物は数は少ないが、調査範囲が狭いわりに、多種におよぶ。Ⅷ－１号墳からは須恵器・土師器のほか、耳環、管玉、勾玉、ガラス小玉、鉄製Ｕ字形鋤先、鉄刀子、鉄刀、鉄鏃、馬具などがある。Ｅ地点の出土遺物は、縄文土器（押型文土器・条痕文土器ほか）、弥生土器、土師器、鉄器片がある。出土総量はコンテナ４箱である。

2．Ⅷ－１号墳（南から）

まとめ　今回の調査では、当初の予想をこえて重層する遺構群を検出した。とくに、縄文時代早期の土坑・ピット群は注目される。ただし、調査範囲が狭く、遺構の有機的なつながり、ひろがりを明確にできなかったのは残念であった。

3．下層遺構検出状況（西から）

8752　吉武遺跡第12次（YST－12）

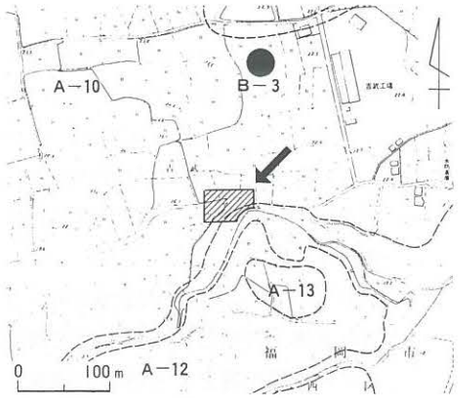
所 在 地　西区大字吉武地内　　**調査面積**　1,000㎡　開発面積　36,000㎡
調査原因　水路建設　　**担 当 者**　力武卓治．常松幹雄
調査期間　880301～880331　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　飯盛・吉武遺跡については、５次にわたる圃場整備事業が60年度で完了した。その後、主に水田として利用されてきた圃場も、それぞれの基盤土をはじめとする諸条件から暗渠排水路を必要とする部分が持ちあがった。

工事対象区のうち、これまでの圃場整備事業によって記録保存という形で消失してしまった部分や、今回の排水路の掘り込みよりも、深い位置で遺構が保たれている地区は文化財保護の上で問題の少ない部分である。

また、排水路の掘り込みの影響を受ける部分や受ける可能性のある部分については、幅30cmで深さが現地表面から深い部分で90cmの排水溝を、それ以上の規模で掘り下げるのは、かえって問題がある面もある。以上を考慮して、吉武大石遺跡として現状保存を行なっている部分について溝の位置を当課側で業者に示すための調査を行なうことにし、他は立会調査の形をとることになった。

検出遺構　現在吉武大石遺跡の保存箇所は、ほぼ一枚の水田の下にあたる。田面の南側が青銅器を保有する墓地群である。この水田は北側が給水路、そして南側が排水路になっているため、保存部分のほうが暗渠溝は深くなってしまう。そこで保存地区の中央で確認された古墳時代後期の溝に８ｍ間隔で敷設される４本の水路を集約させることにし、２年ぶりに溝を掘りあげることになった。遺構面の上には保存のために厚さ10cmほどに敷かれた真砂土がしっかりと覆われており、保存方法の有効性を確認することができた。また古墳時代の水路付近で、新たにコンテナに半分ほどの古墳時代後期の土器などを検出することができた。



1．調査地点の位置（093-Ａ-10．1：8,000）

2．吉武遺跡(大石地区）保存区全景(東から)

3．古墳時代の溝（東から）

8753　有田遺跡第134次（ART－134）

所 在 地　早良区有田二丁目12-3.4　　**調査面積**　406㎡　開発面積　433㎡
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　山崎龍雄．小林義彦
調査期間　880301～880331　　**処　　置**　調査後破壊

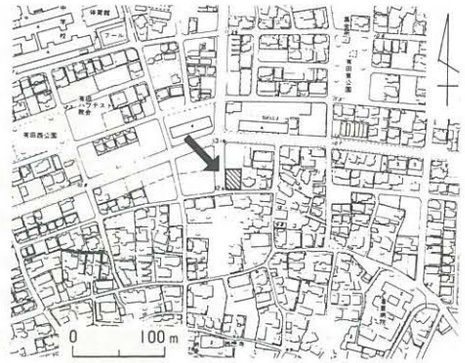
位置・環境　本調査区は、有田台地の最高所に位置し、標高約13ｍをはかる。調査区西側は第100次調査地点であり、弥生時代前期の竪穴住居址や土坑、古代から中世にかけての掘立柱建物が10数棟発見されている。調査区の現状は松林。

表土下20～30cmで明褐色の鳥栖ローム層となる。遺構は、攪乱や削平のため、あまりよくない。

検出遺構
- 弥生時代前期：溝１
- 古墳時代：溝１
- 中世：掘立柱建物４
- 中世～近世：溝３

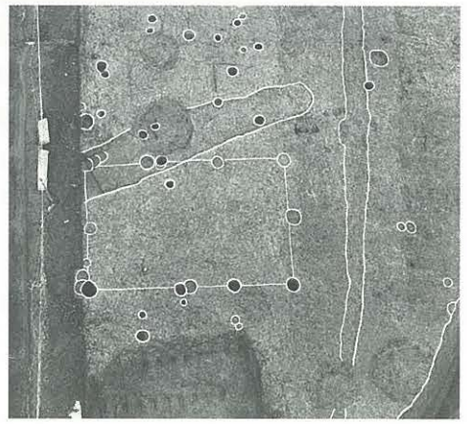
出土遺物　全体に遺物は少なく、コンテナに１箱程度である。おもに、弥生時代の溝と、中世の溝から出土している。弥生時代の溝からは、有溝石錘が出土した。

まとめ　調査区全体が削平をうけているいるため、検出された遺構も少ないが、弥生時代の溝は、調査区一帯では初めての発見である。掘立柱建物の掘り方は、円形で、直径が20～30cmと小さく、おそらく中世の時期のものと思われる。



1．調査地点の位置（082-Ａ-1．1：8,000）

2．調査区全景（西から）


3．ＳＢ01（西から）

8754　有田（ありた）遺跡第135次（ART－135）

所 在 地　早良区小田部一丁目361　　**調査面積**　145㎡　開発面積　293㎡
調査原因　専用住宅建設　　**担 当 者**　山崎龍雄．小林義彦
調査期間　880307～880324　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、八ツ手状に拡がる有田・小田部台地の北側に突出する舌状部の基部に位置し、西側には浅い谷が切り込んでいる。標高は8.5m。

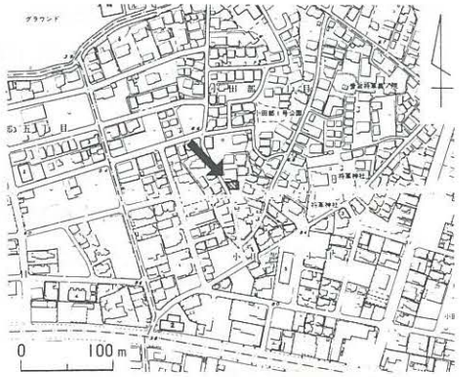
現状は宅地。表土下約15～30cmで遺構面を検出したが、削平を受けているために遺物包含層はない。

検出遺構　・古代：掘立柱建物４．溝１．土坑１

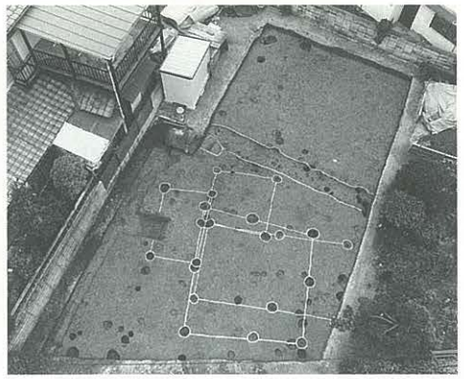
出土遺物　遺構の主体が柱穴群であるために遺物は少ない。コンテナ１箱。

まとめ　調査区の中央を幅約１m、深さ約20mの溝が南北に横断する。この溝を境として台地が高まる東側は著しい削平を受けているために遺構はほとんどなく、掘立柱建物跡群・土坑等は西側に集中する。掘立柱建物跡（SB-01～04）は、1×１間２棟、１×２間１棟、２×２間１棟の計４棟で、いずれも重複関係にあり、同時期に存在したものではなく、建替え等によるものであろう。また、掘立柱建物跡群に東に接して位置する溝との関係も明確ではない。

本調査区周辺部の調査でも、古墳時代から奈良時代の竪穴住居址や掘立柱建物跡等が多数検出されており、本調査区例を合わせると小田部台地における集落址の展開過程の一端をかいまみることができよう。



1．調査地点の位置（082-A-1．1：8,000）


2．調査区全景（西から）

昭和62（1987）年度調査遺跡索引（五十音順）

遺跡名	次数	調査番号	P.
〔ア行〕			
有田（ありた）遺跡	119次	8701	16
有田遺跡	120次	8705	20
有田遺跡	121次	8706	21
有田遺跡	122次	8707	22
有田遺跡	123次	8712	27
有田遺跡	124次	8713	28
有田遺跡	125次	8719	34
有田遺跡	125次	8724	39
有田遺跡	127次	8729	44
有田遺跡	128次	8730	45
有田遺跡	129次	8735	49
有田遺跡	130次	8739	53
有田遺跡	131次	8742	56
有田遺跡	132次	8749	63
有田遺跡	133次	8750	64
有田遺跡	134次	8753	67
有田遺跡	135次	8754	68
板付（いたづけ）遺跡	H-5d	8737	51
板付遺跡	H-8・9	8711	26
今宿五郎江（いまじゅく　ごろうえ）遺跡	3次	8728	43
入部（いるべ）遺跡	1次	8748	62
浦田（うらた）遺跡	1次	8716	31
太田（おおた）遺跡	3次	8745	59
〔カ行〕			
鴻臚館（こうろかん）跡	4次	8747	61
〔サ行〕			
四箇（しか）遺跡	22次	8723	38
四箇遺跡	23次	8744	58
重留（しげとめ）窯跡		8715	30
重留古墳群	C-2号	8704	19
鋤崎（すきざき）古墳群	A群	8726	41
〔タ行〕			
高畑（たかばたけ）遺跡	13次	8702	17
〔ナ行〕			
那珂（なか）遺跡	9次	8703	18
那珂遺跡	10次	8727	42
那珂遺跡	11次	8732	47
那珂遺跡	12次	8733	47
那珂遺跡	13次	8736	50
名切谷（なきりだに）遺跡		8710	25
西新町（にしじんまち）遺跡	4次	8718	33
野方（のかた）古墳群	D群	8738	52
野間（のま）B遺跡	1次	8708	23
野間B遺跡	2次	8731	46
〔ハ行〕			
博多（はかた）遺跡	36次	8725	40
博多遺跡	37次	8740	54
羽根戸（はねど）古墳群	E群	8746	60
比恵（ひえ）遺跡	17次	8717	32
広石（ひろいし）遺跡	C地点	8734	48
広石遺跡	D地点	8721	36
広石遺跡	E地点	8751	65
広石（ひろいし）古墳群	VI群	8721	36
広石古墳群	VII群	8734	48
広石古墳群	VIII群	8751	65
〔マ行〕			
丸隈山（まるくまやま）古墳	3次	8741	55
峯（みね）遺跡	1次	8743	57
女原（みょうばる）遺跡	4次	8720	35
〔ヤ行〕			
湯納（ゆのう）遺跡	9次	8709	24
吉武（よしたけ）遺跡	11次	8714	29
吉武遺跡	12次	8752	66
〔ワ行〕			
脇山（わきやま）A遺跡	2次	8722	37

附　昭和62年（1987）度刊行報告書一覧

（　）内は、報告された遺跡の調査番号

第173集　「有田・小田部第９集」（8007、8211、8212、8213、8512、8515、8611、8624、8657、8707）

第174集　「比恵遺跡群(8)」（8616、8635、8637、8617、8636、8717）

第175集　「井尻Ｂ遺跡」（8610）

第176集　「博多遺跡群第33次調査」（8611）

第177集　「博多遺跡群第35次調査」（8648）

第178集　「重留遺跡」（8704、8715）

第179集　「井相田Ｃ遺跡Ⅱ」（8625）

第180集　「羽根戸遺跡」（8526、8529）

第181集　「南八幡遺跡」（8652）

第182集　「立花寺古墳群」（8627）

第183集　「博多―都市計画道路博多駅築港線関係埋蔵文化財調査報告Ⅰ」（8224）

第184集　「博多―都市計画道路博多駅築港線関係埋蔵文化財調査報告Ⅱ」（8331）

第185集　「長峰遺跡」（8642）

第186集　「都地・金武城田遺跡」（8322、8344）

第187集　「吉武遺跡群―野方金武線建設に伴う文化財の調査―」（8642）

第188集　「羽根戸原Ｃ遺跡群Ⅲ」（8526）

第189集　「戸原麦尾遺跡(1)」（8403）

第190集　「柏原遺跡群Ⅴ」（7951、8045、8152、8154、8345、8346、8347）

第191集　「柏原遺跡群Ⅵ」（8346）

第192集　「田村遺跡Ⅴ」（8408）

第193集　「高速鉄道関係埋蔵文化財調査報告Ⅶ」（7833、7835、7949、8037、8148、8149、8150、8342、8435）

「福岡市埋蔵文化財年報　－1986年度－」

福岡市埋蔵文化財年報 Vol. 2
―昭和62年(1987)年度―

発行日　1989年３月30日

編集・発行　福岡市教育委員会埋蔵文化財課
〒810 福岡市中央区天神一丁目8-1
TEL.（092）711－4667
FAX.（092）711－4600（教育委員会）

印　　刷　秀巧社印刷株式会社

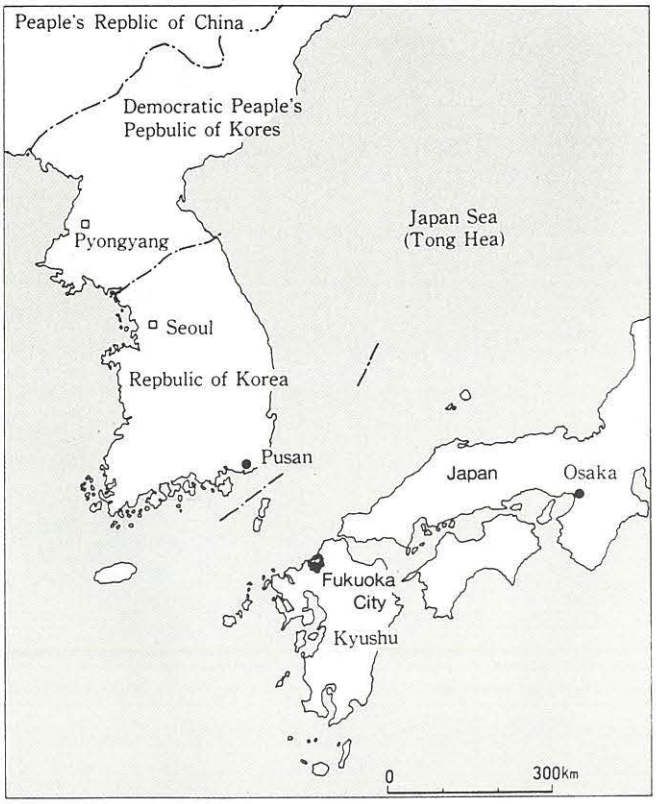
THE ANNUAL REPORT

OF THE

BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

Volume 2

1987



THE BOARD OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

March 1989

Japan